

f i t シリーズ

オンラインマニュアル

プリンターLANカード (PR-LN1-H)

富士通アイソテック株式会社

【表記について】

本マニュアルでは、操作に関して以下の表記を使用します。また、安全に正しくお使いいただくための表示については、「安全に正しくお使いいただくために」の項を参照してください。



注意

..... 操作上の注意や、機能に対する制限事項などが記述されています。
正しい操作を行えるように必ずお読みください。



参考

..... 本製品の操作時に、ご参考いただける内容が記述されています。
マニュアル本文とあわせてお読みください。



-
- ・本マニュアルに表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なる場合があります。
 - ・本マニュアルに記載された仕様、その他については改良のため変更することがあります。
 - ・Microsoft、Windows、Windows Server、は米国 Microsoft Corporation および/またはその関連会社の商標または登録商標です。
 - ・その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。その他の各製品は、各社の著作物です。

安全に正しくお使いいただくために




本製品を正しく、安全にご使用いただくために、以下の各項を熟読したうえでお取扱ください。尚、ここに記載されている内容は、機器の安全な取り扱いのほかに、操作者の安全についての一般的な事柄をまとめたものです。また、本書には弊社製品だけでなく、弊社製品を組み込んだプリンターに関する注意事項も記載しています。ご使用の前に必ずお読みください。

■警告表示について

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の絵表示を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	{○内に斜線}で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。



警告



分解禁止

- 本製品を分解したり、改造したりしないでください。
本製品の点検・調整・修理は販売店に依頼してください。



電源プラグを抜く

- 衝撃を与えないでください。万一、衝撃を与え、破損した場合は、プリンター本体の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

そのまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。



禁止

- 本製品に接続しているコード類、ケーブル類には、子供が手を触れないよう十分ご注意ください。感電、ケガのおそれがあります。



電源プラグを抜く

- 本製品を取り外しするときは、必ずプリンター本体の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。



感電注意

- 感電防止のため、プリンター本体のアース線は、コンセントのアース端子または、D種（旧：第3種）接地工事を行っている接地端子に必ず接続してください。ガス管や水道管、電話線のアース、避雷針等には、絶対に接続しないでください。



警告



電源プラグを抜く

■異常があった場合は、すぐにプリンター本体の電源を切り、電源プラグを抜いた後、電源コードをコンセントから抜いてください。そして販売店に修理・点検を依頼してください。そのまま使用すると火災、感電、故障のおそれがあります。

- ・異常に発熱していたり、煙が出ている、異臭がする場合
- ・異物（金属片や液体等）が本製品の内部に入った場合



注意



禁止

■プリンター本体の電源プラグを抜く際は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

■本製品は以下のような場所で使用したり保管しないでください。故障の原因になることがあります。

- ・ 振動や衝撃が加わる場所
- ・ 傾いたり不安定な場所
- ・ 直射日光のあたる場所
- ・ 湿気やほこりの多い場所
- ・ 水気の多い場所（台所、浴室等）
- ・ 熱を発生する物の近く（ストーブやヒーター等）
- ・ 温度差の激しい場所
- ・ 強い磁力電波が発生するものの近く（磁石、ラジオ、無線機等）



厳守

■本製品の使用前には、すべてのコード類、ケーブル類が正確でかつ安全に接続されていることを確認してください。



注意



電源プラグを抜く

- 本製品を移動させる場合は、必ずプリンター本体の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。



電源プラグを抜く

- 連休等で長期間本製品をご使用にならない場合は、安全のため必ず本製品を装着しているプリンター本体の電源プラグを抜いてください。

目次

安全に正しくお使いいただくために

目次

はじめに	1
本製品の導入	2
本製品の導入と設定	3
本製品の設定ユーティリティー	4
ファームウェアアップロードツールについて	5
パケットドライバーのインストールについて	6
アップロードツールについて	8
本製品の導入と設定（管理者編）	9
本製品の設定（クライアント編）	9
本製品の詳細設定/設定変更/管理を行う	10
第1章 PR-LN1-Hについて	1-1
PR-LN1-Hの特長	1-1
動作環境	1-2
機器の説明	1-3
各部の名称と働き	1-3
ディップスイッチの操作	1-4
取り付け方法	1-9
fit7650Pro-H/fit7850Pro-Hに本製品を取り付ける	1-9
fit3250-Hに本製品を取り付ける	1-11
ネットワークに接続する	1-12

取り外し方法	1-13
fit7650Pro-H/fit7850Pro-Hから本製品を取り外す	1-13
fit3250-Hから本製品を取り外す	1-15
セキュア(SSL)通信印刷機能/IPフィルター機能 ／セキュリティレベル設定機能	1-16
第2章 User Software について	2-1
User SoftwareをWindowsで使用する	2-1
セットアップについて	2-2
第3章 Windows 環境で使用する	3-1
Windows 環境からTCP/IPで印刷する	3-1
パソコンのネットワーク設定を確認する	3-3
Quick Setupによる簡単設定	3-5
PR-Port Monitorをインストールする	3-9
印刷ポートを追加する	3-13
プリンターポートの設定項目	3-25
Windows 標準の印刷クライアント機能で印刷する	3-26
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPで印刷する	3-26
Standard TCP/IP ポートで印刷する	3-32
LPRポートで印刷する	3-39
IPPポートで印刷する	3-44
第4章 UNIX/Linux環境で使用する	4-1
IPアドレスの設定	4-2
ARPによる設定	4-2
RARPによる設定	4-3
BOOTPによる設定	4-4
hostsファイルの設定	4-5
LPDを使用した印刷	4-6
HI-UXの環境で使用する	4-7
Solaris環境で使用する	4-9
HP-UX 9. x/10. x環境で使用する	4-13
AIX 4. x. x環境で使用する	4-20

BSD系UNIXの環境で使用する	4-22
Linux環境で使用する	4-24
FTPを使用した印刷	4-28
印刷する	4-29
状態を確認する	4-31
第5章 設定に関する機能	5-1
プロトコルと設定項目	5-1
AdminManagerで設定する	5-3
AdminManagerを起動する（インストールせずに直接CD-ROMから起動する場合）	5-4
AdminManagerをインストールする（インストールしてから使用する場合）	5-6
AdminManagerで本製品を検索する	5-9
AdminManagerの機能	5-10
AdminManagerで本製品の設定を行う	5-13
プリントサーバーの設定	5-13
Webブラウザで設定する	5-25
本製品のWebページを表示する	5-26
TELNETで設定する	5-28
Webブラウザ/TELNET設定項目	5-29
プリントサーバー機能	5-29
E-Mail受信（POP）	5-37
E-Mail送信（SMTP）	5-39
その他の設定（Another）	5-40
SSL証明書作成（Webページからのみ設定可能）	5-41
第6章 Popup Status Monitor	6-1
Popup Status Monitorについて	6-1
Popup Status Monitorの起動	6-1
Popup Status Monitorの表示	6-2
オプション設定ダイアログ	6-4
第7章 こんなときは	7-1
使用上の注意事項および制限事項について	7-1
導入時の問題	7-6

印刷時の問題	7-13
Windows TCP/IP環境での問題	7-20
付録 PR-LN1-H	8-1
ハードウェア仕様	8-1
ソフトウェア仕様	8-2
IPv6機能について	8-3
IPv6とは?	8-3
利用方法	8-5
E-Mail警告通知機能(SMTP)	8-7
E-Mail印刷機能(POP)	8-10
セキュリティレベル設定機能	8-13
セキュア通信印刷機能について	8-14
WebブラウザやTelnetでSSLの設定を行う	8-14
WebブラウザでSSL証明書の設定を行う	8-16

はじめに

このたびは、本製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。
本マニュアルは、本製品の設定およびご利用方法を記載したものです。正しく安全にお使いいただくために、ご熟読ください。また、複数製品共通のマニュアルとなっておりますので、ご使用になる製品の仕様と一部異なる箇所があります。使用できるプリンターの機種については、システム構成図、カタログ等で確認してください。

本文中の略語について

製品名称	本マニュアルでの表記	
Windows® 11 Enterprise	Windows	11
Windows® 11 Education		
Windows® 11 Pro		
Windows® 11 Home		
Windows® 10 Enterprise (64ビット版/32ビット版)	10	10
Windows® 10 Education (64ビット版/32ビット版)		
Windows® 10 Pro (64ビット版/32ビット版)		
Windows® 10 Home (64ビット版/32ビット版)		
Windows® 8.1 Enterprise (64ビット版/32ビット版)	8.1	8.1
Windows® 8.1 Pro (64ビット版/32ビット版)		
Windows® 8.1 (64ビット版/32ビット版)		
Microsoft® Windows Server® 2022 Datacenter	2022	2022
Microsoft® Windows Server® 2022 Standard		
Microsoft® Windows Server® 2022 Essentials		
Microsoft® Windows Server® 2019 Datacenter	2019	2019
Microsoft® Windows Server® 2019 Standard		
Microsoft® Windows Server® 2019 Essentials		
Microsoft® Windows Server® 2016 Datacenter	2016	2016
Microsoft® Windows Server® 2016 Standard		
Microsoft® Windows Server® 2016 Essentials		
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter	2012 R2	2012 R2
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard		
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Essentials		
Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter	2012	2012
Microsoft® Windows Server® 2012 Standard		
Microsoft® Windows Server® 2012 Essentials		
Microsoft® Internet Explorer		
Adobe® Acrobat® Reader	Adobe Reader	
Adobe® Reader		

本製品の導入

本製品の導入手順について説明します。ご利用の環境にあわせた手順で本製品をネットワークに接続し、ご利用のプリンターをネットワークプリンターとしてお使い頂くことができます。本製品の導入手順に従って、本マニュアルの関係する章を参照しながら、導入を進めてください。

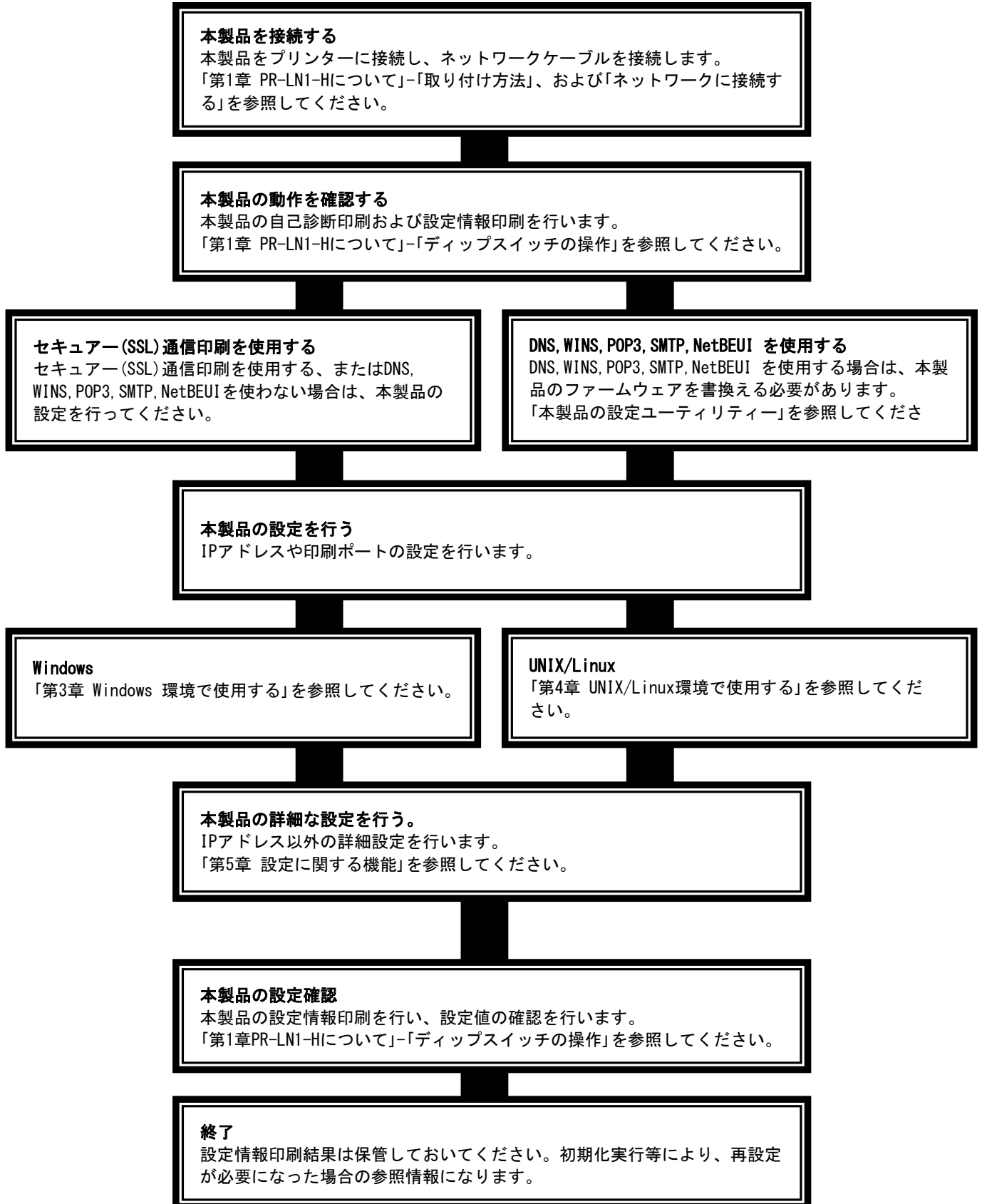


注意

- ・ご利用の環境によっては、以下で説明している導入手順と異なる場合があります。
- ・ご使用のパソコンに、あらかじめプリンタードライバーをインストールしてください。

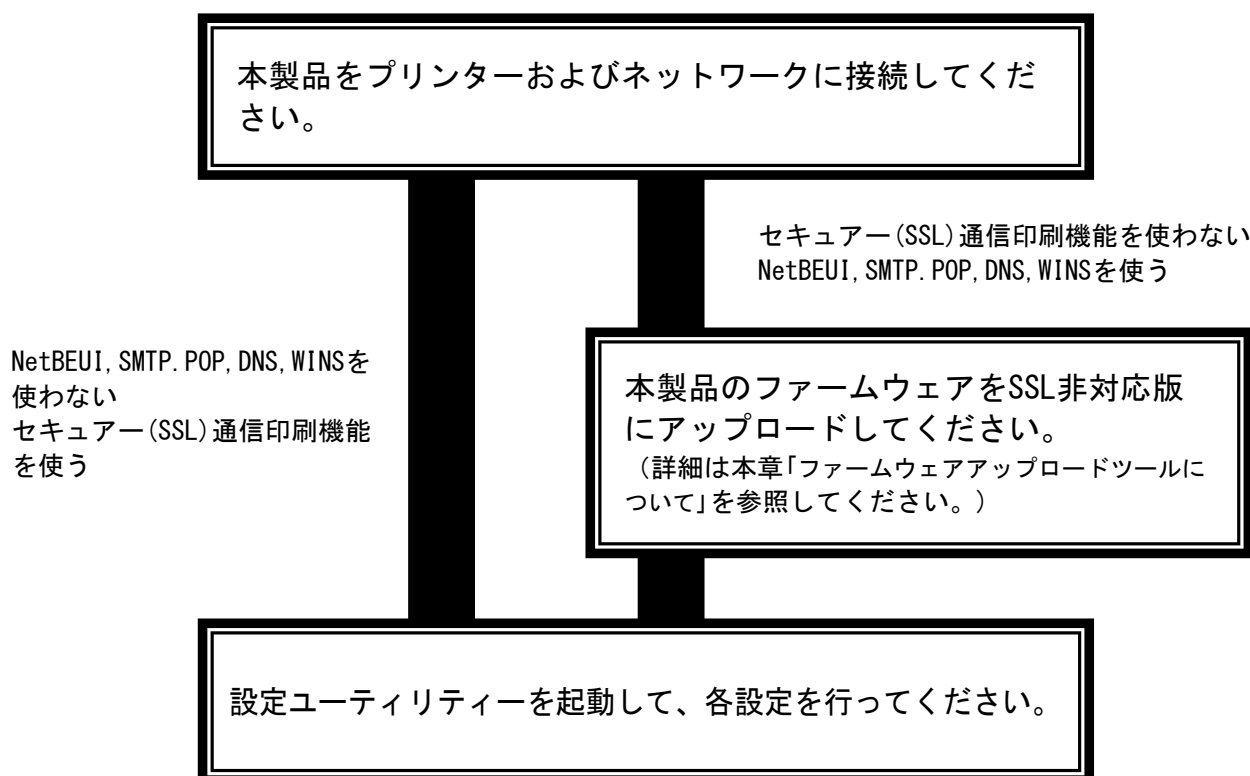
本製品の導入と設定

本製品の導入と設定手順について説明します。



本製品の設定ユーティリティー

本製品は、セキュア（SSL）通信印刷機能が使用可能な状態で提供しており、NetBEUI, SMTP, POP, DNS, WINSはサポートしていません。お客様がこれら機能を使用している場合は、ファームウェアアップロードプログラムから、本製品のファームウェアを書き換える必要があります。お客様のご利用環境にあわせてファームウェアを変更してください。なお、セキュア（SSL）通信印刷とNetBEUIは同時には使用できません。ご注意ください。本製品のセットアップ方法の手順は以下の通りです。

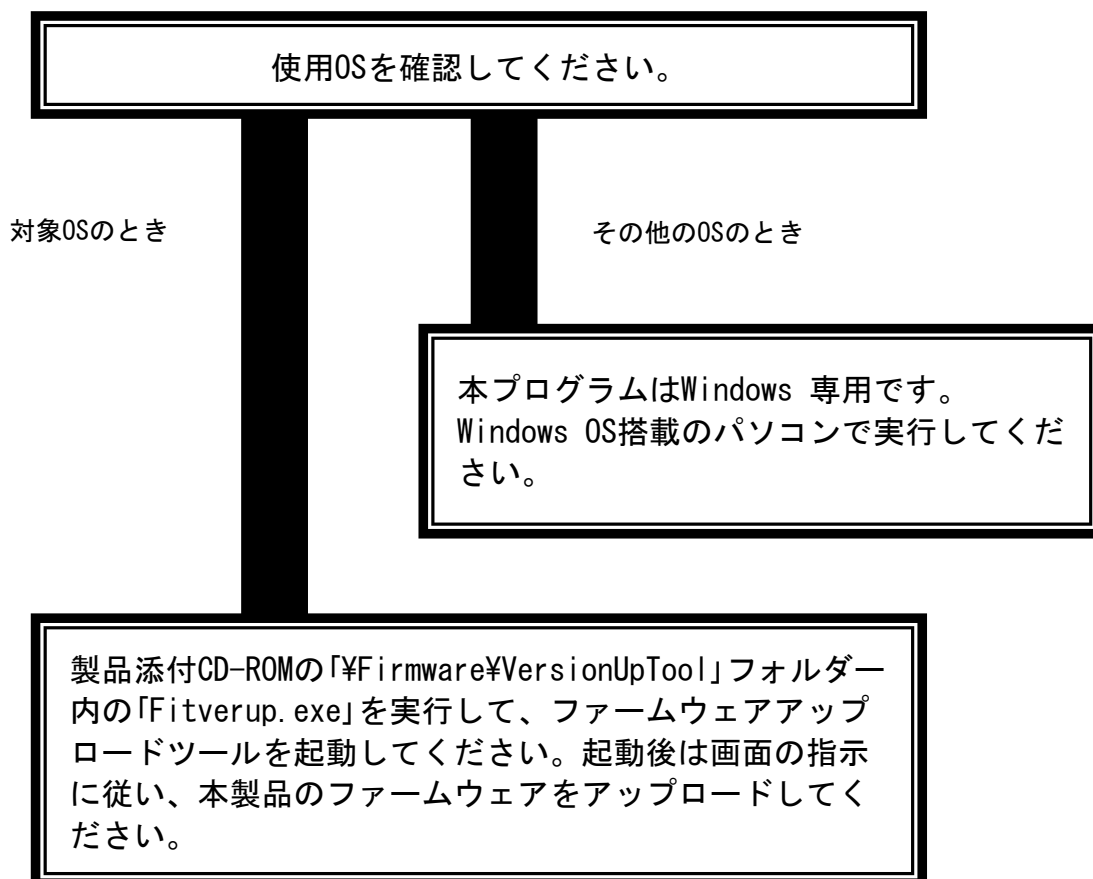


本製品の設定が行える設定ユーティリティーは以下の通りです。ご利用の環境にあわせて設定ユーティリティーをご利用ください。

設定ツール	Quick Setup	本製品の初期導入を行う（推奨）	第3章
	Advanced Setup	本製品の詳細設定および設定変更、管理を行う	第5章
	PR-Port Monitor	印刷クライアントソフトとPopup Status Monitorをインストールする	第3章

ファームウェアアップロードツールについて

製品添付CD-ROMの「¥Firmware¥VersionUpTool」フォルダー内にファームウェアアップロードツールを収録しています。以下の手順に従い、セットアップをしてください。



注意

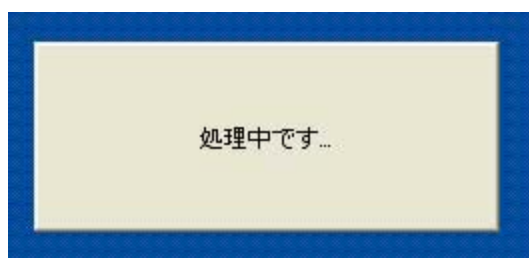
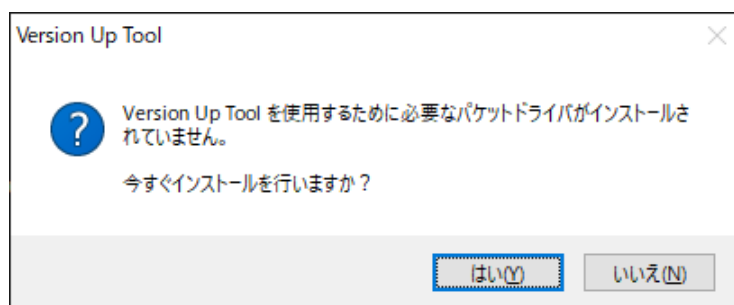
- ・ ファームウェアのアップロードを行う前に、設定情報印刷を実施してください。
- ・ ファームウェアのアップロード中(転送中)は電源を切らないでください。
- ・ ファームウェアのアップロードを行う際は、パソコンのファイアウォールの設定を一時的に無効にしてください。ファイアウォールの設定が有効になっていると、本製品を検出できなかったり、アップロード作業が正常終了しない場合があります。
- ・ アップロード途中でエラー終了した場合は、電源を切らず、再度アップロードをしてください。
- ・ ファームウェアのアップロード中(転送中)は、印刷起動、設定情報の書き換え等を行わないでください。
- ・ ネットワークの状況(高負荷状態等)によっては、アップロード処理中にエラーになる場合があります。安全・確実にアップロード作業を行うために、クロスケーブルで本製品とパソコンを直結することを推奨します。
- ・ ファームウェアのアップロードにより、設定情報値がクリアされることはありません。ただし、設定項目が追加される場合、元の設定情報値がないため、本来の初期値と異なる値が設定され、動作に影響を及ぼすことがあります。アップロード終了後は、必ず初期化を実行してから、各種設定を再設定してください。

パケットドライバーのインストールについて

本ツールを動作させるためにパケットドライバーをインストールします。不要になればアンインストールすることもできます。なお、パケットドライバーのインストール・アンインストールは管理者権限でないと実行できません。

●インストール

パケットドライバーがインストールされていない場合、本ツールを起動すると、下記の画面を表示します。「はい (Y)」を選択するとパケットドライバーのインストールが開始されます。

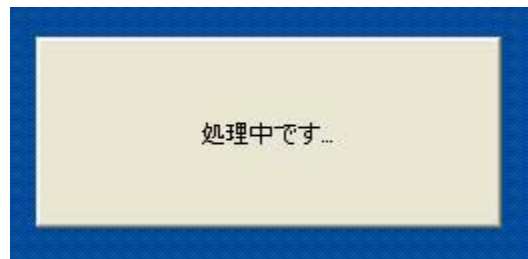
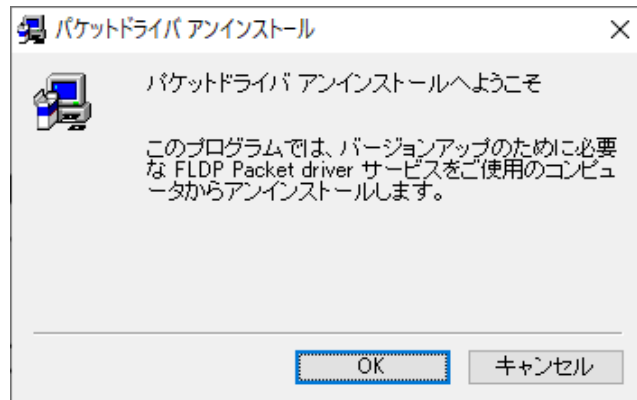


正常にインストールが完了すると、本ツールが起動します。

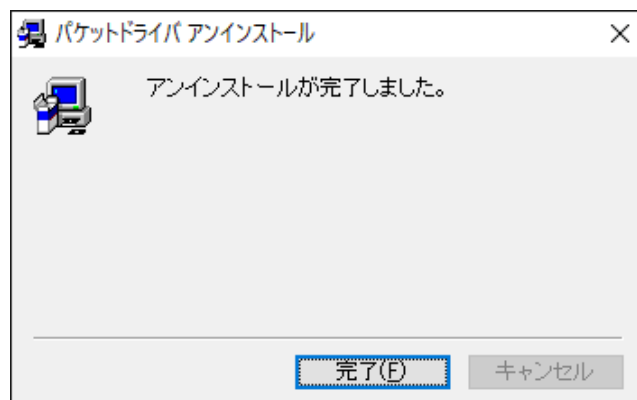
●アンインストール

CD-ROMの「¥Firmware¥VersionUpTool¥Pd¥Uninstall¥PDUNINST.exe」を実行してください。アンインストール開始画面が表示されます。「はい(Y)」ボタンを押すと、アンインストールを開始します。

(アンインストール処理に時間がかかることがあります。)



正常にアンインストールが完了すると、アンインストール完了画面が表示され、「完了」ボタンを押すと、プログラムは終了します。



アップロードツールについて

ファームウェアアップロードツールが起動すると、本製品の検索とファームウェアのアップロード準備および本製品へのファームウェアのアップロードを開始します。画面の指示に従って操作をしてください。



注意

- ・ ファームウェアのアップロードを行う前に、設定情報印刷を実施してください。
- ・ ファームウェアのアップロード中(転送中)は電源を切らないでください。
- ・ ファームウェアのアップロードを行う際は、パソコンのファイアウォールの設定を一時的に無効にしてください。ファイアウォールの設定が有効になっていると、本製品を検出できなかったり、アップロード作業が正常終了しない場合があります。
- ・ アップロード途中でエラー終了した場合は、電源を切らず、再度アップロードをしてください。
- ・ ファームウェアのアップロード中(転送中)は、印刷起動、設定情報の書き換え等を行わないでください。
- ・ ネットワークの状況(高負荷状態等)によっては、アップロード処理中にエラーになる場合があります。安全・確実にアップロード作業を行うために、クロスケーブルで本製品とパソコンを直結することを推奨します。
- ・ ファームウェアのアップロードにより、設定情報値がクリアされることはありません。ただし、設定項目が追加される場合、元の設定情報値がないため、本来の初期値と異なる値が設定され、動作に影響を及ぼすことがあります。アップロード終了後は、必ず初期化を実行してから、各種設定を再設定してください。

本製品の導入と設定（管理者編）

本製品の導入と設定手順について説明します。

STEP1 取り付け	本製品をプリンターとネットワークに接続する	第1章
STEP2 設定	Windows 環境で本製品を使用する。	第3章
	Unix/Linux環境で本製品を使用する。	第4章
STEP3 設定の確認	設定項目の一覧を表示し、設定の確認を行う	第5章

本製品の設定（クライアント編）

本製品の設定手順について説明します。

STEP1 設定	Windows 環境で本製品を使用する。	第3章
	Unix/Linux環境で本製品を使用する。	第4章
STEP2 設定の確認	設定項目の一覧を表示し、設定の確認を行う	第5章

本製品の詳細設定/設定変更/管理を行う

本製品の詳細設定/設定変更/管理を行う総合ユーティリティー AdminManager のご利用方法について説明します。

設定に関する機能	AdminManagerで設定する	第5章
	Webブラウザで設定する	

第1章 PR-LN1-Hについて

本章では、製品の動作環境や概要、ネットワークへの接続方法について説明します。

PR-LN1-Hの特長

- ・セキュア(SSL)通信印刷対応 (ファームウェアバージョン Ver. 2.4.0以降で対応)
- ・10BASE-T、100BASE-TX対応 (自動認識)
- ・ポップアップステータスマニター「Popup Status Monitor」搭載
- ・簡単設定のQuick Setup
- ・HTTP搭載でWebブラウザからの設定も可能
- ・総合ユーティリティー「AdminManager」標準添付
- ・統合クライアントソフトウェア「PR-Port Monitor」標準添付
- ・E-Mail送受信機能搭載
- ・Windowsへの対応強化
 - NetBIOS over TCP/IPを搭載。Windows 環境でプロトコル追加インストールを行うことなく、NetBIOSによる印刷環境を構築できます。
- ・セキュリティ対策 (ファームウェアバージョン Ver. 2.4.0以降で対応)
 - ネットワークプリンターのセキュリティ対策として、セキュア(SSL)通信印刷機能、セキュリティレベル設定機能およびIPフィルター機能搭載。
 - ・セキュア(SSL)通信印刷機能は、インターネットで個人情報などを入力する際に、盗聴やなりすまし防止に利用される通信方式(SSL)を使用した、一般化されたセキュリティ機能を使用しています。このSSLを使用し、印刷を行う際に印刷データを暗号化、プリントサーバーで復号化する機能を実装しています。
 - ・IPフィルター機能は、IPアドレスレベルでPR-LN1-Hへのアクセスを制限する機能です。特定範囲のIPアドレスからのアクセスを禁止、または特定範囲のIPアドレスのみのアクセスを許可することでプリンターを予期せぬアクセスから保護します。
 - ・セキュリティレベル設定機能は、設定したプロトコル以外のアクセスを排除する機能です。
- ・WINS (Windows Internet Name Service) 環境への対応
 - WINSサーバーのある環境下において、NetBIOS名のIPアドレス解決情報をWINSサーバーに登録する機能を搭載しました。
- ・DDNS (Dynamic Domain Name System) 機能搭載
 - PR-LN1-HのIPアドレスをDDNS機能搭載のDNSサーバーに通知する機能を搭載。これにより、PR-LN1-HがDHCPサーバーより動的にIPアドレスを獲得した場合にも、即座にDomain Name Systemに反映され、ドメイン名とIPアドレスの不整合を防ぐことができます。
- ・ポップアップステータスマニター機能搭載
 - プリンターの状態をパソコン画面に表示してお知らせする、ポップアップステータスマニター機能を搭載。

動作環境

● ネットワークに接続するために必要な機器

ネットワークケーブル（100BASE-TX環境ではカテゴリ 5以上）

イーサネットハブ

プリンター本体

● 対応プロトコル / 対応Windows オペレーティングシステム

< PR-LN1-H >

対応プロトコル : TCP/IP、NetBEUI

対応Windows オペレーティングシステム : Windows 8.1, Windows Server 2012
Windows 10, Windows Server 2012 R2
Windows 11, Windows Server 2016
Windows Server 2019
Windows Server 2022



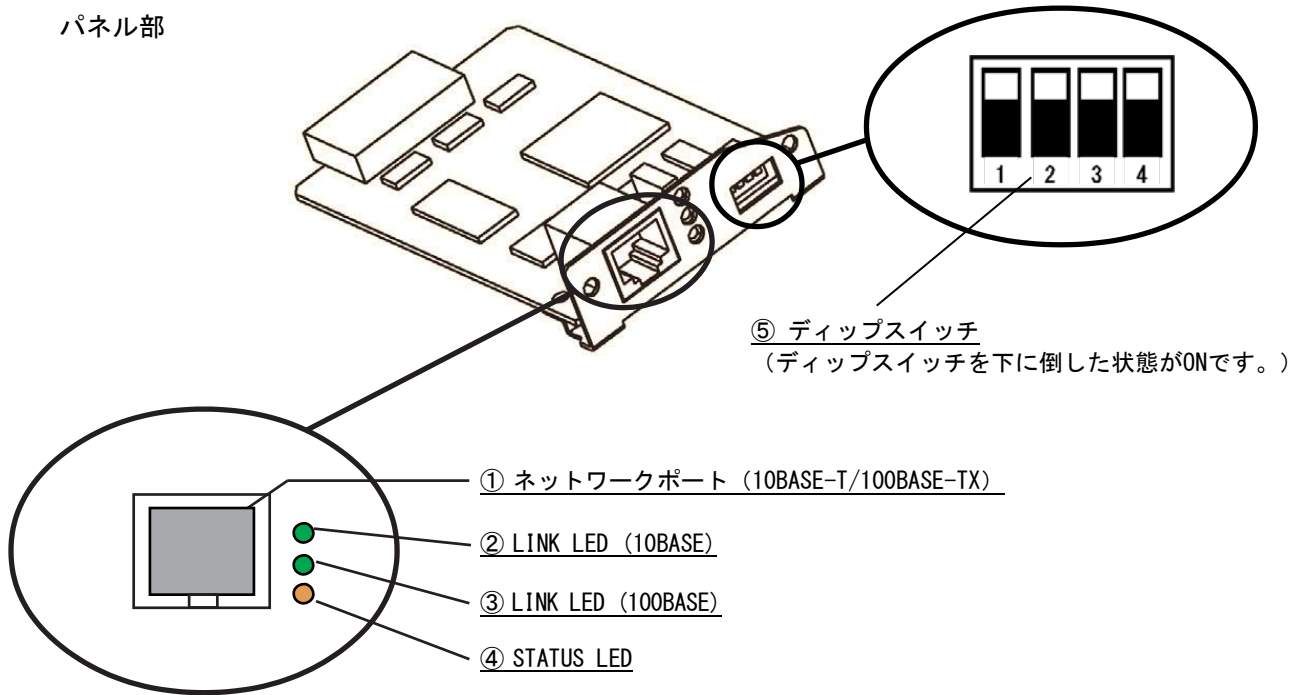
注意

- ・ ルーターを超えての接続（WAN接続等）では使わないでください。
- ・ LANカードを取り付けた場合、パラレルインターフェイスおよびUSBインターフェイスとの同時接続はできません。

機器の説明

各部の名称と働き

パネル部



- ①ネットワークポート (10BASE-T/100BASE-TX 自動認識)
ネットワークケーブルを接続します。(100BASE-TX 環境では、カテゴリ5以上)
- ②LINK LED 10BASE (緑)
10BASE-T でネットワーク接続が確立されると、点灯します。
- ③LINK LED 100BASE (緑)
100BASE-TX でネットワーク接続が確立されると、点灯します。
- ④STATUS LED (橙)
通信中は、点滅します。
- ⑤ディップスイッチ
各スイッチを操作することで、本製品の工場出荷設定および自己診断印刷を行うことができます。

	スイッチ	
	OFF	ON
1	通常	-
2	通常	設定情報の初期化
3	通常	設定情報印刷
4	通常	自己診断印刷

ディップスイッチの操作



- ・ディップスイッチを操作する際は、必ずプリンターの電源をOFFにしてください。
- ・自己診断の結果にNGがある場合は、「第7章 こんなときは」に従って対処してください。

● 設定情報を初期値に戻す

1. プリンターの電源を切り、ディップスイッチの2番を ON にしてください。
2. プリンターの電源を ON にしてください。設定値の初期化はプリンターが起動してから約5秒で完了します。
3. プリンターの電源を切り、ディップスイッチ2番を OFF に戻してください。

● 設定情報の印刷を行う

1. プリンターの電源を切り、ディップスイッチの3番を ON にしてください。
2. プリンターの電源を ON にしてレディ状態になると、設定情報印刷を開始します。設定情報印刷ではA4サイズ以上の用紙を使用してください。
3. プリンターの電源を切り、ディップスイッチの3番を OFF に戻してください。

※ 設定情報印刷結果（例）で設定値に“*”を表示しているものは、設定変更をしても値は表示されません。本項目の工場出荷時設定については、「第5章 設定に関する機能」を参照してください。また、本製品の設定を変更した場合は、変更した設定値を管理するようにしてください。

● 自己診断印刷を行う

1. プリンターの電源を切り、ディップスイッチの4番を ON にしてください。
2. プリンターの電源を ON にしてレディ状態になると、自己診断印刷を開始します。設定情報印刷ではA4サイズ以上の用紙を使用してください。
3. プリンターの電源を切り、ディップスイッチの4番を OFF に戻してください。



IPアドレスを設定するときに、本製品のEthernetアドレスを確認する必要があるので、自己診断印刷を行い、印刷結果のEthernetアドレスを確認してください。

● SSL対応版ファームウェア (Ver 2.4.0以降) 設定情報印刷結果 (例)

PR-LN1-H Version 2.8.0
All Rights Reserved, Copyright (C) 2017 FUJITSU ISOTEC LIMITED.

```

*** Configuration report ***
<< Configure General >>
  Change root Password      :*****
  LAN Interface             :AUTO
  Printer Name              :"fit7850pro-H"
<< Configure TCP/IP >>
  DHCP/BOOTP                :DISABLE
  RARP                      :DISABLE
  IP Address                 :0.0.0.0
  Subnet Mask                :0.0.0.0
  Gateway Address           :0.0.0.0
  Use FTP/LPD Banner        :NO
<< Configure TCP/IP - IP Filter Config >>
  Filter Mode                :DENY
  Filter #0 Start Address   :0.0.0.0
  Filter #0 End Address     :0.0.0.0
  Filter #1 Start Address   :0.0.0.0
  Filter #1 End Address     :0.0.0.0
  Filter #2 Start Address   :0.0.0.0
  Filter #2 End Address     :0.0.0.0
  Filter #3 Start Address   :0.0.0.0
  Filter #3 End Address     :0.0.0.0
<< Configure TCP/IP - Security Configuration >>
  LPR                       :ENABLE
  RAW                      :ENABLE
  IPP                      :ENABLE
  HTTP                     :ENABLE
  HTTPS                    :ENABLE
  TELNET                   :ENABLE
  FTP                      :ENABLE
  SNMP                     :ENABLE
  Setup Protocol (JCP)     :ENABLE
<< Configure SNMP >>
  Authentic Community       :*****
  Trap Community            :"public"
  Trap Address(IP)         :0.0.0.0
  SysContact                :""
  SysName                  :""
  SysLocation              :""
  EnableAuthenTrap         :2
<< Configure Print Port >>
  BOJ String                :""
  EOJ String                :""
  BOJ String(sjis/auc)     :""
  EOJ String(sjis/auc)     :"%f"
  Printer Emulation        :ESC/P
  TAB Size(char.)          :8
  Page Width(char.)        :0
  Page Length(line)        :0
<< Configure Another >>
  Print Trap Community      :"public"
  Print Trap Address        :0.0.0.0
  PE/Reboot                :DISABLE
<< Configure Secure Print >>
  Secure Print              :ENABLE
  SSL Mode                  :level1
  
```

で囲んでいる設定値は、設定を変更しても設定情報印刷結果には印刷しません。

変更した場合は、設定値を管理してください。



注意



参考

- ・ 本設定情報印刷結果はSSL対応版の印刷結果です。
- ・ 設定情報印刷により、本製品の設定が確認できます。本製品を設定する際にご活用ください。
- ・ 設定値に"*"が表示されているものは、設定変更をしても値を表示しません。本項目の工場出荷時設定については、「第5章 設定に関する機能」を参照してください。
- ・ 本製品の設定を変更した場合は、変更した設定値を管理するようにしてください。

● SSL非対応版ファームウェア (Ver 1.6.0以降) 設定情報印刷結果 (例)

```
PR-LN1-H Version 1.8.0
All Rights Reserved, Copyright (C) 2017 FUJITSU ISOTEC LIMITED.
```

```
*** Configuration report ***
<< Configure General >>
  Change root Password      : "*****"
  LAN Interface             : AUTO
  Printer Name              : "fit7850Pp-H"
<< Configure TCP/IP >>
  TCP/IP Protocol           : ENABLE
  DHCP/BOOTP               : DISABLE
  RARP                      : DISABLE
  IP Address                : 0.0.0.0
  Subnet Mask               : 0.0.0.0
  Gateway Address           : 0.0.0.0
  Use FTP/LPD Banner        : NO
  IPv6 Function             : DISABLE
  NetworkPnP Enable        : ENABLE
<< Configure TCP/IP - DNS >>
  Primary Server            : 0.0.0.0
  Secondary Server          : 0.0.0.0
<< Configure TCP/IP - POP >>
  POP Protocol              : DISABLE
  Check Interval(min.)     : 15
  Local Time Zone           : "+09:00"
<< Configure TCP/IP - POP - User Profile 1 >>
  User Profile              : DISABLE
  POP Server Name           : ""
  POP Port Number           : 110
  POP User Name             : ""
  POP Password              : "*****"
  Use APOP                  : NO
  Delete Mail after Retrieve : NO
  Maximum Retrieve(KByte)  : 0
  Filter Setting            : ""
  Return a read receipt    : NO
<< Configure TCP/IP - POP - User Profile 2 >>
  User Profile              : DISABLE
  POP Server Name           : ""
  POP Port Number           : 110
  POP User Name             : ""
  POP Password              : "*****"
  Use APOP                  : NO
  Delete Mail after Retrieve : NO
  Maximum Retrieve(KByte)  : 0
  Filter Setting            : ""
  Return a read receipt    : NO
<< Configure TCP/IP - POP - User Profile 3 >>
  User Profile              : DISABLE
  POP Server Name           : ""
  POP Port Number           : 110
  POP User Name             : ""
  POP Password              : "*****"
  Use APOP                  : NO
  Delete Mail after Retrieve : NO
  Maximum Retrieve(KByte)  : 0
  Filter Setting            : ""
  Return a read receipt    : NO
<< Configure TCP/IP - POP - User Profile 4 >>
  User Profile              : DISABLE
  POP Server Name           : ""
  POP Port Number           : 110
  POP User Name             : ""
  POP Password              : "*****"
  Use APOP                  : NO
```

で囲んでいる設定値は、設定を変更しても設定情報印刷結果には印刷しません。

変更した場合は、設定値を管理してください。

```

Delete Mail after Retrieve      :NO
Maximum Retrieve(KByte)       :0
Filter Setting                  :""
Return a read receipt          :NO
<< Configure TCP/IP - SMTP >>
SMTP Protocol                   :DISABLE
SMTP Server Name                :""
From Address                    :""
<< Configure TCP/IP - SMTP - Event to Address1 >>
To Address                      :""
Check Interval(min.)           :10
Offline                         :OFF
Paper Empty                     :OFF
Fault                           :OFF
<< Configure TCP/IP - SMTP - Event to Address2 >>
To Address                      :""
Check Interval(min.)           :10
Offline                         :OFF
Paper Empty                     :OFF
Fault                           :OFF
<< Configure TCP/IP - SMTP - Advanced >>
SMTP Port Number                :25
Signature Line1                 : "-----"
Signature Line2                 : " PR-LN1-H"
Signature Line3                 : "[00:80:92:FC:85:00]"
Signature Line4                 : "-----"
<< Configure TCP/IP - SMTP - SMTP Authentication >>
SMTP AUTH Enable                :DISABLE
SMTP AUTH Name                  :""
SMTP AUTH Password              : "*****"
<< Configure TCP/IP - WINS >>
Primary Server                  :0.0.0.0
Secondary Server                :0.0.0.0
Scope ID                       :""
<< Configure TCP/IP - IP Filter Config >>
Filter Mode                     :DENY
Filter #0 Start Address         :0.0.0.0
Filter #0 End Address           :0.0.0.0
Filter #1 Start Address         :0.0.0.0
Filter #1 End Address           :0.0.0.0
Filter #2 Start Address         :0.0.0.0
Filter #2 End Address           :0.0.0.0
Filter #3 Start Address         :0.0.0.0
Filter #3 End Address           :0.0.0.0
<< Configure NetBEUI >>
NetBEUI Protocol                :ENABLE
NetBIOS over TCP                :ENABLE
Computer Name                   : "HIFC8500"
Workgroup                       : "HI-LAN-ADP"
Comment                         : "PR-LN1-H"
Browse Master                   :ENABLE
<< Configure SNMP >>
Authentic Community             : "*****"
Trap Community                  : "public"
Trap Address(IP)                :0.0.0.0
SysContact                      : ""
SysName                         : ""
SysLocation                     : ""
EnableAuthenTrap                :2
<< Configure Print Port >>
BOJ String                      : ""
EOJ String                      : ""
BOJ String(sjis/euc)            : ""
EOJ String(sjis/euc)            : "%f"
Printer Emulation               :ESC/P

```

で囲んでいる設定値は、設定を変更しても設定情報印刷結果には印刷しません。

変更した場合は、設定値を管理してください。

```

TAB Size(char.)           :8
Page Width(char.)        :0
Page Length(line)       :0
<< Configure Another >>
Print Trap Community     :"public"
Print Trap Address       :0.0.0.0
PE/Reboot                :DISABLE

```



注意



参考

- ・ 本設定情報印刷結果はSSL非対応版の印刷結果です。
- ・ 設定情報印刷により、本製品の設定が確認できます。
本製品を設定する際にご活用ください。
- ・ 設定値に"*"が表示されているものは、設定変更をしても値を表示しません。本項目の工場出荷時設定については、「第5章 設定に関する機能」を参照してください。
- ・ 本製品の設定を変更した場合は、変更した設定値を管理するようにしてください。

● 自己診断印刷結果（例）

```

PR-LN1-H Version 1.8.0
All Rights Reserved, Copyright (C) 2017 FUJITSU ISOTEC LIMITED.

*** Diagnostic report ***
ROM Check : OK Stat: 37D9 FFFF 0000 0000
RAM Check : OK Stat: 0000 0000 0000 0000
NIC Check : OK Addr: 00:80:92:FC:85:00 100BASE-TX [ 100Full]
EEPROM Check : OK Stat: 7D11 7D11 0000 0000

DIPSW1 : OFF(ON:Test use only)
DIPSW2 : OFF(ON:Initialize configuration)
DIPSW3 : OFF(ON:Configuration print)
DIPSW4 : OFF(ON:Diagnostic print)

IP Address : ██████████

```



注意

- ・ 自己診断印刷結果のRAM Check、ROM Check、NIC Check、EEPROM CheckにNGがある場合は「第7章 こんなときは」に従って対処してください。

取り付け方法

本製品は、fit7650Pro-H/fit7850Pro-H、fit3250-Hに取り付け可能です。

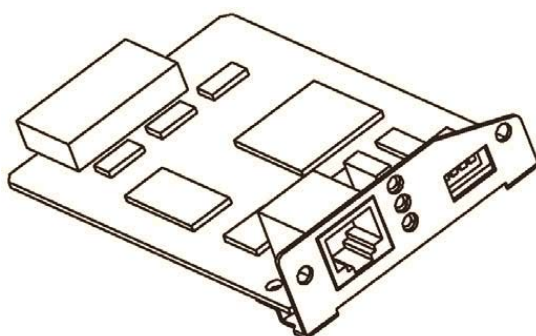
fit7650Pro-H/fit7850Pro-Hに本製品を取り付ける

ここでは、fit7650Pro-H/fit7850Pro-Hへの取り付け方法について説明します。



注意

- ・ ご利用になるプリンターによって取り付け方法、および取り付け位置が異なる場合があります。プリンターによって『取扱説明書』に取り付け方法等が記載している場合がありますので、ご参照ください。
- ・ 本製品を取り付ける際は、必ずプリンターの電源コードを外した状態で行ってください。
- ・ 本製品を一度でも他のネットワークで利用された場合は、必ず「設定情報を初期値に戻す」作業を行ってください。
- ・ 本製品はご購入状態では下図の形状です。
- ・ LANインターフェイス接続時にはパラレル/USBインターフェイスは使用できませんのでパラレル/USBケーブルを接続しないでください。

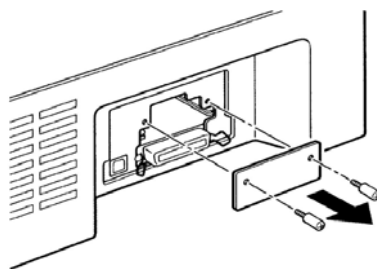


1. プリンター本体の電源をOFFにし、電源コードを外した後、プリンターのオプションインターフェイスカバーを外します。

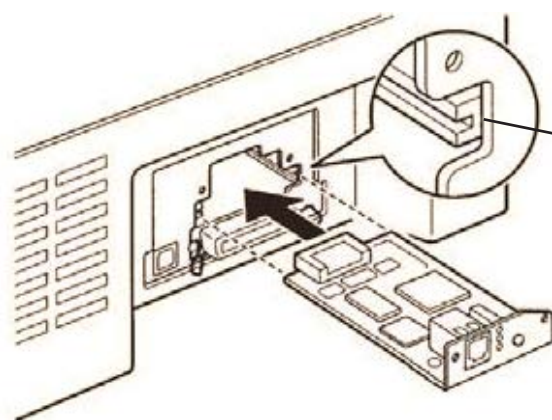


注意

- ・ 電源が入っている状態で本製品を取り付けると、故障の原因になることがあります。

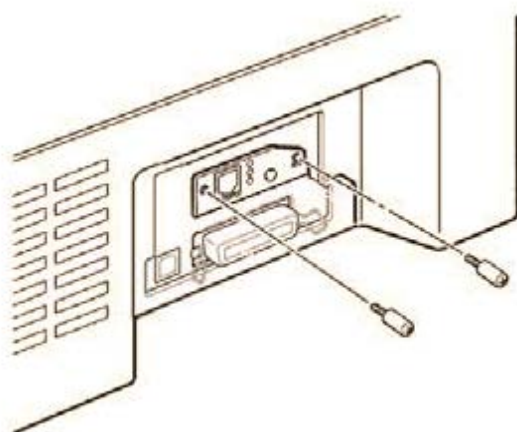


2. 取り付け口のガイドに従って、本製品を差し込み、固定ネジで取り付けます。



ガイド

LANカードがガイドの溝から外れないように挿入してください。



3. プリンターの電源がOFFになっていることを確認し、電源コードを差し込みます。



注意

- ・ プリンター本体の基板の一部が高温になっていることがあるので注意してください。また、故障の原因になるので基板には手を触れないでください。

fit3250-Hに本製品を取り付ける

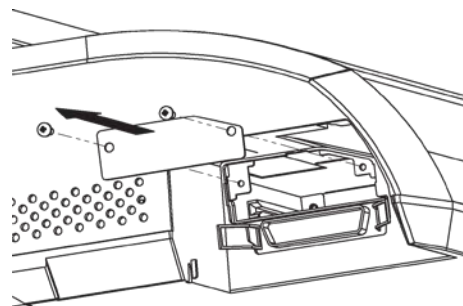
ここでは、fit3250-Hへの取り付け方法について説明します。

1. プリンター本体の電源をOFFにし、電源コードを外した後、プリンターのオプションインターフェイスカバーを外します。

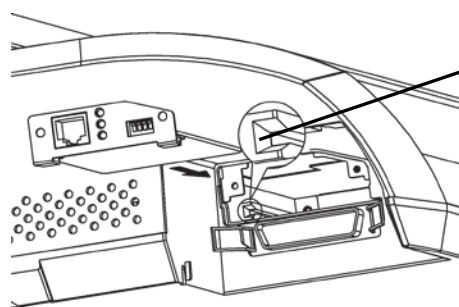


注意

- ・電源が入っている状態で本製品を取り付けると、故障の原因になることがあります。

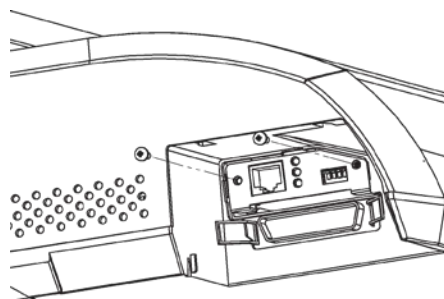


2. 取り付け口のガイドに従って、本製品を差し込み、固定ネジで取り付けます。



ガイド

LANカードがガイドの溝から外れないように挿入してください。



3. プリンターの電源がOFFになっていることを確認し、電源コードを差し込みます。



注意

- ・プリンター本体の基板の一部が高温になっていることがあるので注意してください。また、故障の原因になるので基板には手を触れないでください。

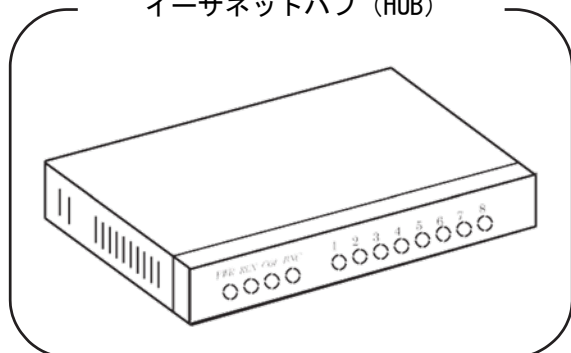
ネットワークに接続する

本製品をネットワークに接続するために、以下のものをご準備ください。



- ・ 100BASE-TX環境でお使いの場合は、100BASE対応のイーサネットハブ（HUB）とネットワークケーブル（カテゴリー5以上）をご用意ください。

イーサネットハブ（HUB）

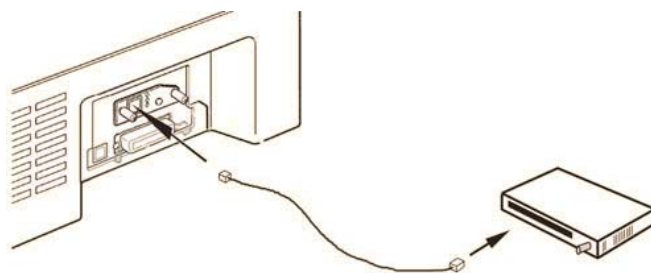


ネットワークケーブル



<ネットワークへの接続方法>

1. プリンターの電源が OFF になっていることを確認します。
2. 本製品のネットワークポート（10BASE-T/100BASE-TX）にネットワークケーブルを接続します。
3. イーサネットハブ（HUB）に、ネットワークケーブルのもう一方を接続します。
4. プリンターの電源を ON にし、本製品の LINK LEDが点灯することを確認します。
5. 本章「ディップスイッチの操作」を参照し、自己診断印刷結果と設定情報印刷を実施し、印刷結果に問題の無いことを確認してください。
6. 本製品の設定が完了したら、再度、本章「ディップスイッチの操作」を参照し、自己診断印刷結果と設定情報印刷を実施し、印刷結果を保管してください。本製品の設定方法については、「第2章 User Softwareについて」以降を参照してください。



取り外し方法

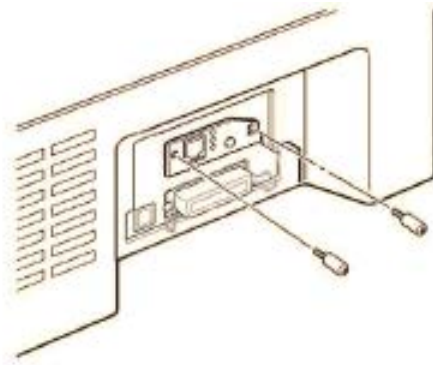


・ 本製品を取り外す際は、必ずプリンターの電源コードを外した状態で行ってください。

fit7650Pro-H/fit7850Pro-Hから本製品を取り外す

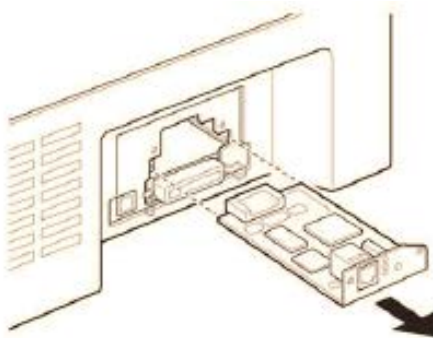
ここでは、fit7650Pro-H/fit7850Pro-Hからの取り外し方法について説明します。

1. プリンター本体の電源を OFF にし、電源コードを外した後、本製品の固定ネジを外します。

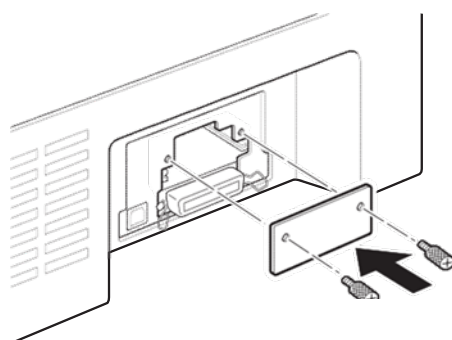


・ 電源が入っている状態で本製品を取り外すと、故障の原因になることがあります。

2. 前面ブラケットを持って本製品を取り外します。



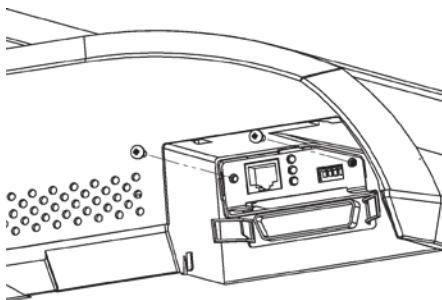
3. プリンターのオプションインターフェイスカバーを固定ネジで取り付けます。



fit3250-Hから本製品を取り外す

ここでは、fit3250-Hからの取り外し方法について説明します。

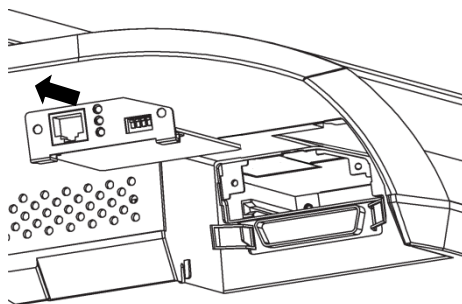
1. プリンター本体の電源を OFF にし、電源コードを外した後、本製品の固定ネジを外します



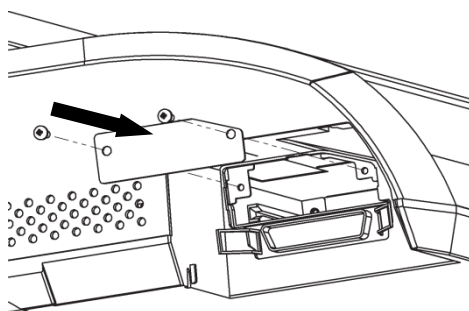
・ 電源が入っている状態で本製品を取り外すと、故障の原因になることがあります。

注意

2. 前面ブラケットを持って本製品を取り外します。



3. プリンターのオプションインターフェイスカバーを固定ネジで取り付けます。



セキュア（SSL）通信印刷機能／IPフィルター機能／セキュリティレベル設定機能

- ・セキュア（SSL (Secure Sockets Layer)）通信印刷機能を用いた暗号化と認証機能により、第三者による印刷データの盗用や改ざんを防ぐことができます。本製品では、特別な外部認証機関を利用することなく、本製品から簡単に証明書を発行することができます。
- ・本製品はIPフィルター機能により、IPアドレスのフィルタリングによる設定範囲外のIPアドレスからの通信を抑止する機能のほかに、セキュリティレベル設定機能により、通信可能プロトコルの設定ができます。そのため、不正IPアドレスからのアクセス、使用していないプロトコルによる通信を排除することができます。
- ・セキュア（SSL）通信印刷機能のサポートにより、SSL非対応版（バージョン1.5.0以前）に含まれていた機能の一部を非サポートとしました。これらの機能を使用する場合は、「本製品の設定ユーティリティ」を参照してください。
SSL対応/非対応によって、設定ユーティリティの画面が変わる場合があります。本書では、主にSSL対応版を使用したときの画面で説明しています。
- ・下表にSSL対応版と非対応版のサポート状況を示します。

● 対応プロトコル一覧		SSL対応版	SSL非対応版	備考
対応 プロ トコ ル	LPR	○	○	
	RAW	○	○	
	IPP	○	○	
	HTTP	○	○	
	HTTPS	○	×	
	TELNET	○	○	
	FTP	○	○	
	SNMP	○	○	
	NetBEUI	×	○	
	SMTP	×	○	
	POP	×	○	
	DNS	×	○	
	RARP	○	○	
	DHCP/BOOTP	○	○	
	Setup Protocol	○	○	

● 対応設定項目一覧		SSL対応版	SSL非対応版	備考	
設定項目	TCP-IP設定	DNS Server	×	○	
		WINS	×	○	
		IPv6	×	○	
		NetworkPnP	×	○	
		Security Level	○	×	
	NetBEUI	×	○	SSL対応版には本項目がありません	
	E-Mail (POP)	×	○		
	E-Mail (SMTP)	×	○		
	Secure Print	Secure Print	○	×	
		SSL Mode	○	×	
	SSL証明書作成	証明書情報設定	○	×	本設定はWebブラウザーからのみ設定できます
		有効期限設定	○	×	

第2章 User Software について

本章では、User Softwareについて説明します。

User Softwareには、本製品の設定ツールおよび総合ユーティリティー、マニュアルが収録されており、IPv4のWindows環境でご利用いただくことができます。



- ・ UNIX/Linux、NetWareでは、User Softwareはご利用になれません。
- ・ Macintoshには対応していません。
- ・ User Softwareは、Internet Explorer4.0(SP2)以降のブラウザ環境でご使用ください。
- ・ User Softwareは、IPv6環境には対応していません。

User SoftwareをWindowsで使用する

本製品付属のCD-ROM (User Software) をWindowsパソコンにセットすると、メインメニューが自動的に起動します。



- ・ Windowsの場合、トースト通知画面が表示されますので画面を選択して「AUTORUN.EXEの実行」を選択してください。
- ・ メニューが自動的に起動しない場合は、CD-ROMのルートディレクトリーにある 'Autorun.exe' を直接実行してください。



●お読みください

本CD-ROMについての注意事項や、本製品のお問い合わせ先等が記載されています。ご利用の前に必ずお読みください。

●セットアップ

本製品の設定ツール (Quick Setup、Advanced Setup) および統合クライアントソフトウェア (PR-Port Monitor) のインストールを行います。

●マニュアル

PDF形式のマニュアル (取扱説明書) です。

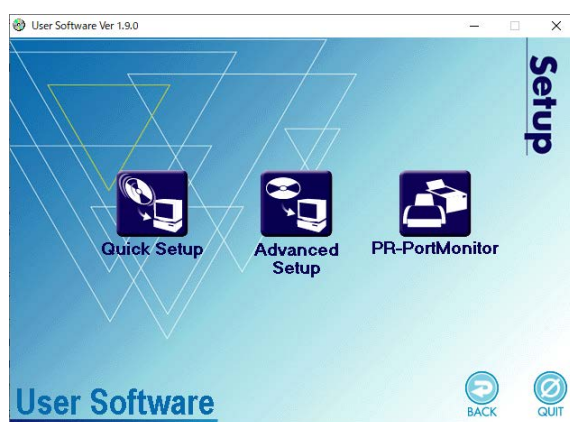
セットアップについて

メニュー画面の「Quick Setup」「Advanced Setup」「PR-Port Monitor」を選択すると本製品の設定ツールを選択する画面が表示されます。ご利用の設定方法を選択してください。



参考

- ・本製品の初期導入が完了している場合は、PR-Port Monitorをお使いのパソコンにインストールするだけで、本製品をご利用いただくことができます。
- ・ご利用のパソコンにセキュリティソフトウェアがインストールされていて、ファイアウォール機能が有効になっていると、Quick SetupおよびAdminManagerで本製品を検索できないことがあります。そのようなときは、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。



●Quick Setup（初期導入時推奨）

本製品の初期導入がウィザード形式で簡単に行えます。また、初期導入に引き続いて印刷クライアントソフトウェア PR-Port Monitor をインストールすることができます。本製品の初期導入を行う方に推奨します。

●Advanced Setup

総合ユーティリティ「AdminManager」を起動またはインストールします。

「AdminManager」は本製品の詳細設定と、本製品およびプリンターの管理を行うことができます。

●PR-Port Monitor

Windowsから直接印刷するための印刷クライアントソフトウェアとPopup Status Monitorをインストールします。LPR, RAW, IPPモードを選択できます。本製品で通常印刷を行う場合は、PR-Port Monitorで作成するLPRまたはRAWポートをご使用いただくことを推奨します。また、セキュア（SSL）通信印刷機能を利用した印刷を行う場合は、PR-Port Monitorで作成するIPPポートをご使用いただくことを推奨します。なお、セキュア（SSL）通信印刷機能使用するためのIPP (https) ポートを作成するには、PR-Port Monitor Ver. 2.4.0 以降を使用してください。



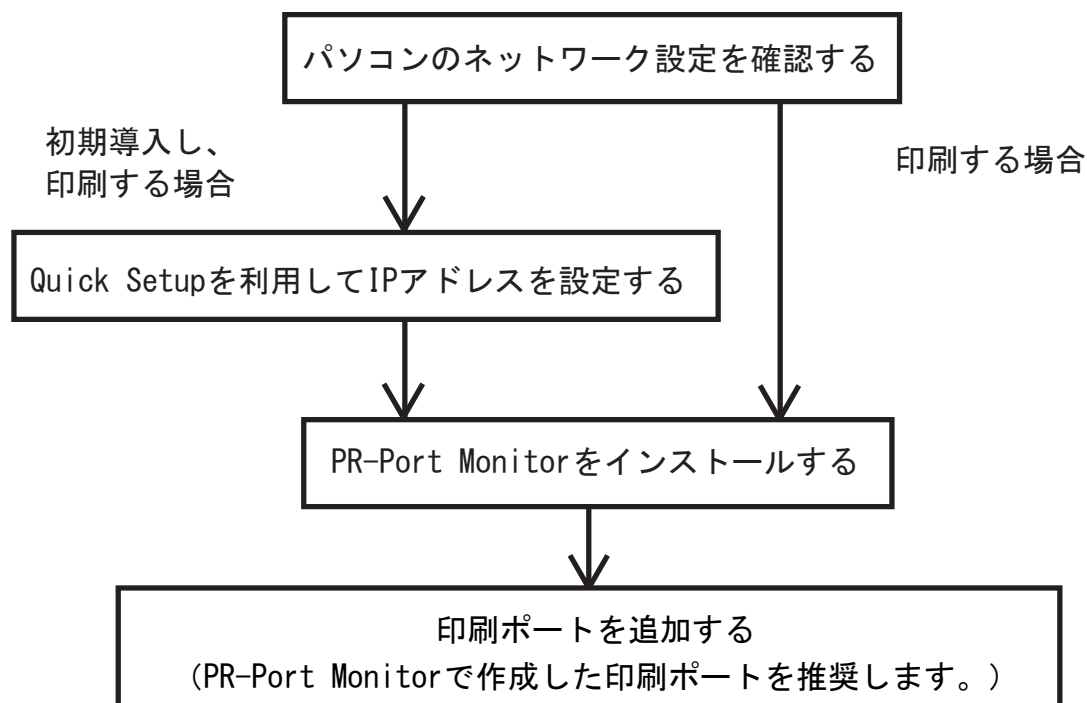
- ・ 「AdminManager」と「PR-Port Monitor」をアンインストールするときは、コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」から削除を行ってください。
「プログラムのアンインストール」は、「プログラムと機能」や「プログラムの追加と削除」など名称が異なる場合があります。お使いのWindows オペレーティングシステムの名称に読み替えてください。

第3章 Windows 環境で使用する

本章では、Windows 環境で本製品を接続して、TCP/IP、NetBEUI、および NetBIOS over TCP/IPで印刷を行う方法について説明します。

Windows 環境からTCP/IPで印刷する

本製品をTCP/IP プロトコルを利用して印刷する際は以下の通りです。





注意

- ・ あらかじめプリンタードライバをご使用のパソコンにインストールしてください
- ・ セキュア(SSL)通信印刷機能とNetBEUI/NetBIOS over TCP/IP等は、対応するファームウェアが異なるために同時使用はできません。
- ・ セキュア(SSL)通信印刷機能は、SSL対応版ファームウェアでサポートしています。SSL非対応版ファームウェアでサポートしている機能を利用する場合は、「本製品の設定ユーティリティー」をご参照ください。



参考

- ・ 本製品をご使用の際には、PR-Port Monitorで作成したLPRポートの使用を推奨します。
- ・ セキュア(SSL)通信印刷機能を利用した印刷を行う場合は、PR-Port Monitorで作成したIPPポートの使用を推奨します。
- ・ セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になるSSL証明書情報を本製品に設定する必要があります。設定方法については、「セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- ・ セキュア(SSL)通信印刷機能を使用して印刷をすると印刷データを暗号化します。そのため、第三者による印刷データの盗用や改ざんを防止することができます。
- ・ 本製品に付属しているユーティリティー「Popup status Monitor」は、PR-Port Monitorで作成するLPRまたはRAW何れかのポートでのみ動作します。本製品をご使用の際には、PR-Port Monitorで作成したLPRポートをご使用いただくことを推奨します。
- ・ 設定を行うには、Administrator権限が必要です。
- ・ 「ユーザーアカウント制御」の画面が表示された場合は、「はい」または「許可」を選択してください。
- ・ Windows の標準の印刷クライアントで印刷を行う場合は、本章中の「Windows 標準の印刷クライアント機能で印刷する」をご参照ください。

パソコンのネットワーク設定を確認する

[インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)]が追加されていることを確認します。
※お使いのWindowsによって画面、操作が異なる場合があります。

1. 「スタート」－「Windows システムツール」－「コントロールパネル」(*1)－「ネットワークとインターネット」－「ネットワークと共有センター」－「アダプター設定の変更」－「イーサネット」を選択します。

(*1) : コントロールパネルを開く方法を示します。

Windows 8.1/2016/2012 R2/2012 の場合、[Windows]キーを押しながら[X]キーを押し、画面左下に表示されるメニューから、[コントロールパネル]を選択します。

Windows 11 の場合、「スタート」画面の検索ボックスに「コントロールパネル」と入力し、検索結果から[コントロールパネル]を選択します。

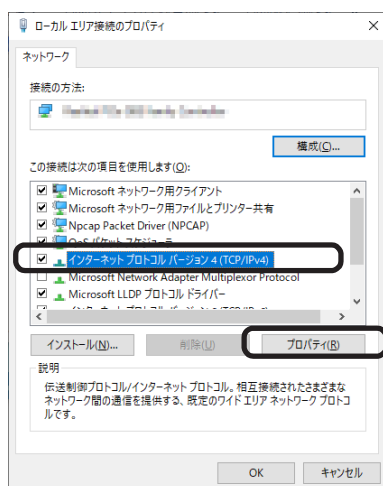
2. 「イーサネット」のプロパティを開きます。



注意

・ 「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されたときは、「はい」または「許可」を選択してください。

3. [インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)]が追加されていることを確認します。



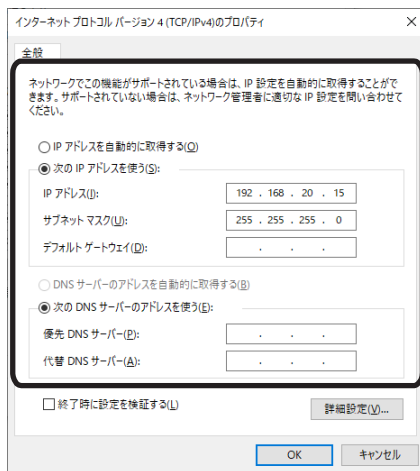
「プロパティ」をクリックします。



参考

・ [インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)]が一覧にない場合は「インストール」をクリックし、「ネットワーク機能の種類の選択」－「プロトコル」－[インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)]を選択、追加してください。

4. 「全般」で、ご使用の環境に合わせた設定が行われているか確認します。



Quick Setupによる簡単設定

1. 本製品付属のCD-ROM (User Software) を、Windows パソコンにセットすると、メインメニューが自動的に起動します。



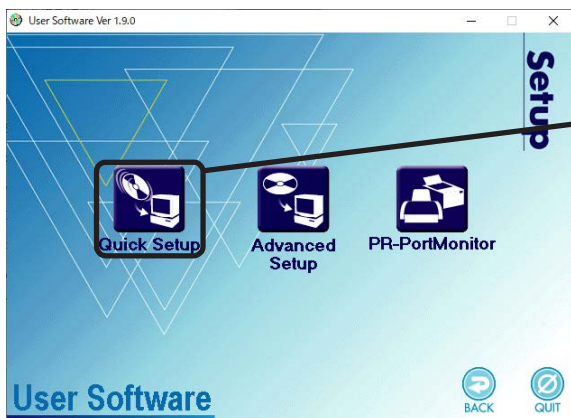
「セットアップ」をクリックします。



注意

- ・ Windows の場合は、トースト通知画面が表示されますので画面を選択して「AUTORUN.EXEの実行」を選択してください。

2. セットアップ方法の選択画面が開きます。



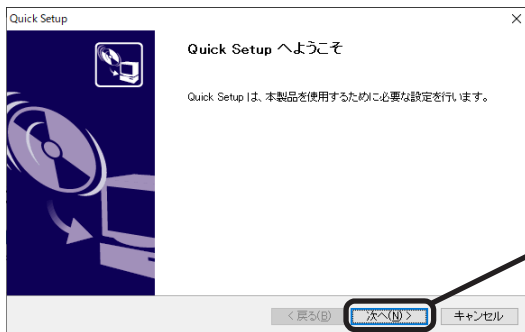
「Quick Setup」をクリックします。



注意

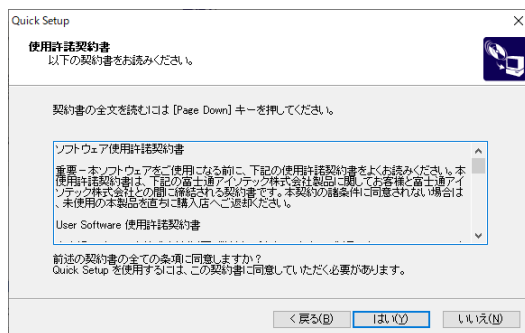
- ・ 「ユーザーアカウント制御」の画面が表示された場合は、「はい」または「許可」を選択してください。
- ・ 「このアプリケーションを使用するには、Windowsファイアウォールの例外リストに登録する必要があります。アプリケーションを例外リストに登録しますか？」のメッセージが表示されたら「はい」をクリックしてください。

3. Quick Setup が起動します。



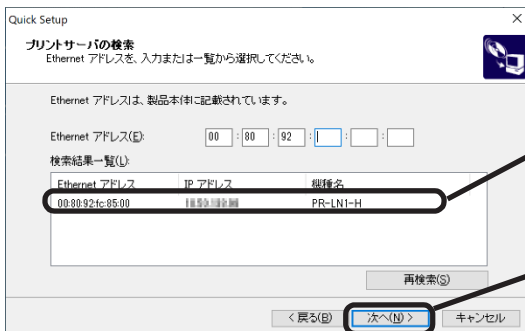
次へ をクリックします。

4. ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



はい をクリックします。

5. 本製品を選択します。



設定を行う本製品を選択します。

次へ をクリックします。



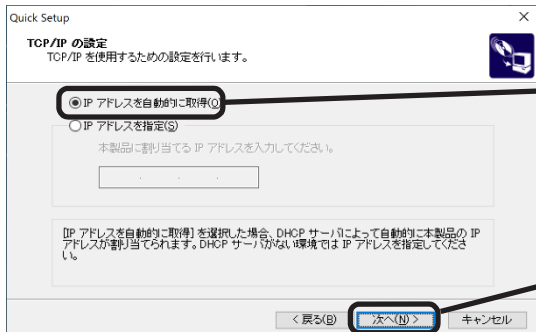
参考

- ・ Ethernetアドレスは、本製品のシール表示を確認してください。
- ・ 検索結果一覧に本製品が表示されていない場合は「再検索」をクリックしてください。Ethernetアドレスを直接入力することで本製品を選択することもできます。

6. IPアドレスを設定します。

＜ご使用の環境内にDHCPサーバーがある場合＞

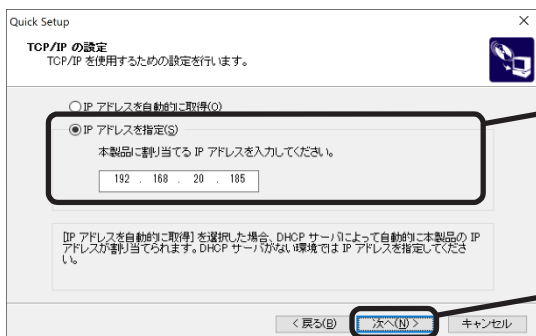
(A) DHCPサーバーから、IPアドレスを自動的に取得する



「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。

次へ をクリックします。

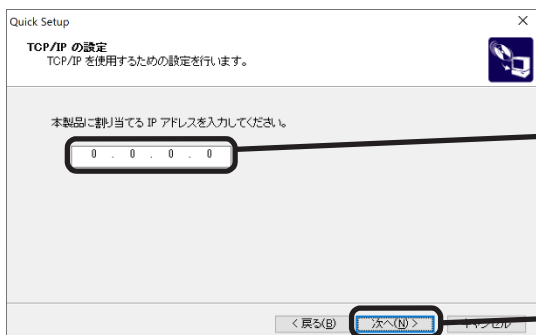
(B) 手でIPアドレスを設定する



任意のIPアドレスを設定することができます。

次へ をクリックします。

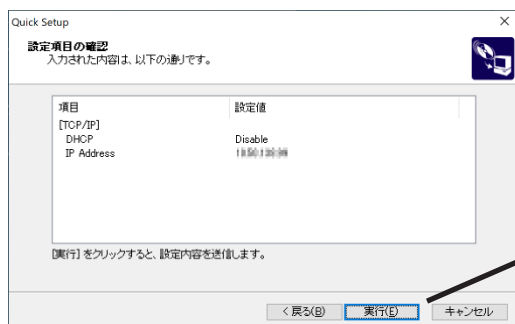
＜ご使用の環境内にDHCPサーバーが無い場合＞



任意のIPアドレスを指定します。

次へ をクリックします。

7. 設定項目を確認します。



実行 をクリックします。

8. 設定完了です。



「はい」を選択します。
既にPR-Port Monitorをインストール済みのお客様は「いいえ」を選択します。

完了 をクリックします。



参考

- 引き続きPR-Port Monitorをインストールします。PR-Port Monitorは、Windows から直接印刷を行うための印刷クライアントソフトウェアです。
- Windows 標準の印刷機能をご利用になる場合は、本章中の「Windows 標準の印刷クライアント機能で印刷する」をご参照ください。

PR-Port Monitorをインストールする

Windows 環境で、本製品を利用してTCP/IPプロトコルで直接印刷を行うために、本製品に付属しているPR-Port Monitorをご利用になることができます。

PR-Port Monitorは、LPR機能(弊社製品専用)、IPP機能、及びRawモード(TCP/IP 9100)機能をご利用いただける印刷クライアントソフトウェアと、Popup Status Monitorが収録されています。

インストールが完了すると、プリンターポート追加ウィザードが起動します。



参考

- ・ LPR (Line Printer Remote) 機能
ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のプリンターに印刷することができます。一般に広く使用されているプロトコルです。
- ・ IPP (Internet Printing Protocol) 機能
インターネットを経由して遠隔地のネットワークプリンターに印刷することができます。
また、本製品のファームウェアがSSL対応版 (Ver2.4.0以降) の場合は、セキュア通信 (SSL) 印刷機能を使用した印刷ができます。SSL印刷を使用する場合は、SSL証明書情報をIPPポート作成前に、予め本製品とパソコンに設定する必要があります。設定方法は、「セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- ・ Rawモード (TCP/IP 9100) 機能
ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のプリンターに印刷することができます。印刷データのスプールを行わずに高速に印刷することができます。
- ・ Popup Status Monitor
プリンターの状態をパソコン画面にポップアップして表示する便利なモニターです。
詳細は「第6章 Popup Status Monitor」をご参照ください。
- ・ プリンター本体に添付されているfitユーティリティ (fitリモートパネル) を使用する場合には、以下の条件で印刷ポートを作成してください。
 - PR-Port MonitorのLPRポートを作成する。(PR-Port MonitorのIPPポートは対応していません)
 - ポート名は、初期状態 (xxx.xxx.xxx.xxx:lp) とする。(xxx.xxx.xxx.xxxはIPアドレスを表します)

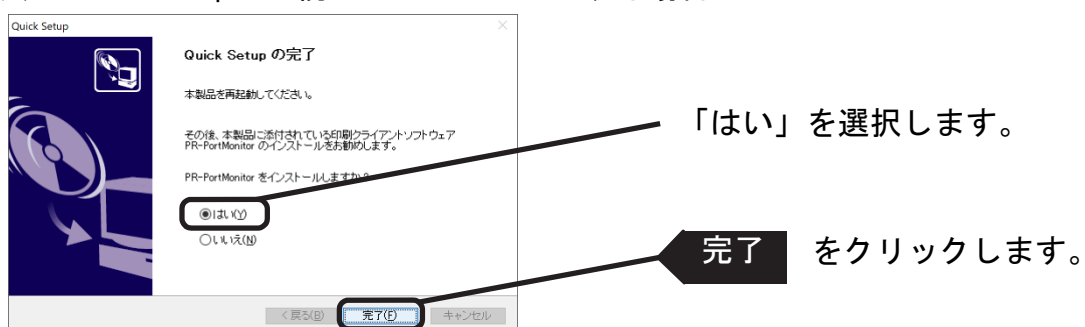


注意

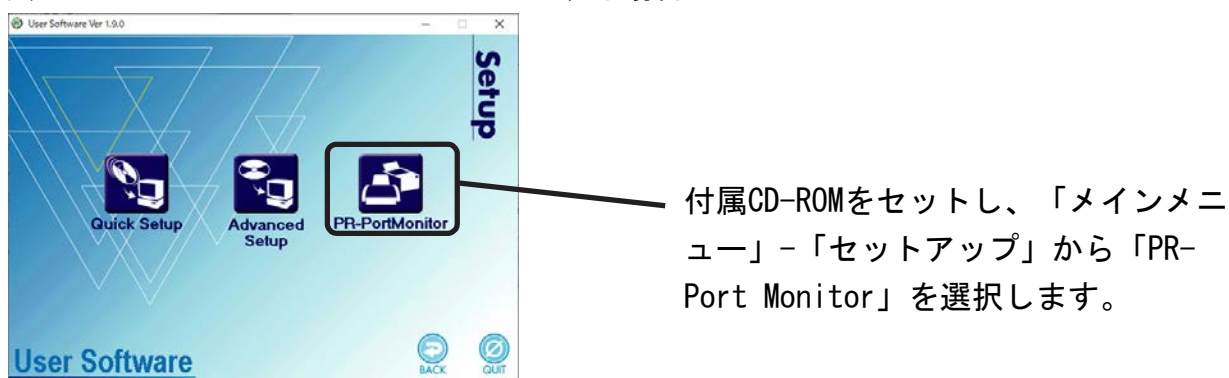
- ・ IPP (Internet Printing Protocol) 機能では「Popup Status Monitor」をご利用することが出来ません。


1. インストール方法を確認します。

(A) Quick Setupから続いてインストールする場合

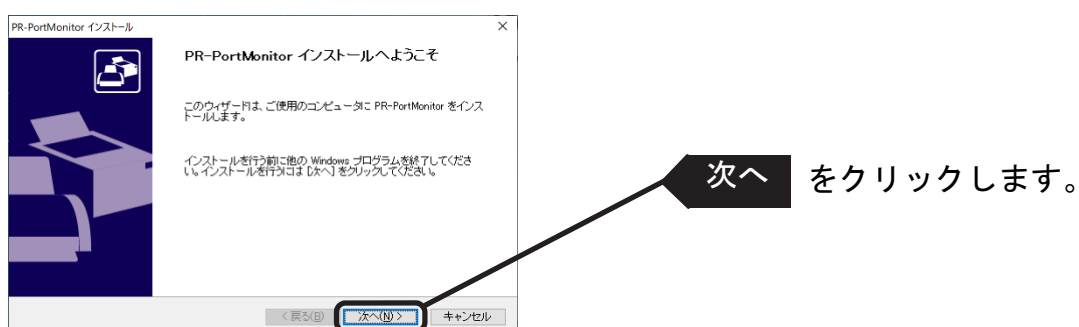


(B) PR-Port Monitorのみインストールする場合

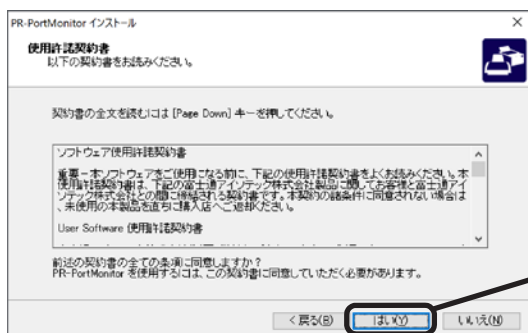


 注意 ・「ユーザーアカウント制御」の画面が表示された場合は、「はい」または「許可」を選択してください。

2. PR-Port Monitorインストールウィザードが起動します。

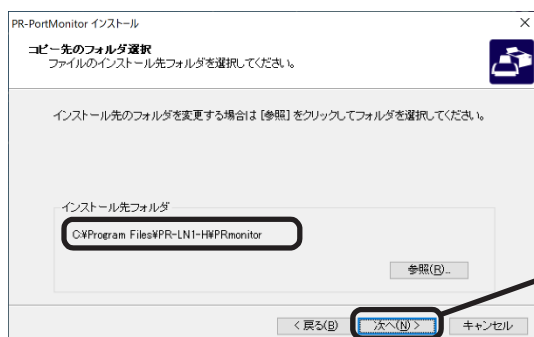


3. ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



はい をクリックします。

4. インストール先のフォルダーを指定します。



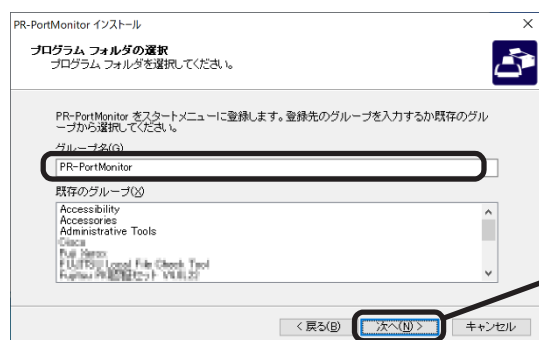
次へ をクリックします。



・[参照]をクリックするとインストール先フォルダーを選択できます。

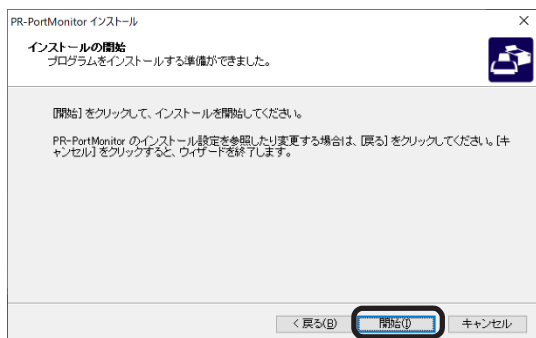
参考

5. スタートメニューに表示されるグループ名を入力します。



次へ をクリックします。

6. インストールを開始します。



開始 をクリックします。



注意

- ・ 「このアプリケーションを使用するには、Windows ファイアウォールの例外リストに登録する必要があります。アプリケーションを例外リストに登録しますか?」のメッセージが表示されますので「はい」をクリックします。

7. インストール完了です。



「はい」を選択します。
ポートの設定を行わない場合は
「いいえ」を選択します。

完了 をクリックします。

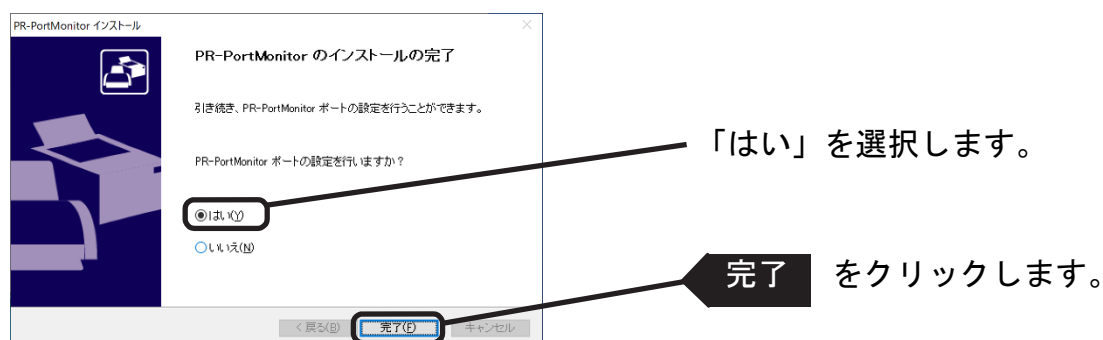
印刷ポートを追加する

本製品ではPR-Port Monitorの、「PRで印刷する」「IPPで印刷する」「Rawモードで印刷する」の3つのポート作成方法をご利用いただけます。

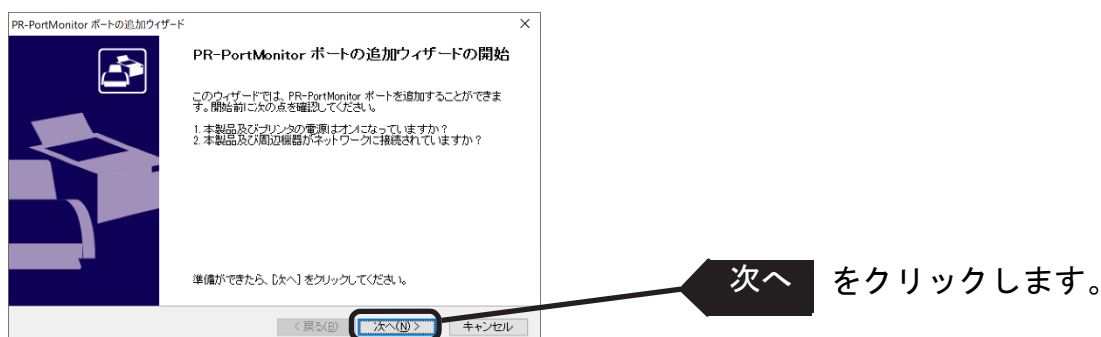
印刷に使用するプロトコルを選択し、「次へ」をクリックすると、各印刷方式のポート作成画面へ移ります。

(A)

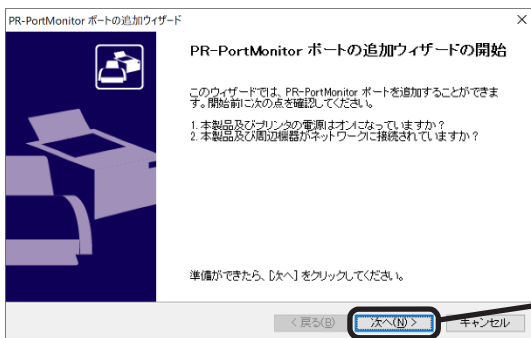
1. PR-Port Monitorインストールから続いて追加する。



2. PR-Port Monitorポート追加ウィザードが開始します。



(B) 「スタート」 - 「PR-Port Monitor」にある「PR-Port Monitor ポート追加」から追加する。

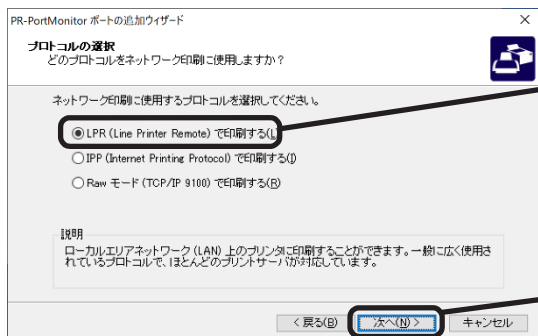


注意

- ・ 「ユーザーアカウント制御」の画面が表示された場合は、「はい」または「許可」を選択してください。
- ・ 「スタート」は画面左下または画面中央下のWindows ロゴを示します。
- ・ Windows 2012をご利用の場合は、マウスを画面左下隅に持っていき、左クリックして「スタート」画面-「PR-Port Monitorポート追加」を選択してください。
- ・ Windows 8.1/2012 R2をご利用の場合は、画面左下のWindowsロゴを左クリックして「スタート」画面を表示後、マウスを画面下に動かして表示される下矢印をクリックして「アプリ」ビュー画面を表示し「PR-PortMqnagerポート追加」を選択してください。
- ・ お使いのWindowsによっては、「スタート」をクリックした後、「すべてのアプリ」や「すべてのプログラム」をクリックしてください。

PR-Port Monitor (LPRポート) を追加する場合

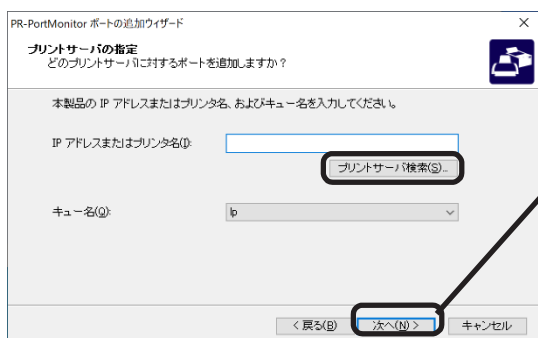
1. LPR (Line Printer Remote) を選択します。



「LPR (Line Printer Remote) で印刷する」を選択します。

次へ をクリックします。

2. 「プリントサーバ検索」ボタンでネットワーク内のプリントサーバーの一覧を表示させ本製品を選択してください。キュー名は「lp」を選択します。



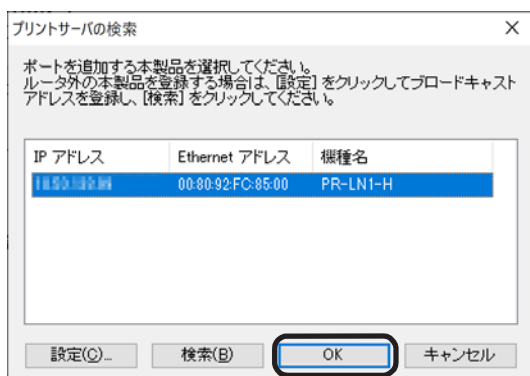
次へ をクリックします。



参考

・ IPアドレスを直接入力することで本製品を選択することもできます。

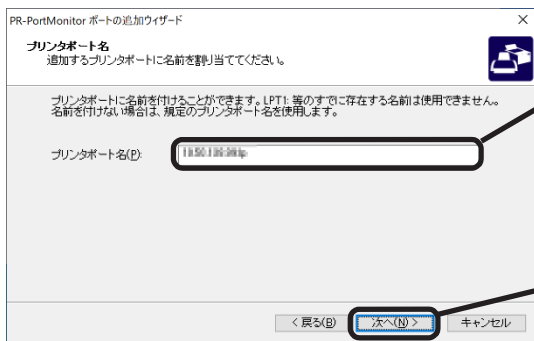
3. ポートを選択して「OK」をクリックします。



参考

・ Ethernetアドレスは、本製品のシール表示を確認してください。
・ お使いのプリンターのIPアドレスを特定するには、「AdminManager」を用いて確認してください。

4. プリンターポート名を入力します。



名前を指定しない場合は、既定のプリンターポート名をご使用ください。

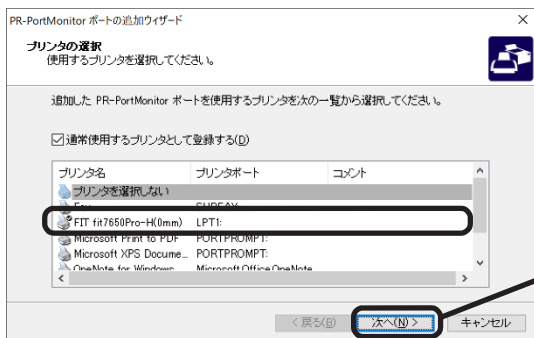
次へ をクリックします。

5. 設定内容を確認します。



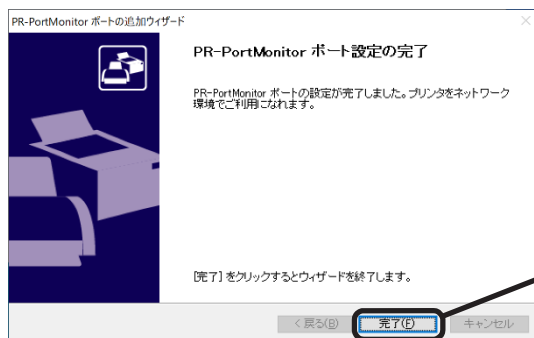
完了 をクリックします。

6. 使用するプリンターを一覧の中から選択します。



次へ をクリックします。

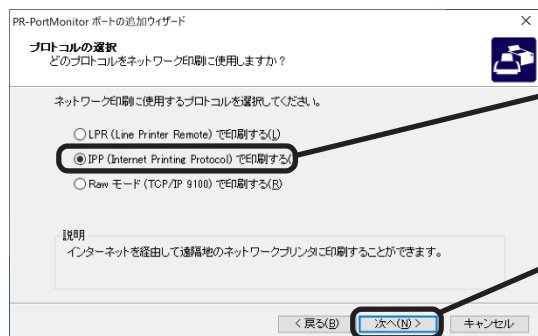
7. ポート設定を完了します。



完了 をクリックします。

PR-Port Monitor (IPP ポート) を追加する場合

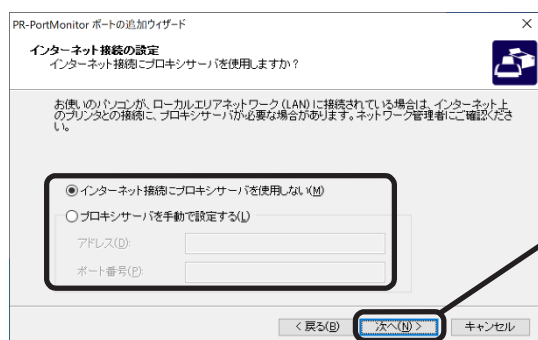
1. IPP (Internet Printing Protocol) を選択します。



「IPP (Internet Printing Protocol) で印刷する」を選択します。

次へ をクリックします。

2. 「インターネット接続にプロキシサーバを使用しない」又は、「プロキシサーバを手動で設定する」を選択します。



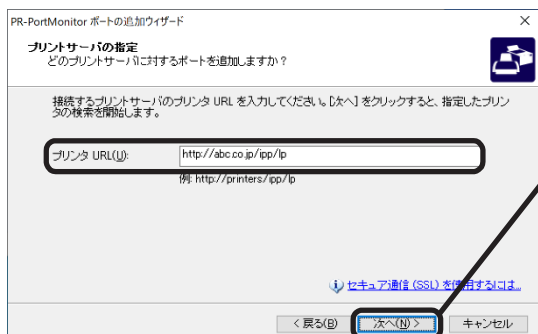
次へ をクリックします。



参考

- プロキシサーバを使用しないネットワークの場合は「インターネット接続にプロキシサーバを使用しない」を選択してください。
- Webブラウザで使用しているプロキシサーバとは別なプロキシサーバを使用する場合は、「プロキシサーバを手動で設定する」を選択してください。

3. 「プリンタURL」には、印刷先の本製品に割り当てられたURLを入力します。
本製品のIPPプリンターURLは、「/ipp」または「/ipp/lp」です。



次へ をクリックします。

- 例) URLが「abc.co.jp」の場合
http://abc.co.jp/ipp/lp
または https://abc.co.jp/ipp/lp
- 例) IPアドレスが「192.168.20.185」の場合
http://192.168.20.185/ipp/lp
または https://192.168.20.185/ipp/lp



参考

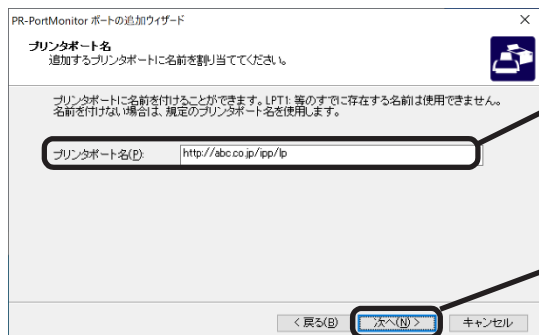
- ・ 「次へ」をクリックすると、指定されたURLが存在するか、確認されます。



注意

- ・ セキュア(SSL)通信印刷機能を使用する場合は、URLは“https:// ~ ”と指定してください。
“http:// ~ ”と指定すると、セキュア(SSL)通信印刷機能は動作しません。
- ・ セキュア(SSL)通信印刷機能を使用する場合は、本製品のファームウェアがSSL対応版(バージョン(Ver. 2.4.0以降))であることを確認してください。
- ・ セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になるSSL証明書情報を本製品に設定する必要があります。設定方法については、「セキュア通信印刷機能について」を参照してください。

4. 印刷先のポート名を設定します。



名前を指定しない場合は、既定のプリンターポート名をご使用ください。

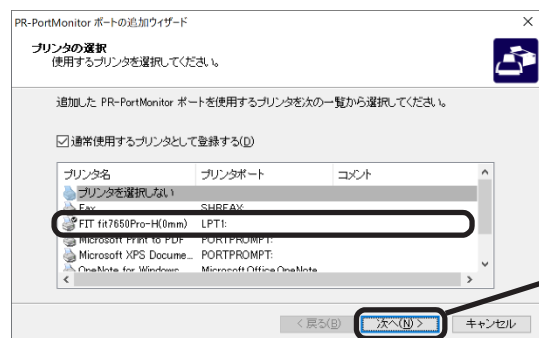
次へ をクリックします。

5. 設定内容を確認します。



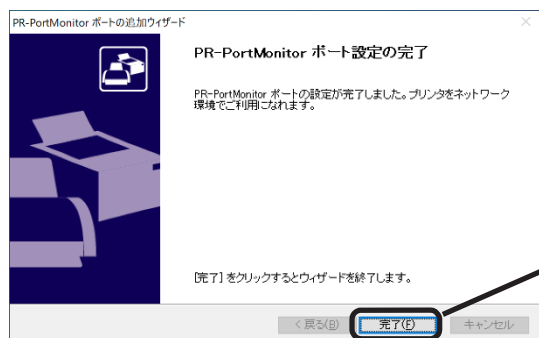
完了 をクリックします。

6. 使用するプリンターを一覧の中から選択します。



次へ をクリックします。

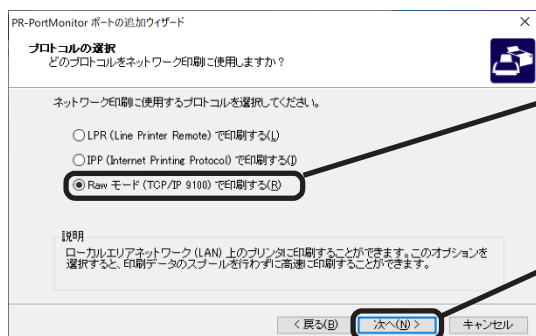
7. ポート設定を完了します。



完了 をクリックします。

PR-Port Monitor (Raw TCP/IP 9100) ポートを追加する場合

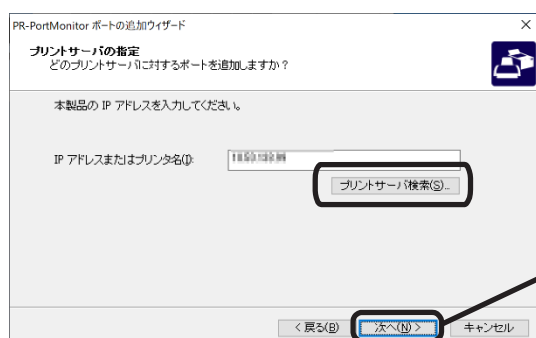
1. Rawモード (TCP/IP 9100) を選択します。



「Rawモード (TCP/IP 9100) で印刷する」を選択します。

次へ をクリックします。

2. 「プリントサーバ検索」ボタンでネットワーク内のプリントサーバー一覧を表示させ一覧の中から本製品を選択します。



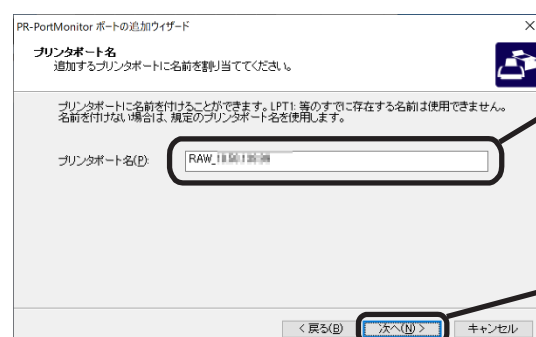
次へ をクリックします。



参考

- ・ 「次へ」をクリックすると、指定されたプリントサーバーが9100ポートにアクセス可能か、確認されます。

3. 印刷ポート名を入力します。



特に問題がなければ既定のプリンターポート名 (RAW_IPアドレス) をご使用ください。

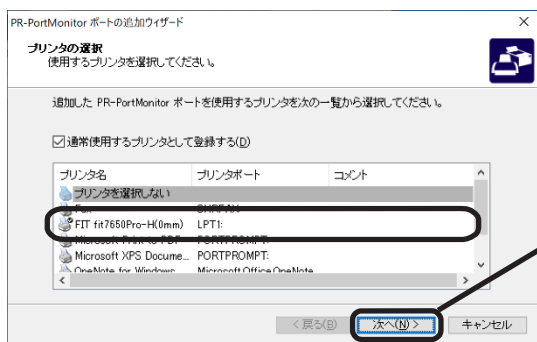
次へ をクリックします。

4. 設定内容を確認します。



完了 をクリックします。

5. 使用するプリンターを一覧の中から選択します。



次へ をクリックします。

6. ポート設定を完了します。



完了 をクリックします。

プリンタードライバーの設定

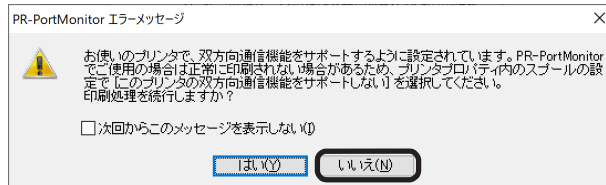
ここでは、Windows 10の場合を例に、プリンタードライバーの設定方法を説明します。



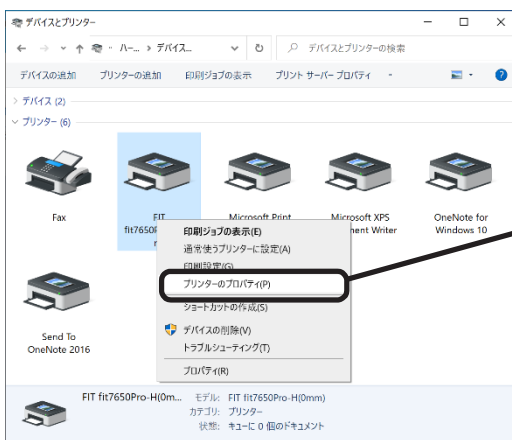
- ・ プリンタードライバーの設定を行わない場合、次のエラー画面が表示されることがあります。「いいえ」を選択し、下記の手順でプリンタードライバーの設定を行ってください。

参考

- ・ プリンタードライバー設定後、印刷がうまくできない場合は、パソコンを再起動してください。



1. 「スタート」－「Windows システムツール」－「コントロールパネル」を選択し、「デバイスとプリンター」を選択します。
2. 「プリンター」部に表示されているプリンターアイコンを右クリックし、「プリンターのプロパティ」を選択します。



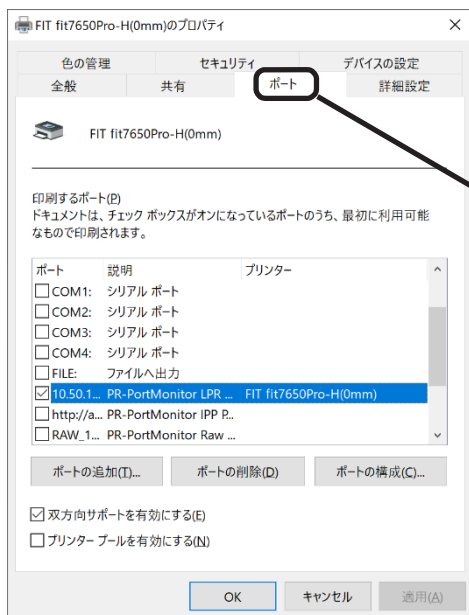
「プリンターのプロパティ」を選択します。



参考

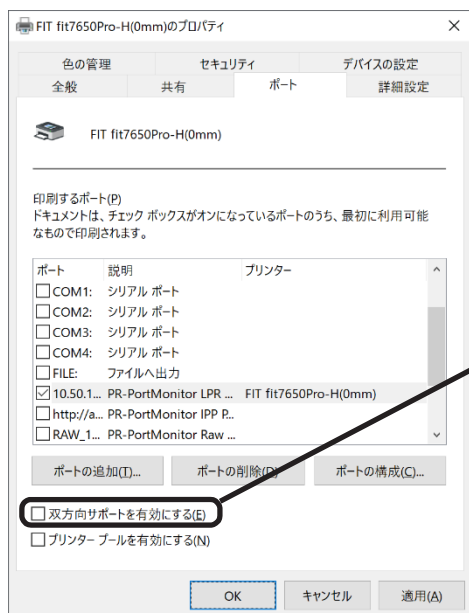
- ・ Windows 2012をご利用の場合は、マウスを画面左下隅に持っていき右クリックして「コントロールパネル」－「デバイスとプリンター」を開いて使用するプリンターの「プリンターのプロパティ」を開いてください。
- ・ Windows 8.1/2012 R2/2016をご利用の場合は、画面左下のWindowsロゴを右クリックして「コントロールパネル」－「デバイスとプリンター」を開いて、使用するプリンターの「プリンターのプロパティ」を開いてください。
- ・ Windows 11をご利用の場合は、「スタート」画面の検索ボックスに「コントロールパネル」と入力し検索結果から「コントロールパネル」を選択します。「コントロールパネル」が表示されたら、「デバイスとプリンター」を開いて、使用するプリンターの「プリンターのプロパティ」を開いてください。

3. [ポート]を選択します。



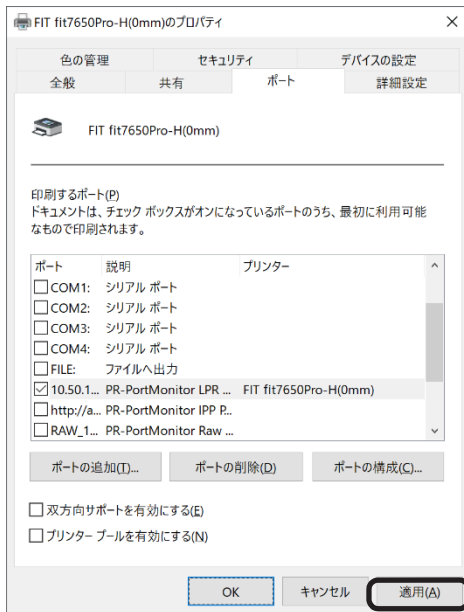
[ポート]を選択します。

4. 双方向の設定をします。



「双方方向サポートを有効にする」のチェックを外します。

5. 設定完了です。



適用 をクリックします。

プリンターポートの設定項目

LPRポートの場合

PR-Port Monitorで、LPRポートを設定しているプリンターのプロパティ画面で[ポートの構成]をクリックすると、LPRポートの設定を行うことができます。

タブ	項目	設定内容	初期設定
基本設定	IPアドレスまたはプリンター名	印刷先のIPアドレスまたはプリンター名を入力します。 (半角で最大64文字)	なし
	キュー名	印刷先のキューを選択します。	なし
	タイムアウト値	データ送受信時の通信タイムアウト値を設定します。 入力できる範囲は、60～3600秒です。	900
	バージョン	バージョン情報を表示します。	なし

IPPポートの場合

PR-Port MonitorでIPPポートを設定しているプリンターのプロパティ画面で[ポートの構成]をクリックすると、IPPポートの設定を行うことができます。

タブ	項目	設定内容	初期設定				
基本設定	プリンタURL	印刷先のプリンターURLを入力します。 (半角で最大256文字)	なし				
	タイムアウト値	データ送受信時の通信タイムアウト値を設定します。 入力できる範囲は、60～3600秒です。	180				
	インターネット接続にプロキシサーバーを使用しない	インターネット接続にプロキシサーバーを使用しません。	なし				
	プロキシサーバーを手動で設定する	手動で設定したプロキシサーバーを使用してインターネットに接続します。この項目を選択するとプロキシサーバーのアドレスとポート番号が入力可能になります。アドレスは、半角で最大256文字まで入力可能です。	なし				
	バージョン	バージョン情報を表示します。	なし				
詳細	ユーザー認証	サポートしていません。	なし				
	言語	IPP AttributesのNatural Language attributesを選択します。使用しているWindowsの言語により初期設定を行います。一覧にない言語は、英語(U.S)となります。	なし				
	高度な設定	<table border="1"> <tr> <td>Chunked Encodingを使用する</td> <td>データ送信にChunked Encoding機能を使用します。この機能を使用するには、通信先のサーバーも同機能に対応している必要があります。対応していない場合印字化け、プロキシサーバーからのアクセス拒否等が発生する場合があります。</td> <td>使用しない</td> </tr> <tr> <td>Max Chunkサイズ</td> <td>チャンクサイズの最大データサイズを指定します。入力できる範囲は、1024～16384です。</td> <td>4096</td> </tr> </table>	Chunked Encodingを使用する	データ送信にChunked Encoding機能を使用します。この機能を使用するには、通信先のサーバーも同機能に対応している必要があります。対応していない場合印字化け、プロキシサーバーからのアクセス拒否等が発生する場合があります。	使用しない	Max Chunkサイズ	チャンクサイズの最大データサイズを指定します。入力できる範囲は、1024～16384です。
Chunked Encodingを使用する	データ送信にChunked Encoding機能を使用します。この機能を使用するには、通信先のサーバーも同機能に対応している必要があります。対応していない場合印字化け、プロキシサーバーからのアクセス拒否等が発生する場合があります。	使用しない					
Max Chunkサイズ	チャンクサイズの最大データサイズを指定します。入力できる範囲は、1024～16384です。	4096					

Windows 標準の印刷クライアント機能で印刷する

PR-Port Monitorを使用せず、Windows 標準の印刷クライアント機能を利用して印刷する方法を説明します。

NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPで印刷する

本製品をNetBEUI、NetBIOS over TCP/IPプロトコルを利用して印刷する方法を説明します。



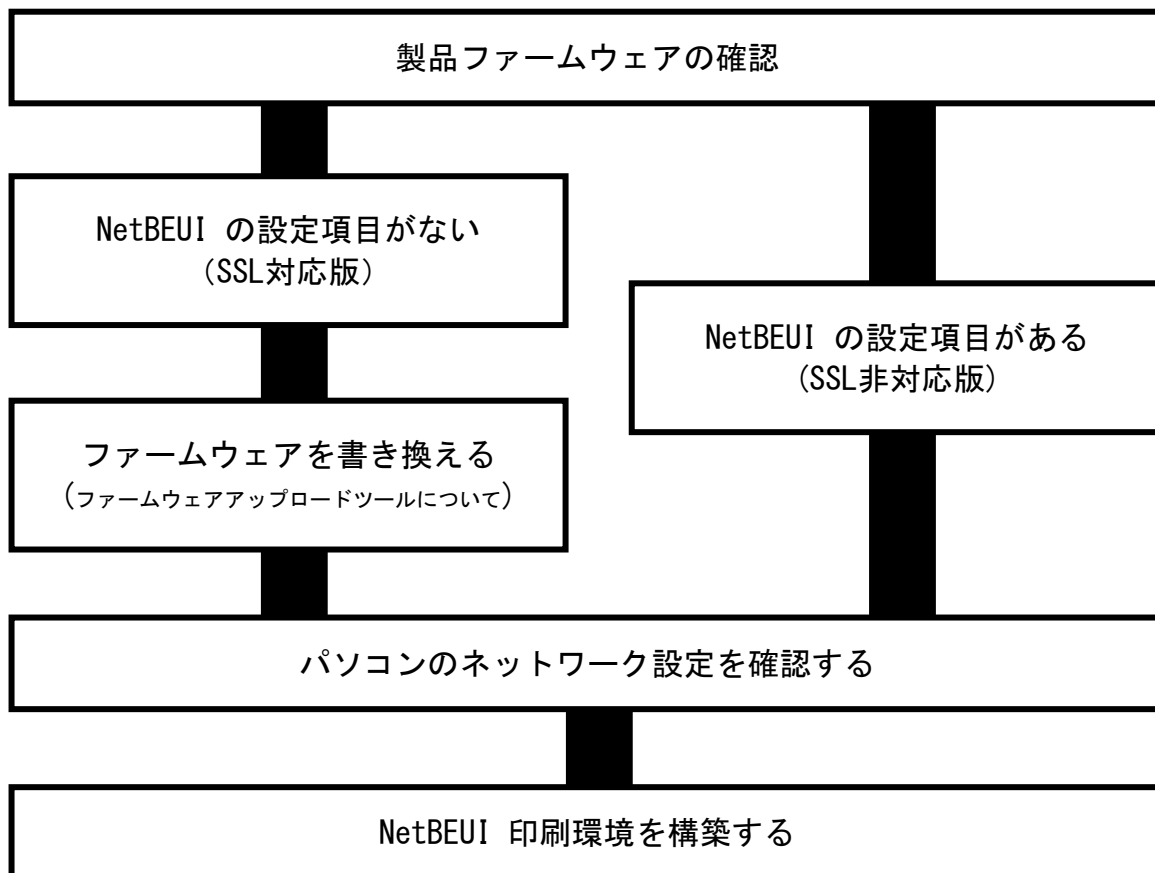
注意

- 以下の説明は、Windows 10 の画面で行っています。その他の Windows オペレーティングシステムをご利用の場合、画面が異なる場合があります。
- NetBEUIはSSL非対応版のファームウェアでサポートしています。SSL対応版のファームウェアはサポートしていません。ファームウェアのアップロード方法については、「本製品の設定ユーティリティ」をご参照ください。



参考

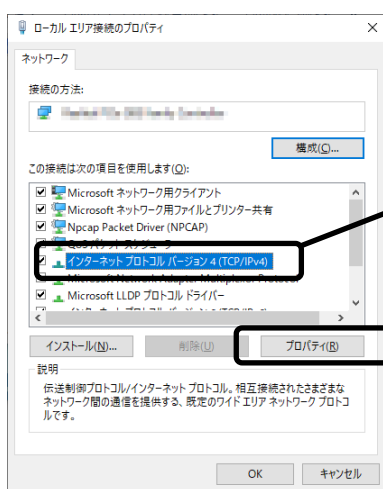
- あらかじめプリンタードライバーをご使用のパソコンにインストールしてください。
- NetBIOS over TCP/IPの詳細な設定を行う方法については「第5章 設定に関する機能」をご参照ください。



パソコンのネットワーク設定の確認

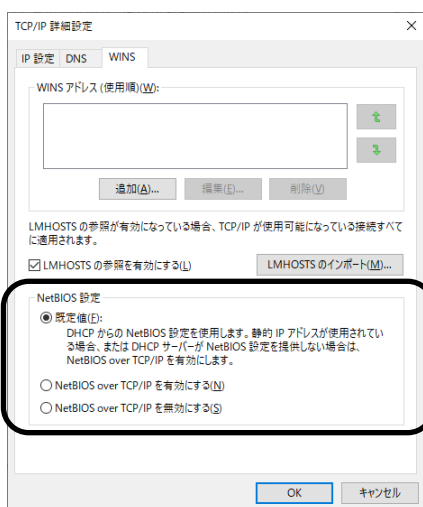
[インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)]にNetBIOS設定が設定されていること、「ネットワーク」に[Microsoft ネットワーク用クライアント]が追加されていることを確認します。

1. 「スタート」－「コントロールパネル」－「ネットワークとインターネット」－「ネットワークと共有センター」－「アダプターの設定の変更」を選択します。
2. 「ローカルエリア接続」を右クリックし、プロパティを選択します。

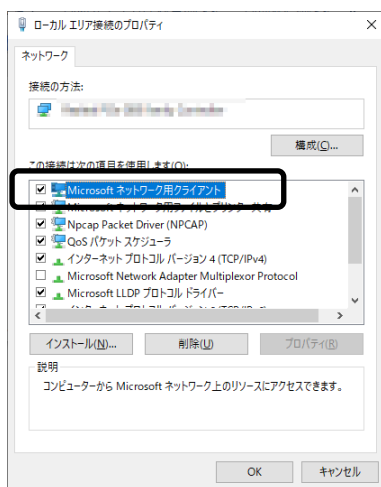


[インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)]を選択し、「プロパティ」をクリックします。

3. [詳細設定]－[WINS]を開き、NetBIOS設定が[既定値]あるいは[NetBIOS over TCP/IPを有効にする]が選択されていることを確認します。



4. 同じく、[Microsoftネットワーク用クライアント] が追加されていることを確認します。



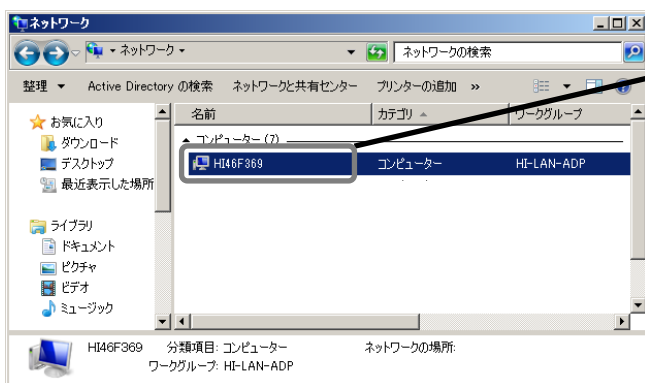
NetBIOS over TCP/IP で印刷する

1. 「マイネットワーク」 - 「ワークグループのコンピュータを表示する」 - 「Microsoft Windows Network」 をクリックし、ワークグループ名「Hi-lan-adp」を開きます。



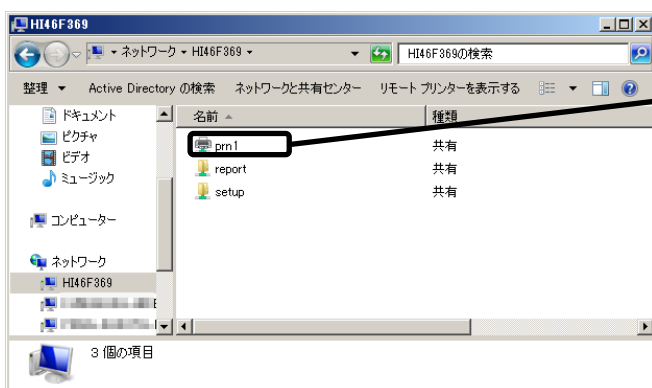
ここでは、ワークグループ名が「Hi-lan-adp」で説明します。お使いの環境に合わせてワークグループ名を読み替えてください。

2.



コンピューター（本製品）のアイコンをダブルクリックします。

3.



プリンターのアイコンをダブルクリックします。

4. プリンターの設定確認メッセージが表示されます。



「はい」をクリックします。

5. プリンターの追加ウィザードが起動しますので、指示に従って設定を行います。
テストページが出力されれば、プリンターの追加は完了です。

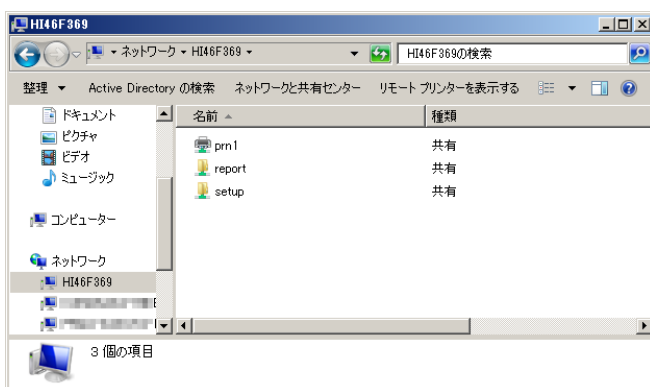
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPワークグループの構造

ここでは、本製品に搭載しているNetBEUI、NetBIOS over TCP/IPのワークグループの構造について説明します。

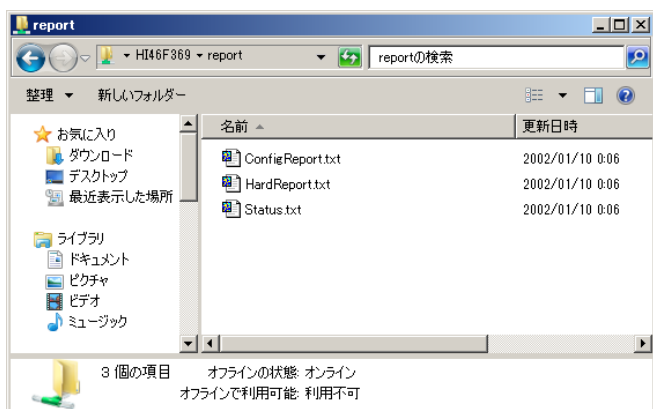


- ここでは、コンピューター名が「HI46F369」、プリンター名が「prn1」で説明します。お使いの環境に合わせて読み替えてください。

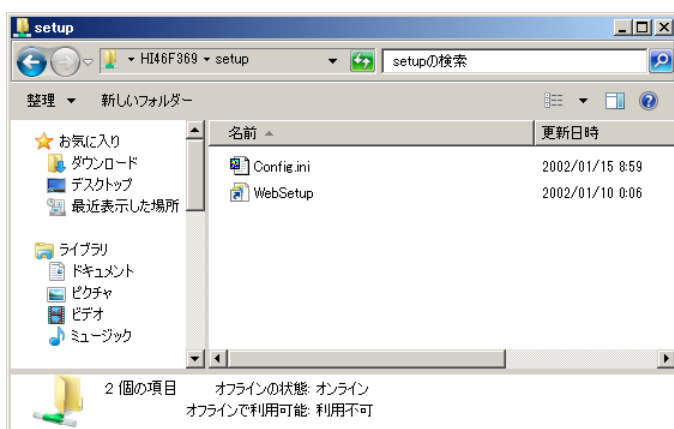
(例) 本製品のEthernet アドレス : 00:80:92:01:07:12



¥¥HI46F369:コンピューター (本製品)
¥¥HI46F369¥prn1:プリンター



¥¥HI46F369¥report¥ConfigReport.txt:
設定レポート (読み取り専用)
¥¥HI46F369¥report¥HardReport.txt:
自己診断情報 (読み取り専用)
¥¥HI46F369¥report¥Status.txt:
システム状態レポート (読み取り専用)



¥¥HI46F369¥setup¥Config.ini:

初期設定ファイル（編集可能）

¥¥HI46F369¥setup¥WebSetup:

ショートカットファイル（読み取り専用）

○設定レポート

本製品を起動した時の内部情報を出力します。

○システム状態レポート

本製品を起動した時の本製品の状態を出力します。

○初期設定ファイル

初期化ファイルでは「ワークグループ名」と「IPアドレス」を記述することができます。メモ帳等のエディターを使い編集後、ファイルを上書き保存することで設定します。上書き保存すると、本製品は約3秒後、自動リセットされ、再起動します。

初期化ファイルを編集し、ファイルを上書き保存することでワークグループ名、IPアドレスの変更が可能です。

（例）

```
Workgroup = UserGroup  
IP Address = 192.168.20.126
```

ワークグループ名は、ネットワーク全体の中に既に存在するワークグループ名を指定してください。DHCP/BOOTP、RARPサーバーを使用してIPアドレスを自動的に割り当てする場合は、[IP address]に設定しても無効となります。

○ショートカットファイル

本製品にIPアドレスが設定されるとショートカット（WebSetup）が作成されます。ショートカットアイコンをダブルクリックするとWebブラウザが起動し本製品のWebページが表示されます。



・ Webブラウザについては「第5章 設定に関する機能」をご参照ください。

参考

Standard TCP/IP ポートで印刷する



注意

- ・以下の説明は、Windows 10の画面で行っています。その他の Windows オペレーティングシステムをご利用の場合、画面が異なります。
- ・ご使用のパソコンに、あらかじめプリンタードライバーをインストールしてください。
- ・Windows 標準の印刷クライアント機能では、「Popup Status Monitor」をご利用することができません。

1. 「スタート」－「Windows システムツール」－「コントロールパネル」－「デバイスとプリンター」を選択します。

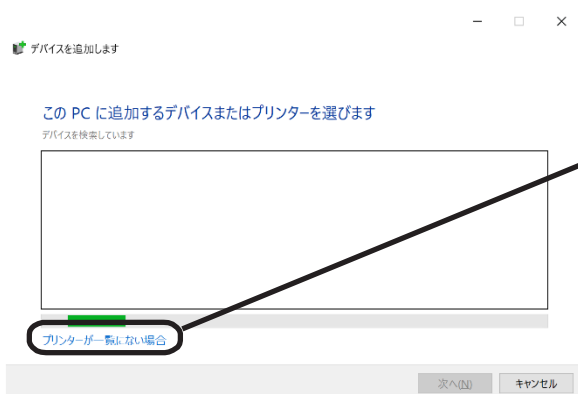


参考

- ・Windows 2012をご利用の場合は、マウスを画面左下隅に持っていき右クリックして「コントロールパネル」－「デバイスとプリンター」をクリックしてください。
- ・Windows 8.1/2012 R2/2016をご利用の場合は、画面左下のWindowsロゴを右クリックして「コントロールパネル」－「デバイスとプリンター」をクリックしてください。
- ・Windows 11をご利用の場合は、「スタート」画面の検索ボックスに“コントロールパネル”と入力し、検索結果から「コントロールパネル」を選択します。
「コントロールパネル」表示後、「デバイスとプリンター」をクリックしてください。

2. 「プリンターの追加」をクリックします。

3. 「プリンターが一覧にない場合」をクリックします。



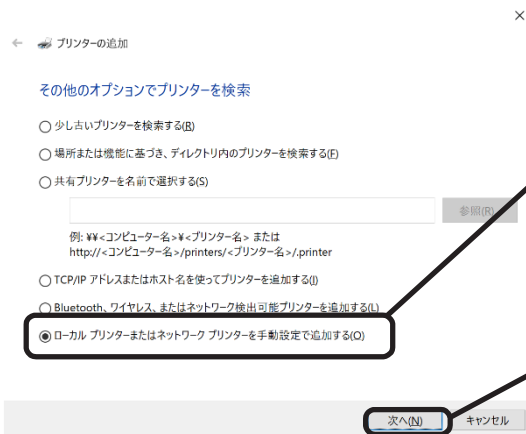
「プリンターが一覧にない場合」をクリックします。



参考

- ・Windows 8.1/2012/2012 R2/2016をご利用の場合は、「プリンターの追加」画面で「探しているプリンターはこの一覧にはありません」を選択し、「ローカルプリンターまたはネットワークプリンターを手動設定で追加する」を選択して「次へ」をクリックしてください。

4. 設定するプリンターの種類を選択します。



「ローカルプリンターまたはネットワークプリンターを手動で追加する」を選択します。

次へ をクリックします。

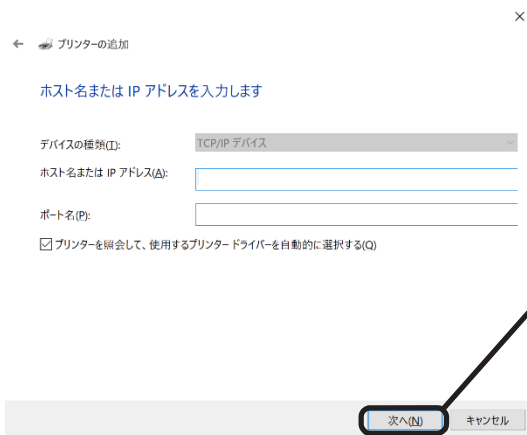
5. プリンターポートを選択します。



「新しいポートの作成」にチェックを入れ、種類は「Standard TCP/IP Port」を選択します。

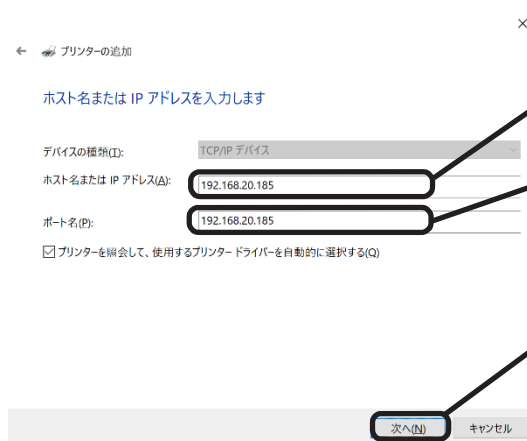
次へ をクリックします。

6. 標準TCP/IPプリンターポートの追加ウィザードが開始します。



次へ をクリックします。

7. プリンターポートを追加します。



本製品に設定したIPアドレスを入力します。

名前を付けない場合は、既定値 (XXX.XXX.XXX.XXX) をご使用ください。

次へ をクリックします。

8. デバイスの種類を決定します。



「カスタム」にチェックを入れ、「設定」をクリックします。

9. ポート情報を入力します。

(A) Raw モードで使用する場合

「Raw」にチェックを入れます。

「9100」を入力します。

OK をクリックします。



・ 「OK」をクリックすると「6.」の画面に戻りますので、「次へ」をクリックしてください。

参考

(B) LPR モードで使用する場合

「LPR」にチェックを入れます。

キュー名は「lp」を入力し、「LPR バイトカウントを有効にする」にチェックを入れてください。

OK をクリックします。



・ 「OK」をクリックすると「6.」の画面に戻りますので、「次へ」をクリックしてください。

参考

10. プリンタードライバーを選択します。

プリンター ドライバーのインストール

一覧からプリンターを選択してください。他のモデルを表示するには、[Windows Update] をクリックしてください。

インストール CD からドライバーをインストールするには、[ディスク使用] をクリックしてください。

製造元
FIT
Generic
Microsoft

プリンター
FIT fi17650Pro-H(0mm)
FIT fi17650Pro-H(8.5mm)
FIT fi17850Pro-H(0mm)
FIT fi17850Pro-H(8.5mm)

Authenticode(tm) 署名があります。
ドライバーの署名が重要な理由

Windows Update(WU) ディスク使用(H)...

次へ(N) キャンセル

ご使用になるプリンタードライバーを選択します。

次へ をクリックします。

11. プリンタードライバーを確認します。

どのバージョンのドライバーを使用しますか?

既にこのプリンターのドライバーがインストールされていることを検出しました。

現在インストールされているドライバーを使う (推奨)(U)

現在のドライバーを置き換える(R)

次へ(N) キャンセル

「現在のドライバーを使う」か「新しいドライバーに置き換える」か選択します。

次へ をクリックします。

- 最新プリンタードライバーを別途インストールされた場合は、「新しいドライバーに置き換える」を選択してください。
- 参考 ・ ご使用になるWindows によっては、選択肢が異なる場合があります。

12. プリンター名を登録します。

× プリンター名の登録を行います。

← プリンターの追加

プリンター名を入力してください

プリンター名(D): FIT fit7650Pro-H(0mm)

このプリンターは、FIT fit7650Pro-H(0mm) のドライバーを使ってインストールされます。

次へ(N) キャンセル

次へ をクリックします。

13. プリンターを共有するかを選択します。

×

← プリンターの追加

プリンター共有

このプリンターを共有するには、共有名を作成する必要があります。推奨されている名前を使用するか、または新しく名前を入力してください。共有名はほかのネットワーク ユーザーによって参照されます。

このプリンターを共有しない(N)

このプリンターを共有して、ネットワークのほかのコンピューターから検索および使用できるようにする(S)

共有名(H): FIT fit7650Pro-H(0mm)

場所(L):

コメント(C):

次へ(N) キャンセル

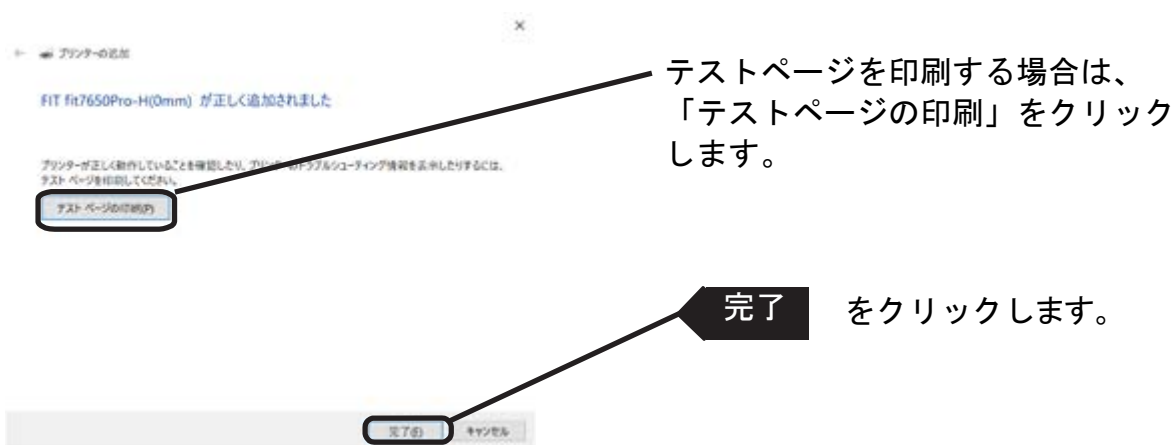
プリンターを「共有する」か「共有しない」かを選択します。

次へ をクリックします。



- ・ 同じネットワーク内にある他のパソコンからもこのプリンターをご使用になる場合は「共有する」を選択してください。

14. 設定を確認します。



15. 「14.」で「テストページの印刷」をクリックした場合、テストページが正常に出力されれば、設定完了です。

16. プリンタードライバーのプリンタープロパティを開き、ポート設定で「双方向サポートを有効にする」のチェックを外します。

LPRポートで印刷する



- ・以下の説明は、Windows 10の画面で行っています。その他のWindowsオペレーティングシステムをご利用の場合、画面が異なります。
- ・LPR印刷機能を使用して印刷する場合はLPR Portを追加する必要があります。LPR印刷機能は、「Windowsの機能の有効化または無効化」から、「LPRポートモニター」を選択してください。
- ・ご使用のパソコンに、あらかじめプリンタードライバーをインストールしてください。
- ・Windows標準の印刷クライアント機能では、「Popup Status Monitor」をご利用することはできません。

1. 「スタート」－「Windowsシステムツール」－「コントロールパネル」－「デバイスとプリンター」を選択します。

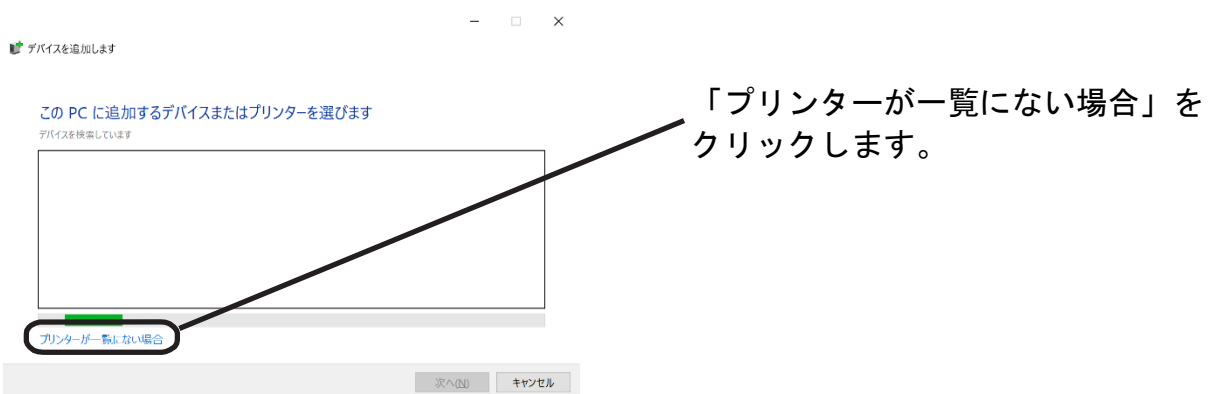


参考

- ・Windows 2012をご利用の場合は、マウスを画面左下隅に持っていき右クリックして「コントロールパネル」－「デバイスとプリンター」をクリックしてください。
- ・Windows 8.1/2012 R2/2016をご利用の場合は、画面左下のWindowsロゴを右クリックして「コントロールパネル」－「デバイスとプリンター」をクリックしてください。
- ・Windows 11の場合、「スタート」画面の検索ボックスに「コントロールパネル」と入力し、検索結果から「コントロールパネル」を選択します。「コントロールパネル」が表示されたら、「デバイスとプリンター」をクリックしてください。

2. 「プリンターの追加」をクリックします。

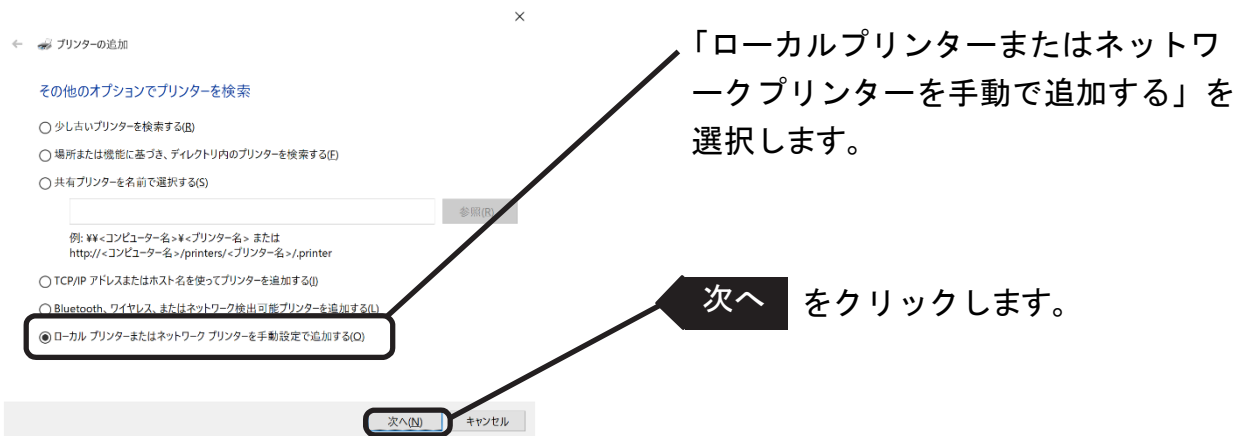
3. 「プリンターが一覧にない場合」をクリックします。



参考

- ・Windows 8.1/2012/2012 R2/2016をご利用の場合は、「プリンターの追加」画面で「探しているプリンターはこの一覧にはありません」を選択し「ローカルプリンターまたはネットワークプリンターを手動設定で追加する」を選択して「次へ」をクリックしてください。

4. 設定するプリンターの種類を選択します。



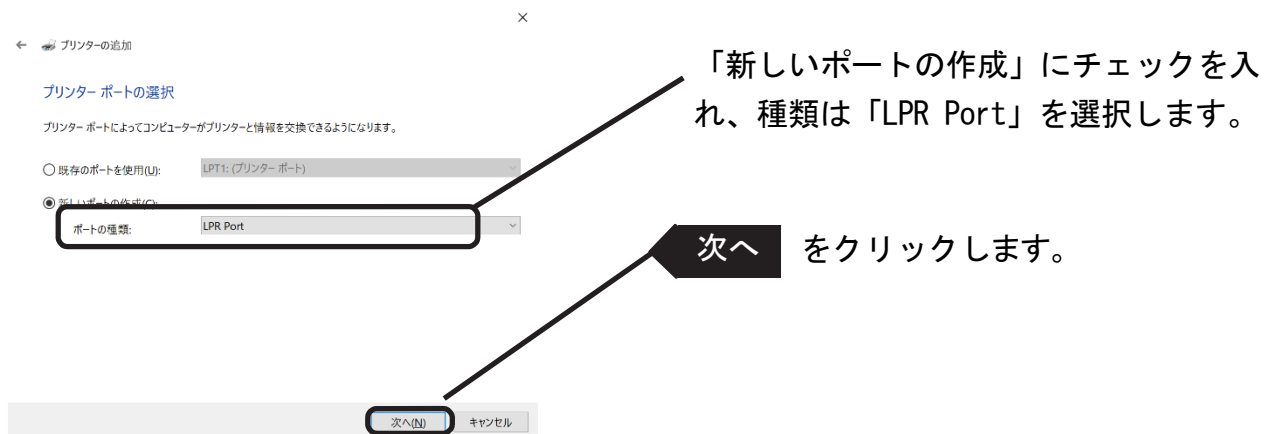
「ローカルプリンターまたはネットワークプリンターを手動で追加する」を選択します。

「次へ」をクリックします。



- Windows 8.1/2012/2012 R2/2016をご利用の場合は、「プリンターの追加」画面で「探しているプリンターはこの一覧にはありません」を選択し、「ローカルプリンターまたはネットワークプリンターを手動設定で追加する」を選択して「次へ」をクリックしてください。

5. プリンターポートを選択します。



「新しいポートの作成」にチェックを入れ、種類は「LPR Port」を選択します。

「次へ」をクリックします。

6. LPR 互換プリンターを追加します。

LPR 互換プリンターの追加

LPD を提供しているサーバーの名またはアドレス(N) 192.168.20.185 OK

サーバーのプリンター名または印刷キュー(Q) lp キャンセル

本製品に設定したIPアドレスと「lp」を入力します。

OK をクリックします。

7. プリンタードライバーを選択します。

プリンターの追加

プリンタードライバーのインストール

一覧からプリンターを選択してください。他のモデルを表示するには、[Windows Update] をクリックしてください。

インストール CD からドライバーをインストールするには、[ディスク使用] をクリックしてください。

製造元
FIT
Generic
Microsoft

プリンター
FIT fi17650Pro-H(0mm)
FIT fi17650Pro-H(8.5mm)
FIT fi17850Pro-H(0mm)
FIT fi17850Pro-H(8.5mm)

Authenticcode(tm) 署名があります。
ドライバーの署名が重要な理由

Windows Update(W) ディスク使用(H)...

次へ(N) キャンセル

ご使用になるプリンタードライバーを選択します。

次へ をクリックします。

8. プリンタードライバーを確認します。

プリンターの追加

どのバージョンのドライバーを使用しますか?

既にこのプリンターのドライバーがインストールされていることを検出しました。

現在インストールされているドライバーを使う (推奨)(U)

現在のドライバーを置き換える(R)

次へ(N) キャンセル

「現在のドライバーを使う」か「新しいドライバーに置き換える」か選択します。

次へ をクリックします。



参考

- 最新プリンタードライバーを別途インストールされた場合は、「新しいドライバーに置き換える」を選択してください。
- ご使用になるWindows によっては、選択肢が異なる場合があります。

9. プリンター名を登録します。

×

プリンター名の登録を行います。

← プリンターの追加

プリンター名を入力してください

プリンター名(B): FIT fit7650Pro-H(0mm)

このプリンターは、FIT fit7650Pro-H(0mm) のドライバーを使ってインストールされます。

次へ

次へ(N) キャンセル

次へ をクリックします。

10. プリンターを共有するかを選択します。

×

プリンターを「共有する」か「共有しない」かを選択します。

← プリンターの追加

プリンター共有

このプリンターを共有するには、共有名を作成する必要があります。推奨されている名前を使用するか、または新しく名前を入力してください。共有名はほかのネットワーク ユーザーによって参照されます。

このプリンターを共有しない(N)

このプリンターを共有して、ネットワークのほかのコンピューターから検索および使用できるようにする(S)

共有名(H): FIT fit7650Pro-H(0mm)

場所(L):

コメント(C):

次へ

次へ(N) キャンセル

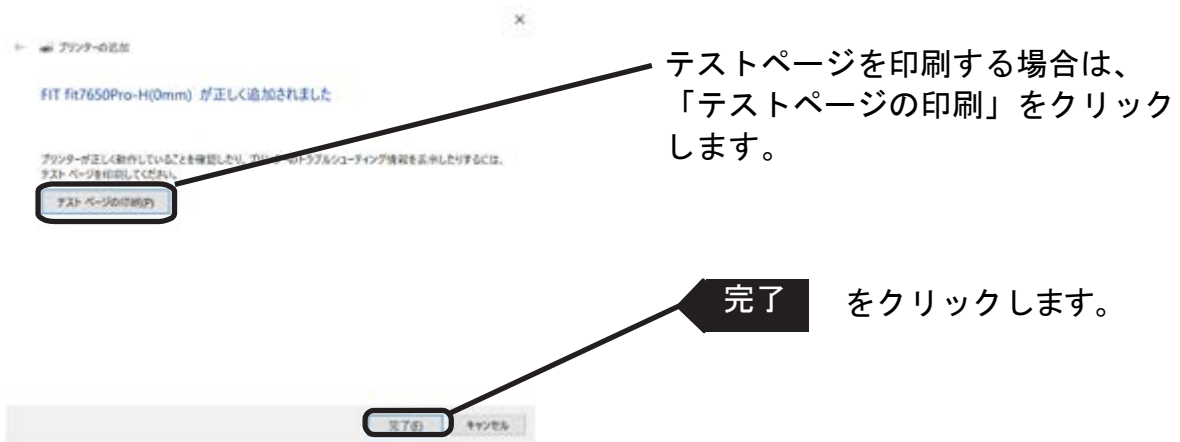
次へ をクリックします。



参考

- ・ 同じネットワーク内にある他のパソコンからこのプリンターをご使用になる場合は「共有する」を選択してください。

11. 設定を確認します。



12. 「11.」で「テストページの印刷」をクリックした場合、テストページが正常に出力されれば、設定完了です。

13. プリンタードライバーのプリンタープロパティを開き、ポート設定で「双方向サポートを有効にする」のチェックを外します。

14. プリンタードライバーの詳細設定で「印刷ドキュメントをスプールし、プログラムの印刷処理を高速に行う」と「全ページ分のデータをスプールしてから、印刷データをプリンターに送る」を選択します。

IPPポートで印刷する



- ・以下の説明は、Windows 10の画面で行っています。その他の Windows オペレーティングシステムをご利用の場合、画面が異なります。
- ・Windows 2012/2012 R2/2016/2019/2022 をご利用の場合は、「インターネット印刷クライアント」機能がインストールされている必要があります。あらかじめインストールしてください。
- ・ご使用のパソコンに、あらかじめプリンタードライバーをインストールしてください。
- ・Windows 標準の印刷クライアント機能では、「Popup Status Monitor」をご利用することができません。
- ・プリンター本体に添付されているfitユーティリティ (fitリモートパネル) はIPPポートには対応していません。

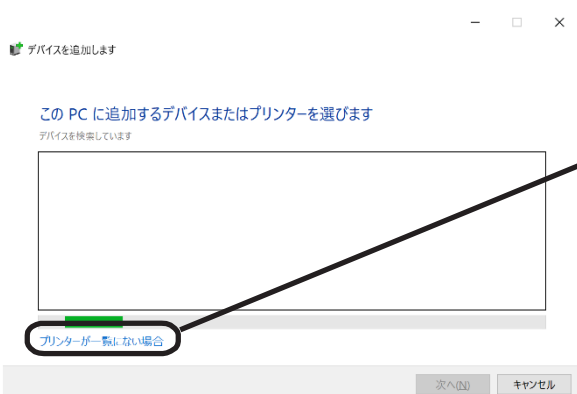
1. 「スタート」－「Windows システムツール」－「コントロールパネル」－「デバイスとプリンター」を選択します。



- ・Windows 2012をご利用の場合は、マウスを画面左下隅に持っていき右クリックして「コントロールパネル」－「デバイスとプリンター」をクリックしてください。
- ・Windows 8.1/2012 R2/2016をご利用の場合は、画面左下のWindowsロゴを右クリックして「コントロールパネル」－「デバイスとプリンター」をクリックしてください。
- ・Windows 11 の場合、「スタート」画面の検索ボックスに「コントロールパネル」と入力し、検索結果から「コントロールパネル」を選択します。「コントロールパネル」が表示されたら、「デバイスとプリンター」をクリックしてください。

2. 「プリンターの追加」をクリックします。

3. 「プリンターが一覧にない場合」をクリックします。



- ・Windows 8.1/2012/2012 R2/2016をご利用の場合は、「プリンターの追加」画面で「探しているプリンターはこの一覧にはありません」を選択し「ローカルプリンターまたはネットワークプリンターを手動設定で追加する」を選択して「次へ」をクリックしてください。

4. 本製品のアドレスを入力します。

← プリンターの追加

その他のオプションでプリンターを検索

少し古いプリンターを検索する(B)

場所または機能に基づき、ディレクトリ内のプリンターを検索する(F)

共有プリンターを名前で作成する(S)

http://abc.co.jp/pp/lp 参照(R)...

例: *%<コンピューター名>%<プリンター名> または
http://<コンピューター名>/printers/<プリンター名>/printer

TCP/IP アドレスまたはホスト名を使ってプリンターを追加する(G)

Bluetooth、ワイヤレス、またはネットワーク検出可能プリンターを追加する(L)

ローカル プリンターまたはネットワーク プリンターを手動設定で追加する(O)

次へ(N) キャンセル



参考

- セキュア (SSL) 通信印刷機能を利用した印刷を行う場合は、PR-Port Monitor で作成する IPP ポートをご使用いただくことを推奨します。
- セキュア (SSL) 通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になる SSL 証明書情報を、予め本製品に設定する必要があります。設定方法については、「付録 セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- セキュア (SSL) 通信印刷機能は、印刷データを暗号化するためデータ量が増えます。そのためデータ転送時間がかかり、通常印刷と比較して印刷性能が低下します。

例) URL が「abc.co.jp」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使わない場合

http://abc.co.jp/ipp または http://abc.co.jp/ipp/lp

例) URL が「abc.co.jp」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使う場合

https://abc.co.jp/ipp または https://abc.co.jp/ipp/lp

例) IP アドレスが「192.168.10.2」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使わない場合

http://192.168.10.2/ipp または http://192.168.10.2/ipp/lp

例) IP アドレスが「192.168.10.2」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使う場合

https://192.168.10.2/ipp または https://192.168.10.2/ipp/lp

5. プリンタードライバーを選択します。

← プリンターの追加

プリンター ドライバーのインストール

一覧からプリンターを選択してください。他のモデルを表示するには、[Windows Update] をクリックしてください。

インストール CD からドライバーをインストールするには、[ディスク使用] をクリックしてください。

製造元

FIT
Generic
Microsoft

プリンター

- FIT fit7650Pro-H(0mm)
- FIT fit7650Pro-H(8.5mm)
- FIT fit7850Pro-H(0mm)
- FIT fit7850Pro-H(8.5mm)

Authenticcode(tm) 署名があります。 ドライバーの署名が重要な理由

Windows Update(W) ディスク使用(H)...

次へ(N) キャンセル

6. プリンタードライバーを確認します。

← プリンターの追加 ×

どのバージョンのドライバーを使用しますか?

既にこのプリンターのドライバーがインストールされていることを検出しました。

現在インストールされているドライバーを使う (推奨)(U)

現在のドライバーを置き換える(R)

次へ(N) キャンセル

「現在のドライバーを使う」か「新しいドライバーに置き換える」か選択します。

次へ をクリックします。



- ・ 最新プリンタードライバーを別途インストールされた場合は、「新しいドライバーに置き換える」を選択してください。

参考 ・ ご使用になるWindows によっては、選択肢が異なる場合があります。

7. プリンター名を登録します。

← プリンターの追加 ×

プリンター名を入力してください

プリンター名(印): FIT fit7650Pro-H(0mm)

このプリンターは、FIT fit7650Pro-H(0mm) のドライバーを使ってインストールされます。

次へ

プリンター名の登録を行います。

次へ をクリックします。

次へ(N) キャンセル

8. プリンターを共有するかを選択します。



プリンターを「共有する」か「共有しない」かを選択します。

次へ をクリックします。



参考

- ・ 同じネットワーク内にある他のパソコンからもこのプリンターをご使用になる場合は「共有する」を選択してください。

9. 設定を確認します。



テストページを印刷する場合は、「テストページの印刷」をクリックします。

完了 をクリックします。



注意

- ・ 名前には、AdminManagerの「プリントサーバの設定」および、「Webブラウザによる設定」のSNMPの設定の中のSysName に設定されたものが表示されます。SysNameが設定されていない場合は、「unknown」と表示されます。



10. プリンタードライバーのポート設定で「双方向サポートを有効にする」のチェックを外します。



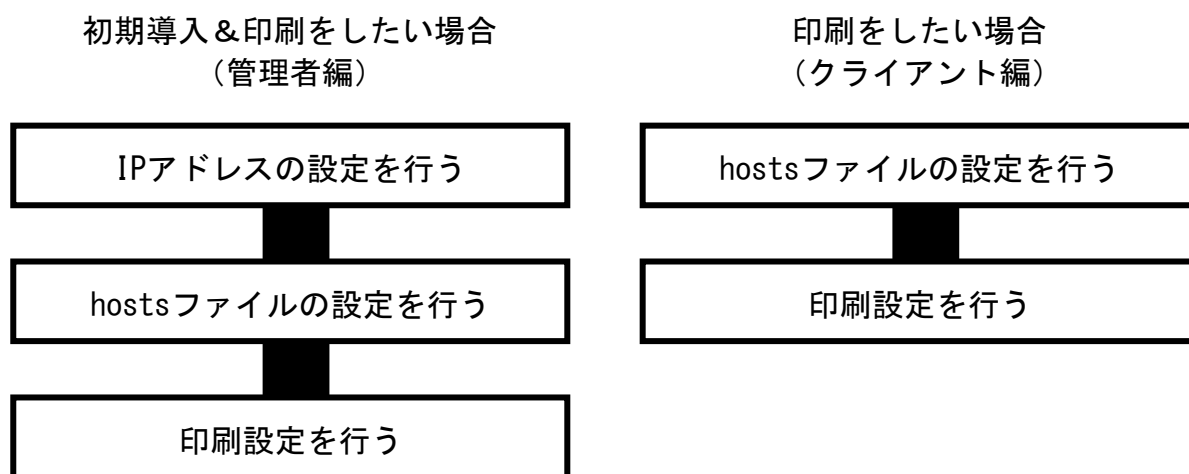
注意

- ・ 印刷ポートにWindows 標準の IPPポートを使用した場合、正しく印刷されない場合があります。この場合には専用ポート (PR-Port Monitor) を使用してください。

第4章 UNIX/Linux環境で使用する

本章では、UNIX/Linux環境で使用するために必要な設定と、LPDおよびFTPによる印刷について説明します。設定方法は一例ですので、詳細はご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。

〈UNIX/Linux 環境で印刷するまでの手順〉



注意

- ・ 本章の記載は、LANボードの漢字フィルター(sjis/euc)を使用することを想定しています。本製品のプリンターエミュレーションの設定が“ESC/P”に設定されていることを確認してください。詳細は「第5章 設定に関する機能」をご参照ください。

IPアドレスの設定

UNIX/Linux環境では、ARP、BOOTP、RARPの何れかの方法でIPアドレスの設定ができます。以下に設定方法を示します。



参考

- ・ IPアドレスを設定した後は、TELNETで本製品の詳細設定を行ってください。TELNETについては、「第5章 設定に関する機能」をご参照ください。



注意

- ・ BOOTPを使用するためには、「DHCP/BOOTP」設定を“ENABLE”にする必要があります。また、RARPを使用するためには、「RARP」設定を“ENABLE”にする必要があります。「DHCP/BOOTP」「RARP」の各設定を“ENABLE”に変更するためには、ARPを実行した後にTELNETを起動し、各設定を変更してください。

ARPによる設定

IPアドレスとEthernetアドレスの組み合わせをARPテーブルに登録し、PINGを実行することで、IPアドレスを設定することができます。



注意

- ・ この方法により設定されたIPアドレスは一時的な設定であり、本製品に登録されません。定後は必ずTELNETなどでIPアドレスの登録を行ってください。

(例) Ethernetアドレスが「00809200110f」、IPアドレスが「192.168.10.100」、ホスト名が「pbox」の場合

1. 製品の電源を投入します。
2. ARPコマンドを使い、IPアドレスとEthernetアドレスの組み合わせをARPテーブルに登録します。

```
arp -s 192.168.10.100 00:80:92:00:11:0f temp
```
3. PINGを実行します。

```
ping 192.168.10.100
```
4. 実行後、本製品より応答があれば設定完了です。

```
192.168.10.100 is alive.
```

RARPによる設定

UNIXの/etc/ethersに本製品に登録するIPアドレスとEthernetアドレスの組み合わせを追加し、RARPDを起動します。その後、プリンターの電源を再投入することでIPアドレスを設定することができます。



- ・ RARPによるIPアドレスの設定を行うためには、ネットワーク内にRARPデーモンが動作しているワークステーションが必要です。
- 注意 ・ RARPを使用するためには、「RARP」設定を“ENABLE”にする必要があります。

UNIXのRARPサーバーを使用したIPアドレスの設定例です。

(例) Ethernetアドレスが「00809200110f」、IPアドレスが「192.168.10.100」、ホスト名が「pbox」の場合

1. /etc/ethers に次の設定を追加します。

```
00:80:92:00:11:0f    192.168.10.100    #pbox
```

2. RARPDを起動します。

```
rarpd -a
```

3. プリンターの電源を再投入します。

B00TPによる設定

本製品に登録するIPアドレスとEthernetアドレスの組み合わせをB00TPサーバーに登録・起動し、プリンターの電源を再投入することでIPアドレスを設定することができます。



注意

- ・ B00TPによるIPアドレスとEthernetアドレスの設定を行うためには、ネットワーク内にB00TPサーバーが動作しているワークステーションが必要です。
- ・ 本製品のEthernetアドレスは、自己診断印刷結果または本製品基板裏面にシール表示で記載されています。
(例：00:80:92:08:b0:dd)
- ・ B00TPを使用するためには、「DHCP/B00TP」設定を“ENABLE”にする必要があります。

UNIXのB00TPサーバーを使用したIPアドレスの設定例です。

(例) Ethernetアドレスが「00809200100f」、IPアドレスが「192.168.10.100」、ホスト名が「pbox」の場合

1. /etc/bootptab に次の設定を追加します。

```
pbox:¥  
ht=ether:¥           # Target hardware type is ETHERNET  
ha=00809200110f:¥   # Target hardware address  
ip=192.168.10.100:¥ # Target IP address  
gw=192.168.10.254:¥ # Default gateway address (If required)  
sm=255.255.255.0:   # Target subnet mask (If required)
```

2. /etc/inetd.conf に次の設定を追加します。

```
bootps dgram udp wait root /etc/bootpd bootpd
```

3. inetdを再起動します。

```
kill -1 1
```

4. プリンターの電源を再投入します。

hostsファイルの設定

UNIXまたはLinuxマシンのhostsファイルにホスト名とIPアドレスを登録します。



- ・ hostsファイルを編集する場合は、ネットワーク管理者に確認の上作業してください。
- ・ DNS等のIP管理システムをご利用の場合は、hostsファイルの編集を行う必要がない場合があります。

1. UNIX/Linuxマシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

2. /etc/hosts ファイルに本製品のホスト名とIPアドレスを登録します。

hosts ファイルの編集には“vi”などのエディターを使用します。

例) IP アドレスが「192.168.10.100」、ホスト名が「pbox」の場合

```
192.168.10.98      venus      # UNIX-A
192.168.10.99      mars       # UNIX-B
192.168.10.100     pbox       # Print-Server
```

3. プリンターの電源を ON にし、「ping」コマンドを使用して、ネットワークとの接続が行えるかを確認します。

```
# ping pbox
```



- ・ 応答がない場合やエラーが表示される場合は、本製品のIPアドレスの設定、hostsファイルの記述またはネットワークの状態に問題があります。ネットワーク管理者にご確認ください。

LPDを使用した印刷

TCP/IPのLPDプロトコルを使用して印刷するための設定方法を説明します。

「lpr」、「lp」コマンドの詳細は、ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。



参考

- ・ LPDプロトコルについて
LPD(Line Printer Daemon)プロトコルは、ネットワーク上のプリンターに印刷するためのプロトコルです。
- ・ 論理プリンターについて
本製品には3つの論理プリンターがあります。
プリンタードライバーを使ったファイルを印刷する場合は「lp」のプリンターへ、シフトJIS漢字コードのテキストファイルへ変換し印刷する場合は「sjis」のプリンターへ、EUC漢字コードのテキストファイルへ変換し印刷する場合は「euc」のプリンターへ出力する必要があります。

論理プリンター	機能
lp	直接出力
sjis	シフトJIS漢字出力
euc	EUC漢字変換出力

HI-UXの環境で使用する

HI-UX/WE2の場合

HI-UX/WE2から印刷するための設定を行います。システムによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なる場合があります。詳細については、ワークステーション装置に添付されているHI-UX/WE2日立CSMA/CDネットワークCD105 (TCP/IP) マニュアル (3000-3-200) の第9章リモートプリンティングをご参照ください。



・上記マニュアルの名称、および記載内容は、本書作成時のものです。本書発行以降に更新されている場合があります。

参考

1. /etc/printcap ファイルに本製品を登録します。

例：プリントキューポート「HI_lp」を登録する場合

```
HI_lp:¥                . . . . . ①
    :lp=:rm=FIT:rp=lp:¥ . . . . . ②
    :sd=/usr/spool/HI_lp:¥ . . . . . ③
    :lf=/usr/spool/HI_lp/HI_lp_errs: . . . . . ④
```

〈各変数の意味〉

- ① プリンター名を登録します。
- ② LP：プリンターを接続するためのデバイス名称
ネットワーク接続の場合は、本設定は必要ありません。
rm：リモートプリンターのホスト名
/etc/hosts ファイルに登録したホスト名を入力します。
rp：リモートプリンターのプリンター名
本製品の論理プリンター名で、lp, sjis, eucの何れかを選択します。
- ③ sd：スプールディレクトリー
- ④ lf：エラーログファイル
- ③と④は絶対パスで指定します。

2. /etc/printcap ファイルに登録したスプールディレクトリーとエラーログファイルを製作します。

例：スプールディレクトリー「HI_lp」、エラーログファイル「HI_lp_errs」を生成する場合

```
# mkdir/usr/spool/HI_lp          ←スプールディレクトリー作成
# touch/usr/spool/HI_lp/HI_lp_errs ←エラーログファイル作成
# chown -R demon /usr/spool/HI_lp ←オーナーをdemonに変更
# chgrp -R demon /usr/spool/HI_lp ←グループをdemonに変更
```


3. lpd(プリンターデーモン)が起動しているか確認します。

```
# PS aux | grep lpd
```

lpdが起動していない場合、スーパーユーザーのアカウントで下記コマンドを実行してください。

```
# /usr/lib/lpd&
```

4. 作成したプリントキューを有効にします。

```
# lpc restart HI_lp
```

Solaris環境で使用する

Solaris2.6/7/8の場合

Sun Microsystems社のSolaris2.6/7/8 から印刷するための設定を行います。
OSのバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。
ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。



- ・ 本製品ではリモートプリンターはご利用になれません。

注意

1. プリントキューを作成します。

1-1. UNIX マシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

1-2. プリントサーバーを登録します。

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合

```
# lpadmin -p pboxlp -m netstandard -o protocol=bsd  
                (プリントキュー名)                -o dest=pbox:lp -v /dev/null  
                                                    (ホスト名) (論理プリンター名)
```



参考

- ・ 「:」の後に続く「lp」は、本製品の論理プリンター名になります。
- ・ EUC漢字テキストデータを印刷する場合は下記のように設定することで、直接EUC漢字テキストデータを印刷することができます。

```
# lpadmin -p pboxeuc -m netstandard -o protocol=bsd  
                (EUCポート指定)                -o dest=pbox:euc -v /dev/null
```

1-3. プリントキューを有効にします。

```
#!/usr/sbin/accept pboxlp  
#!/usr/bin/enable pboxlp
```

2. 印刷を行います。

2-1. 「lp」コマンドを使用して印刷する方法を説明します。詳細についてはSolarisのマニュアルをご参照ください。

```
# lp -d pboxlp <印刷ファイル名>
```

このまま印刷するとバナーページが自動的に付加されます。
バナー印字が不要な場合は、

```
# lp -d pboxlp -o nobanner <印刷ファイル名>
```

と“-o nobanner”を付け加えてください。

また、

```
# lpadmin -p pboxlp -o nobanner
```

と設定するか、/etc/lp/interfaces の下に作成されるフィルターファイルを直接編集しても常にバナー印字を禁止することができます。

例) “vi” などのエディターで下記ファイルを開き「nobanner=no」を「nobanner=yes」に修正します。

```
# vi /etc/lp/interfaces/pboxlp  
nobanner=no ----> nobanner=yes
```

3. 印刷要求を取り消します。

3-1. 「cancel」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# cancel pboxlp-<ジョブ番号>
```



注意

・ キャンセルのタイミングやSolarisの仕様によっては、正常にキャンセルすることができない場合があります。

4. プリンターの状態を確認します。

4-1. 「lpstat」コマンドを使用して、プリンターの状態を確認することができます。

```
# lpstat -p pboxlp
```



注意

・ UNIXの仕様により、正常に表示できない場合があります。

Solaris2.3x ~ 2.5x の場合

Sun Microsystems社のSolaris2.5x以下から印刷するための設定を行います。
OSのバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。
ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。



・ 本製品ではリモートプリンターはご利用になれません。

注意

1. プリントキューを作成します。

1-1. UNIX マシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

1-2. プリントスケジューラーを停止します。

```
# /usr/sbin/lpshut
```

1-3. プリントサーバーを登録します。

例) 「pbox」という名前のホスト名を登録する場合

```
# /usr/sbin/lpsystem -R0 -t bsd pbox
```

1-4. プリントキューを設定します。

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合

```
#/usr/sbin/lpadmin -p pboxlp -s pbox!lp
```

(プリントキュー名) (ホスト名) (論理プリンター名)



参考

・ cshをご使用の場合は、「!」の代わりに「¥!」または「\!」としてください。

「!」の後に続く「lp」は、本製品の論理プリンター名になります。

・ EUC漢字テキストデータを印刷する場合は下記のように設定することで、直接EUC漢字テキストデータを印刷することができます。

```
#/usr/sbin/lpadmin -p pboxeuc -s pbox!euc
```

(eucポート指定)

1-5. プリントスケジューラーを起動します。

```
#/usr/bin/sh /etc/init.d/lp start
```

1-6. プリントキューを有効にします。

```
#/usr/sbin/accept pboxlp
```

```
#/usr/bin/enable pboxlp
```

2. 印刷を行います。

2-1. 「lp」コマンドを使用して印刷します。

```
# lp -d pboxlp <印刷ファイル名>
```

3. 印刷要求を取り消します。

3-1. 「cancel」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# cancel pboxlp-<ジョブ番号>
```

4. プリンターの状態を確認します。

4-1. 「lpstat」コマンドを使用して、プリンターの状態を確認することができます。

```
# lpstat -p pboxlp
```



・ UNIX の仕様により、正常に表示できない場合があります。

注意



【制限事項】

本製品をSolaris 2.xでご利用になる場合、Solarisの仕様により以下の制限事項があります。

- 1) 印字開始後、プリンターがオフラインなどでデータを受け付けられない状態が長く続いた場合、Solaris側でタイムアウトし、再印字（再接続）されるため、印字データが途中で切れ、1ページ目から再度印字される場合があります。
- 2) “lpstat -p<プリンター名>”にてプリンターのステータスを表示した場合、プリンターの状態ステータスとして返す任意の文字列（PrinterReady など）をSolaris側で解釈できず“Faulted”と表示した後、任意の文字列を表示します。
- 3) Solarisよりデータを出力中は、同じマシンから本製品に対する印字関連コマンドが正常に動作しません。これはSolaris側がデータの送信が終了するまで他のパケットを出すことができないため、以下の現象が発生します。“lpstat -p <プリンター名>”に対して、“system not responding”と表示されます。
- 4) cancelコマンドの後、lpstatなどを行うとlpstatがエラーになる場合があります。この場合は、プリンタースケジューラードーモンが停止している可能性がありますので、“lpstat -r”で確認する必要があります。“scheduler is not running”と表示された場合はデーモンが停止していますので、下記のように入力しプリンタースケジューラードーモンを再起動してください。
/bin/sh /etc/init.d/lp start
- 5) “cancel”で存在しないジョブを削除しても、Solarisではエラーになりません。

HP-UX 9.x/10.x環境で使用する

ヒューレットパッカード社のHP-UXから印刷するための設定を行います。
OSのバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。
ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。

1. リモートスプーラーを設定します。

使用しているHP-UXマシンに、リモートスプーラーが設定されていない時は以下の設定を行ってください。

1-1. UNIXマシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

1-2. プリンタースプーラーを停止します。

```
#/usr/lib/lpshut
```

1-3. /etc/inetd.conf ファイルに以下の行を追加し、リモートスプーラーを登録します。

```
printer stream tcp nowait root /usr/lib/rpldaemon -i
```

1-4. inetd を再起動します。

```
#/etc/inetd -c
```

2. プリントキューを作成します。

2-1. UNIXマシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

2-2. プリントキューを設定します。

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合

```
#/usr/lib/lpadmin -ppboxlp -mrmodel -ormpbox
```

(プリントキュー名)

(ホスト名)

```
-orplp -ocmrcmodel -osmrmodel -ob3 -v/dev/null
```

(論理プリンター名)



参考

- ・ 「-orp」の後に続く「lp」は、本製品の論理プリンター名になります。
- ・ SJIS漢字テキストデータを印刷する場合は下記のように設定することで、直接SJIS漢字テキストデータを印刷することができます。

```
#/usr/lib/lpadmin -ppboxsjis -mrmodel -ormpbox
```

```
-orpsjis -ocmrcmodel -osmrmodel -ob3 -v/dev/null
```

(SJISポート指定)

2-3. プリントキューを有効にします。

```
#/usr/lib/accept pboxlp  
#/usr/bin/enable pboxlp
```

2-4. プリンタースプーラーを起動します。

```
#/usr/lib/lpsched
```

3. 印刷を行います。

3-1. 「lp」コマンドを使用して印刷します。

```
# lp -d pboxlp <印刷ファイル名>
```

4. 印刷要求を取り消します。

4-1. 「cancel」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# cancel pboxlp-<ジョブ番号>
```

5. プリンターの状態を確認します。

5-1. 「lpstat」コマンドを使用して、プリンターの状態を確認することができます。

```
# lpstat -p pboxlp
```



注意

・ UNIXの仕様により、正常に表示できない場合があります。

setnetlpツールを使用する



・ setnetlpツールはHP-UX Ver. 10.10以降でご使用いただけます。

例) IPアドレス ⇒ 「192.168.10.100」
ホスト名 ⇒ 「pbox」
上記はすでに/etc/hosts に登録されており、
プリントキュー名 ⇒ 「pboxlp」で登録する場合。

1. rootでログインし、/usr/sbin/setnetlpを実行します。以下のメニューが表示されますので、「1) Add Printer」の「1」を入力します。

```
# /usr/sbin/setnetlp

#####
#                MAIN MENU                #
# Network Printer Configuration          #
#####

1) Add Printer
2) Remove Printer

q) Quit

Please enter a selection: 1
```

2. 以下のメニューが表示されますので、「1) destination name:」の「1」を入力します。

```
Please enter a selection: 1

Configurable Parameters:                Current Settings
-----
0) Done. Make Configuration now!
1) Lp destination name:                 [(N/A)]
2) Remote System name:                  [(N/A)]
3) Remote Printer name:                 [(N/A)]
4) Local Model Script:                  [(N/A)]

q) Quit

Select an item for change or select "0": 1
```


3. 既に登録されているプリンターの一覧が表示されます。「Please enter a lp destination name:」の後に、設定を行うプリンター名を入力します。

```
Currently used names:
-----
pbox1lp  pbox3lp
Please enter a lp destination name: pboxlp
```

4. 「2) Remote System name:」を選択します。[Please enter a remote system name/ IP address:]の後に、本製品に設定したIPアドレス、または/etc/hosts に登録した本製品のホスト名を入力します。
この例ではホスト名を入力しています。

```
Select an item for change or select "0":2
Please enter a remote system name/IP address: pbox
```

5. 「3) Remote Printer name:」を選択します。「Please enter a remote printer name:」の後に、「lp」を入力します。

```
Select an item for change or select "0":3
Please enter a remote printer name: lp
```

6. 「4) Local Model Script:」を選択します。モデルファイルのリストとプロンプトが表示されます。[Please enter a model file:]の後に、使用するモデルファイル名を入力します。本製品では、「ESCP」を選択します。

```
Select an item for change or select "0":4
```

```
Valid Models:
```

```
-----  
ESCP          colorpro      hp2228a      hp2934a      laserjet4  
HPGL1         deskjet       hp2235a      hp33440a     laserjet4Si  
HPGL2         deskjet1200C hp2276a      hp33447a     laserjet4v  
HPGL2.cent    deskjet1600CM hp2300-1100L hp3630a      laserjet5Si  
LIPS3         deskjet500    hp2300-840L hp5000c30    laserjetIIISi  
LIPS4         deskjet500C   hp2560       hp5000f100   paintjet  
PCL1          deskjet550C   hp2563a      hp7440a      paintjetXL300  
PCL2          deskjet850C   hp2564b      hp7475a      postscript  
PCL3          deskjet855C   hp2565a      hp7550a      print_mode.sh  
PCL4          draftpro      hp2566b      hp7570a      quietjet  
PCL4.nloo     dumb          p2567b       hp7595a      rmodel  
PCL5          dumbplot      hp256x.cent  hp7596a      rmodel.asx  
PCL5.asia     fonts         hp2631g      hpC1208a     ruggedwriter  
PCL5.nloo     hp2225a       hp2684a      hpc1200aj    sharedprint  
PS.nlio       hp2225b       hp2686a      hpc1208a     thinkjet  
colorlaserjet hp2227a       hp2932a      laserjet
```

```
Please enter a model file : ESCP
```

7. すべての設定の完了後、以下のように表示されます。内容変更がなければ「0) Done. Make configuration now!」の「0」を入力します。

```
Configurable Parameters:          Current Settings  
-----  
0) Done. Make Configuration now!  
1) Lp destination name:          [pboxlp]  
2) Remote System name:          [pbox]  
3) Remote Printer name:         [lp]  
4) Local Mode Script:           [ESCP]  
  
q) Quite  
  
Select an item for change or select 0":0
```

8. 現在、このマシンから印刷が行われていないことを確認し、「y」を入力します。

```
Select an item for change or select "0":0

WARNING: This operation requires lp spooler be shut down.
The spooler will be running again after this operation is done.
If there are jobs currently being printed, those are reprinted in
their entirety after spooler is started again.

OK to continue? (y/n, default-r): y
```

9. プリンターの追加は完了しました。「リターンキー」を押します。

```
Printer, pboxlp, has been added.
Press the return-key to return to configuration menu...
```

10. 登録内容確認画面へ戻ります。

「q」を2回入力し、setnetlpツールを終了させます。

```
Configurable Parameters:          Current Settings
-----
0) Done. Make Configuration now!
1) Lp destination name:           [pboxlp]
2) Remote System name:           [pbox]
3) Remote Printer name:          [lp]
4) Local Model Script:           [PS.nliio]

q) Quit

Select an item for change or select "0": q
```

11. テスト印刷を行い、正常に印刷されることを確認します。

例) 日本語テキストファイルの印刷

日本語テキストファイルを印刷する場合、以下のようなオプションが必要になります。(詳細はHP-UXのマニュアルをご参照ください。)

文字コード	lpオプション
シフトJIS	japanese
日本語EUC	japanese. euc

11-1. シフトJISのテスト印刷を行う場合

テスト印刷を行うコマンド例を下記に示します。

#lp -d pboxlp -ojapanese 半角スペースを空け、テキストの場所を指定します。

11-2. 日本語EUCのテスト印刷を行う場合

テスト印刷を行うコマンド例を下記に示します。

#lp -d pboxlp -ojapanese. euc 半角スペースを空け、テキストの場所を指定します。



参考

・登録したプリンターを削除するには下記のコマンドを入力します。

```
#/usr/sbin/setnetlp -x <destination>
```

<destination> は登録したプリンター名です。

AIX 4. x. x環境で使用する

IBM社のAIXから印刷するための設定を行います。
OSのバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。
ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。

1. プリントキューを作成します。

1-1. UNIXマシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

1-2. プリントサーバーを追加します。

例) 「pbox」という名前のホスト名を追加する場合

```
# ruser -a -p pbox
```

1-3. リモートプリンターデーモンを起動します。

```
# startsrc -s lpd
```

```
# mkitab 'lpd:2:once:startsrc -s lpd'
```

1-4. smitコマンドを利用してプリントキューの追加を行います。

1-4-1. smit コマンドを起動し、「印刷待ち行列の追加」の項目へ移行します。

```
# smit mkrque
```

1-4-2. 「接続タイプ」から「remote」（リモートホストに接続されたプリンター）を選択します。

1-4-3. 「リモート印刷のタイプ」から「標準処理」を選択します。

1-4-4. 「標準リモート印刷待ち行列の追加」で以下の項目を設定します。

（下記以外の設定はご利用環境に応じて変更してください。）

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合

追加する待ち行列	[pboxlp]
リモートサーバーのホスト名	[pbox]
リモートサーバー上の待ち行列名	[lp]
リモートサーバー上の印刷スプーラーのタイプ	[BSD]
リモートサーバー上のプリンター名記述	[任意のコメント]



- ・ リモートサーバー上の待ち行列名の「lp」は、本製品の論理プリンター名になります。
- ・ SJIS漢字テキストデータを印刷する場合は、「リモートサーバ上の待ち行列名」に[sjis]を入力することで直接SJIS漢字テキストデータを印刷することができます。

2. 印刷を行います。

2-1. 「lp」コマンドを使用して印刷します。

```
# lp -d pboxlp <印刷ファイル名>
```

3. 印刷要求を取り消します。

3-1. 「cancel」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# cancel pboxlp-<ジョブ番号>
```

4. プリンターの状態を確認します。

4-1. 「lpstat」コマンドを使用して、プリンターの状態を確認することができます。

```
# lpstat -p pboxlp
```



・ UNIXの仕様により、正常に表示できない場合があります。

注意

BSD系UNIXの環境で使用する

BSD系UNIXから印刷するための設定を行います。
OSのバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。
ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。

1. プリントキューを作成します。

1-1. UNIXマシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

1-2. /etc/printcap ファイルに本製品を登録します。

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合

```
pboxlp:¥ ..... ①
      :lp=:rm=pbox:rp=lp:¥ ..... ②
      :sd=/usr/spool/pboxlp:¥ ..... ③
      :lf=/usr/spool/pboxlp/pboxlp_errs: ..... ④
```

<各変数の意味>

① プリンター名を記述します。

② lp : プリンターを接続するためのデバイスファイル名。
ネットワークの場合は指定する必要はありません。

rm : リモートプリンターのホスト名。
/etc/hosts ファイルに登録したホスト名を入力します。

rp : リモートプリンターのプリンター名。
本製品の論理プリンター名で、lp、sjis、euc のいずれかを選択
します。

③ sd : スプールディレクトリー名。絶対パスで指定します。

④ lf : エラーログファイル名。絶対パスで指定します。

1-3. /etc/printcapファイルに登録したスプールディレクトリーとエラーログファイルを作成します。

例) スプールディレクトリー「pboxlp」及び、エラーログファイル「pboxlp_errs」を作成する場合

```
# mkdir /usr/spool/pboxlp          ←スプールディレクトリー作成
# touch /usr/spool/pboxlp/pboxlp_errs ←エラーログファイル作成
# chown -R daemon /usr/spool/pboxlp ←オーナーをdaemonに変更
# chgrp -R daemon /usr/spool/pboxlp ←グループをdaemonに変更
```

1-4. lpd (プリンターデーモン) が起動しているかを調べます。

```
# ps aux | grep lpd
```

lpdが動作していない場合、スーパーユーザーのアカウントで下記のコマンドを実行します。

```
# /usr/lib/lpd&
```

1-5. 作成したプリントキューを有効にします。

```
#lpc restart pboxlp
```

2. 印刷を行います。

2-1. 「lpr」コマンドを使用して印刷します。

```
# lpr -P pboxlp <印刷ファイル名>
```

3. 印刷要求を取り消します。

3-1. 「lprm」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# lprm -Ppboxlp <ジョブ番号>
```

4. プリンターの状態を確認します。

4-1. 「lpq」コマンドを使用して、プリンターの状態を確認することができます。



注意

- ・ UNIXの仕様により、正常に表示できない場合があります。
- ・ lpqのショートフォーマットはUNIX互換フォーマットですが、ロングフォーマットはプリンターの状態を表示する本製品独自のフォーマットとなっています。

例) ショートフォーマットの場合

```
# lpq -P pboxlp
```

例) ロングフォーマットの場合

```
# lpq -l -P pboxlp
```


Linux環境で使用する

Linuxから印刷するための設定を行います。

OSのバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。



・ Red Hat LinuxおよびTurbo Linuxのプリントキュー作成ツールにつきましては本章中「Red Hat Linuxのプリントキュー作成ツールを使用する」「Turbo Linuxのプリントキュー作成ツールを使用する」をご参照ください。

1. プリントキューを作成します。

1-1. UNIXマシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

1-2. /etc/printcap ファイルに本製品を登録します。

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前登録する場合

```
pboxlp:¥ ..... ①
      :lp=:rm=pbox:rp=lp:¥ ..... ②
      :sd=/usr/spool/pboxlp:¥ ..... ③
      :lf=/usr/spool/pboxlp/pboxlp_errs: ..... ④
```

<各変数の意味>

① プリンター名を記述します。

② lp : プリンターを接続するためのデバイスファイル名。
ネットワークの場合は指定する必要はありません。

rm : リモートプリンターのホスト名。
/etc/hosts ファイルに登録したホスト名を入力します。

rp : リモートプリンターのプリンター名。
本製品の論理プリンター名で、lp、sjis、euc のいずれかを選択します。

③ sd : スプールディレクトリー名。絶対パスで指定します。

④ lf : エラーログファイル名。絶対パスで指定します。

1-3. /etc/printcapファイルに登録したスプールディレクトリーとエラーログファイルを作成します。

例) スプールディレクトリー「pboxlp」及び、エラーログファイル「pboxlp_errs」を作成する場合

```
# mkdir /usr/spool/pboxlp          ←スプールディレクトリー作成
# touch /usr/spool/pboxlp/pboxlp_errs ←エラーログファイル作成
# chown -R daemon /usr/spool/pboxlp ←オーナーをdaemonに変更
# chgrp -R daemon /usr/spool/pboxlp ←グループをdaemonに変更
```

1-4. lpd (プリンターデーモン) が起動しているかを調べます。

```
# ps aux | grep lpd
```

lpdが動作していない場合、スーパーユーザーのアカウントで下記のコマンドを実行します。

```
# /usr/lib/lpd&
```

1-5. 作成したプリントキューを有効にします。

```
#lpc restart pboxlp
```

2. 印刷を行います。

2-1. 「lpr」コマンドを使用して印刷します。

```
# lpr -P pboxlp <印刷ファイル名>
```

3. 印刷要求を取り消します。

3-1. 「lprm」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# lprm -Ppboxlp <ジョブ番号>
```

4. プリンターの状態を確認します。

4-1. 「lpq」コマンドを使用して、プリンターの状態を確認することができます。



注意

- UNIXの仕様により、正常に表示できない場合があります。
- lpqのショートフォーマットはUNIX互換フォーマットですが、ロングフォーマットはプリンターの状態を表示する本製品独自のフォーマットとなっています。

例) ショートフォーマットの場合

```
# lpq -P pboxlp
```

例) ロングフォーマットの場合

```
# lpq -l -P pboxlp
```

Red Hat Linuxのプリントキュー作成ツールを使用する



ここではRed Hat Linux7.1のプリントキュー作成ツールを使ったプリンターの登録方法について説明します。ご使用のRed Hat Linux のバージョンによっては操作方法が異なる場合がありますのでご注意ください。

例) etc/hosts ファイルにIPアドレスが「192.168.10.100」、ホスト名が「pbox」で登録しており、プリントキュー名を「pboxlp」という名前登録する場合。

1. 「メインメニュー」 - 「プログラム」 - 「システム」 - 「プリンタ設定」を選択します。
2. [printconf. gui]の画面で[新規]ボタンをクリックします。
3. [名前とエイリアス]をクリックし、[プリンタ名]に「pboxlp」を入力し、「追加」をクリックします。
4. [エイリアス]にも「pboxlp」を入力します。「OK」をクリックします。
5. [プリンタタイプ]をクリックし、LPDを選択します。サーバーには「pbox」を入力し、プリンターには「lp」を入力します。
6. [プリンタドライバ]と[プリンタオプション]は、ご使用の環境に合わせたものを選択します。
7. すべての設定が終了した後、[プリンタの編集]画面の「OK」をクリックします。
8. [printconf. gui]画面に、作成したプリンターが表示・選択されていることを確認します。「適用」ボタンをクリックします。
9. [lpdの再起動は成功しました]というダイアログメッセージを確認し、「OK」をクリックします。
10. [printconf. gui]画面の「テスト」ボタンをクリックし、テストページが出力されれば設定終了です。

Turbo Linuxのプリントキュー作成ツールを使用する



・ここではTurbo Linux6.0のプリントキュー作成ツールを使ったプリンターの登録方法について説明します。ご使用のTurbo Linuxのバージョンによっては操作方法が異なる場合がありますのでご注意ください。

例) etc/hosts ファイルにIPアドレスが「192.168.10.100」、ホスト名が「pbox」で登録しており、プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合。

1. 「メインメニュー」 - 「Turbo Linuxツール」 - 「ターボセントロ」を選択します。
2. [Turbo Centro-GT]内の「Turboprintcfg」をクリックします。
3. [プリンタの設定]画面の「追加」をクリックします。
 - 3-1. [プリンタの追加]項目では、「リモートLPD キュー」を選択します。
 - 3-2. [新しいキュー名]項目では、「pboxlp」を入力します。
 - 3-3. [プリンタ設定の変更]項目では[LPD 設定]内の「変更」をクリックします。
 - 3-3-1. [ホスト名]には、「pbox」を入力します。
 - 3-3-2. [キュー名]には、「lp」を入力します。
 - 3-4. [プリンタタイプ]項目では「変更」をクリックし、ご使用の環境に合ったプリンタードライバを選択します。
 - 3-5. [用紙サイズ][色深度]設定は、ご使用の環境に合ったものを選択します。
4. すべての設定が終了した後、[プリンタの設定]画面の「OK」をクリックします。
5. 「保存及び終了」をクリックすると設定は完了です。

FTPを使用した印刷

TCP/IPのFTPプロトコルを使用して印刷する方法を説明します。

「ftp」コマンドの詳細は、ご使用のワークステーションのマニュアルをご覧ください。



参考

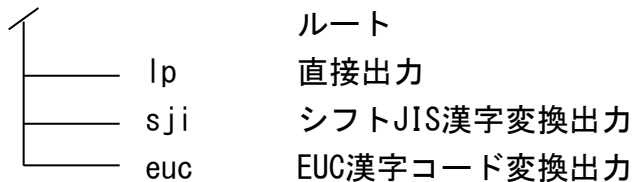
- ・FTPプロトコルについて

FTP (File Transfer Protocol) プロトコルは、TCP/IPでファイルを転送するためのプロトコルです。本製品の論理ディレクトリーに対して、印刷データを転送することで印刷を行います。

- ・論理ディレクトリーについて

本製品には、3つの論理ディレクトリーがあり、「cd」コマンドにて移動する必要があります。プリンタードライバーを使ったファイルを印刷する場合は「lp」のディレクトリーへ、シフトJIS漢字コードのテキストファイルへ変換し印刷する場合は「sjis」のディレクトリーへ、EUC漢字コードのテキストファイルへ変換し印刷する場合は「euc」のディレクトリーへ移動した後、印刷ファイルを転送してください。

<本製品の論理ディレクトリー構成>



印刷する

1. 本製品へログインします。



- ・「ftp」コマンドで印刷する場合、「User」と「Password」は、どのような入力をして印刷可能です。ただし、ユーザー名が「root」の場合は、環境設定で設定した「パスワード」が必要となります。

例) ホスト名「pbox」のプリンターにログインする場合
(または、IP アドレス「192.168.10.100」のプリンターにログインする場合)

```
#ftp pbox (または、 ftp 192.168.10.100 )
Connected to pbox
220 PR-LN1-H Ver 1.6.0 FTP Server.
User (FIT:root): root
331 Password required.
Password:
230 User Logged in.
ftp>
```

2. 「cd」コマンドで、転送先ディレクトリーへ移動します。



- ・本製品は、転送先ディレクトリーが階層構造となっています。また、ルートディレクトリーへの印刷データの出力は「lp」への出力として処理されます。

例) lp ディレクトリーへ移動し、現在のディレクトリーを確認する場合

```
ftp>cd /lp
250 Command Ok.
ftp>pwd
257 "/lp" is current directory.
ftp>
```

3. 転送モードを変更します。



参考

- ・転送モードには、LFコードをCR+LFコードに変換する「ASCIIモード」とファイルの内容をそのまま出力する「BINARYモード」の2種類があります。
プリンタードライバーで変換されたバイナリファイルを転送する場合は、転送モードを「BINARYモード」に設定します。（指定しない場合は「ASCIIモード」で出力されます。）

例) 転送モードをBINARYモードに変更し、現在のモードを確認する場合

```
ftp>type binary
200 Type set to I.
ftp>type
Using binary mode to transfer files.
ftp>
```

4. 「put」コマンドを用いて、印刷データを本製品へファイル転送します。

「put」コマンドによるファイル転送には、2種類の形式があります。

例) 印刷データ「test.prn」を転送する場合

```
ftp>put test.prn
```

印刷データをディレクトリー指定「/users/test/test.prn」で指定して転送する場合

```
ftp>put /users/test/test.prn /lp
```



参考

- ・印刷データをディレクトリー指定で印刷する場合は、転送先論理ディレクトリーを指定します。cdコマンドでディレクトリーを移動する必要はありません。

5. 「quit」コマンドを使い、本製品からログアウトします。

```
ftp>quit
```

状態を確認する



参考

- ・「quote」コマンドの「stat」を使って、IPアドレス、ログインユーザー名、転送モードの3つの状態を確認することができます。
また、「stat」の後にディレクトリー（lp, sjis, euc）を指定すると、プリンターの状態を確認することができます。

例) ・イーサネットボードの状態表示

```
ftp>quote stat
211-FTP server status:
Connected to: 192,168,10,100
User logged in: guest
Transfer type: BINARY
Data connection:Closed.
211 End of status.
ftp>
```

- ・プリンター（ディレクトリー名：lp）の状態表示

```
ftp>quote stat /lp
211-FTP directory status:
Ready
211 End of status.
ftp>
```


第5章 設定に関する機能

本章では、AdminManager、Webブラウザを利用して、詳細な設定を行う方法について説明します。

プロトコルと設定項目

本製品はセキュア(SSL)通信印刷機能、IPフィルター機能、セキュリティレベル設定機能をサポートしたことにより、従来製品でサポートしていたプロトコルおよび設定項目を一部削除しています。これらプロトコルや設定項目を使用するために、本製品ではファームウェアの書き換えを容易に行うことができるよう、アップロードプログラムおよびSSL対応版ファームウェア、SSL非対応版ファームウェアを製品添付CD-ROMに収録しました。本プログラムの使用方法等の詳細については、「ファームウェアアップロードツールについて」を参照してください。

下表にSSL対応版ファームウェアとSSL非対応版ファームウェアの各種プロトコルおよび設定項目のサポート状況を示します。

SSL対応/非対応によって、設定ユーティリティの画面が変わる場合があります。

本書では、主にSSL対応版を使用したときの画面で説明しています。

● 対応プロトコル一覧

	SSL対応版	SSL非対応版	備考	
対応 プロ トコ ル	LPR	○	○	
	RAW	○	○	
	IPP	○	○	
	HTTP	○	○	
	HTTPS	○	×	
	TELNET	○	○	
	FTP	○	○	
	SNMP	○	○	
	NetBEUI	×	○	
	SMTP	×	○	
	POP	×	○	
	DNS	×	○	
	RARP	○	○	
	DHCP/BOOTP	○	○	
	Setup Protocol	○	○	

● 対応設定項目一覧		SSL対応版	SSL非対応版	備考	
設定項目	TCP-IP設定	DNS Server	×	○	
		WINS	×	○	
		IPv6	×	○	
		NetworkPnP	×	○	
		Security Level	○	×	
	NetBEUI	×	○	SSL対応版には本項目がありません	
	E-Mail (POP)	×	○		
	E-Mail (SMTP)	×	○		
	Secure Print	Secure Print	○	×	
		SSL Mode	○	×	
	SSL証明書作成	証明書情報設定	○	×	本設定はWebブラウザーからのみ設定できます
		有効期限設定	○	×	

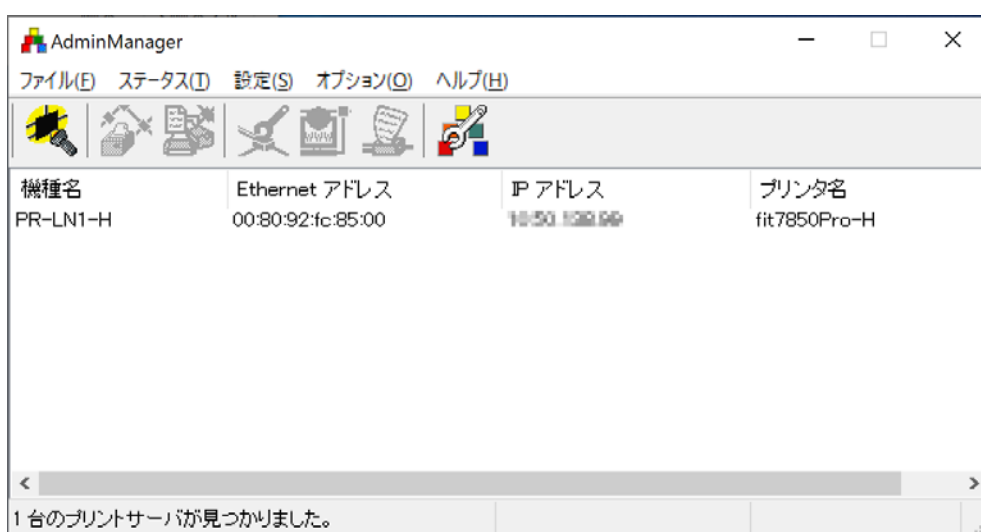
AdminManagerで設定する

総合ユーティリティー「AdminManager」は、本製品の詳細な設定および設定内容の変更を行うことができます。また、リモートでの再起動やメールの設定、プリンタステータスマニターなどの便利な機能をご利用いただくことができます。



注意

- AdminManagerをご利用になる場合、ご使用のパソコンにTCP/IPプロトコルがインストールされている必要があります。
- ご利用の環境および、ご使用の機種によっては、「AdminManager」に表示される内容が異なります。
- 「ユーザーアカウント制御」の画面が表示された場合は、「はい」または「許可」を選択してください。



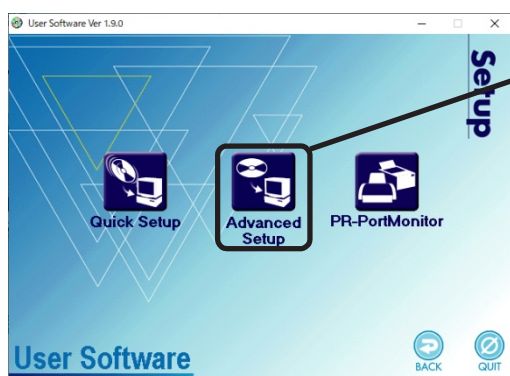
AdminManagerを起動する (インストールせずに直接CD-ROMから起動する場合)

1. 本製品に付属しているCD-ROMから、User Softwareを起動します。



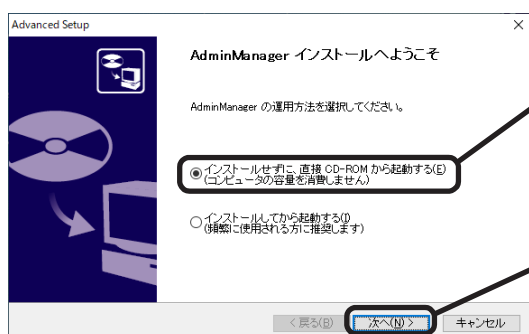
「セットアップ」をクリックします。

2. 「セットアップ」をクリックすると下記の選択画面が表示されます。



「Advanced Setup」をクリックします。

3. インストール確認画面が表示されます。



「インストールせずに、直接CD-ROMから起動する」を選択します。

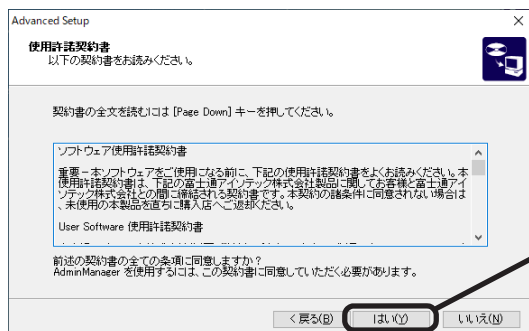
次へ をクリックします。



参考

・AdminManagerを頻繁に使用される方は、「インストールしてから起動する」を選択して、ご利用のパソコンにインストールすることをお奨めします。

4. ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



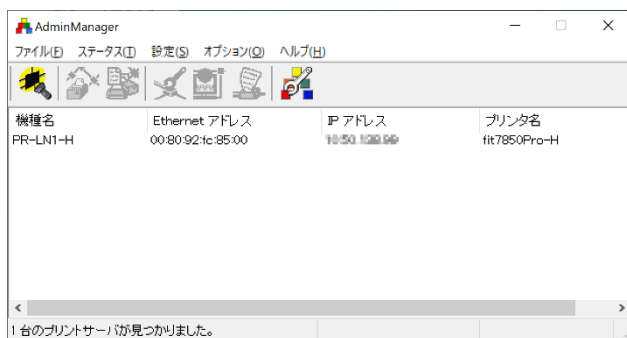
はい をクリックします。



注意

- ・「このアプリケーションを使用するには、Windows ファイアウォールの例外リストに登録する必要があります。アプリケーションを例外リストに登録しますか？」のメッセージが表示されたら「はい」をクリックします。

5. AdminManagerが起動します。



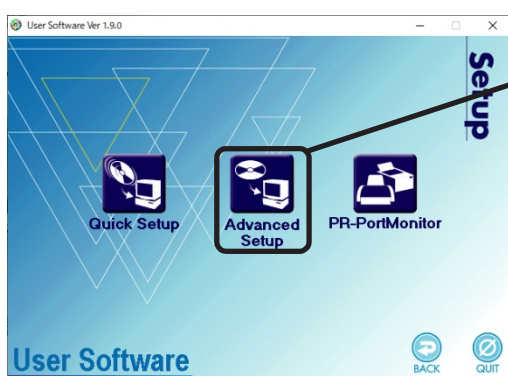
AdminManagerをインストールする (インストールしてから使用する場合)

1. 本製品に付属しているCD-ROMから、User Softwareを起動します。



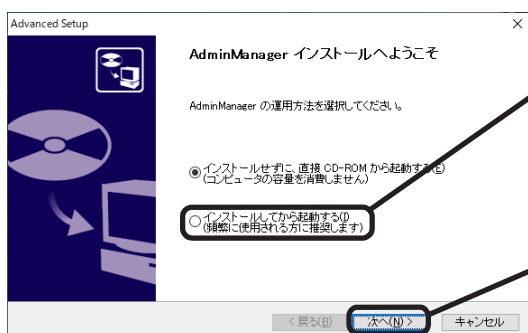
「セットアップ」をクリックします。

2. 「セットアップ」をクリックすると下記の選択画面が表示されます。



「Advanced Setup」をクリックします。

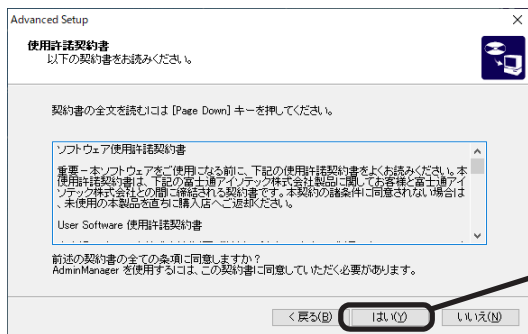
3. インストール確認画面が表示されます。



「インストールしてから起動する」を選択します。

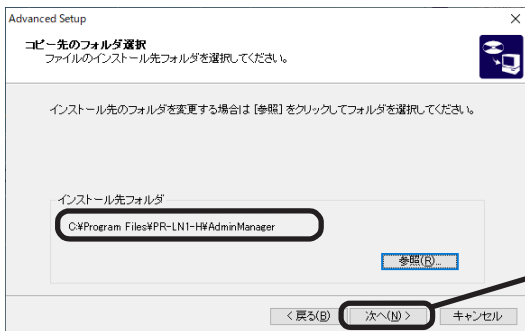
次へ をクリックします。

4. ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



はい をクリックします。

5. インストール先のフォルダーを指定します。



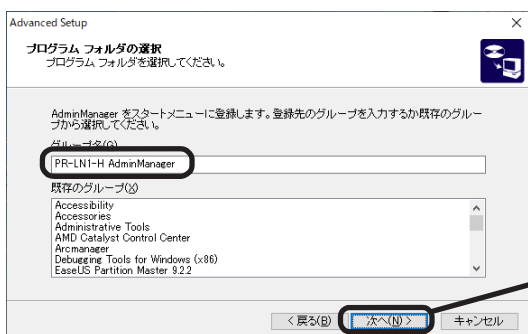
次へ をクリックします。



参考

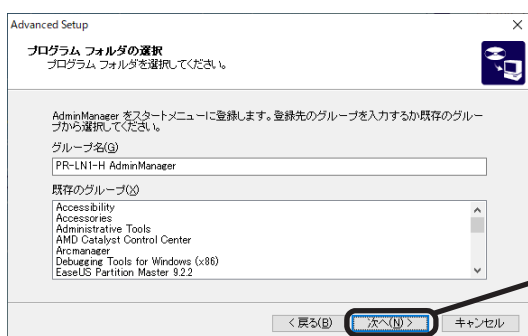
・ [参照] をクリックするとインストール先フォルダを選択できます。

6. スタートメニューに表示されるグループ名を入力します。



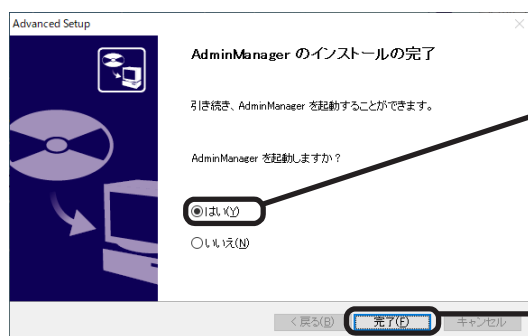
次へ をクリックします。

7. インストールを開始します。



開始 をクリックします。

8. インストール完了です。



「はい」を選択します。
AdminManagerを起動しない場合は、
「いいえ」を選択します。

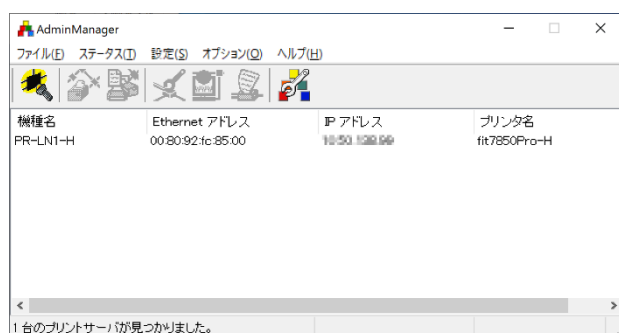
完了 をクリックします。



注意

- ・「このプリケーションを使用するには、Windows ファイアウォールの例外リストに登録する必要があります。アプリケーションを例外リストに登録しますか?」のメッセージが表示されたら「はい」をクリックします。

9. AdminManagerが起動します。



AdminManagerで本製品を検索する

本製品の設定を行う前に、AdminManagerで本製品が検索されることをご確認ください。本製品が検索されない場合は、「設定」-「IPアドレス設定」でIPアドレスの設定を行ってください。



参考

- ・ご利用のパソコンにセキュリティソフトウェアがインストールされていて、ファイアウォール機能が有効になっていると、本製品を検索できないことがあります。そのようなときは、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。

IPアドレス設定

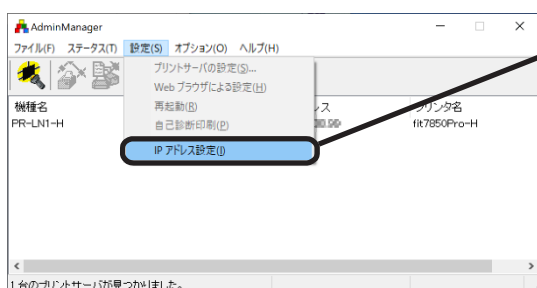
IPアドレスの設定を手動で行います。



参考

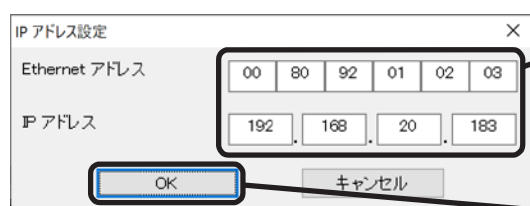
- ・本設定を行う前に、本製品のEthernetアドレスをご確認ください。Ethernetアドレスは本製品のシール表示を確認してください。
- ・初期導入または他機種のプリンターで使用されていた本製品を流用してお使いになる場合、検索で表示される本製品のプリンター名が実際と異なるプリンター名で検出されることがあります。その場合は、設定を行う前に本製品を初期化してください。(本製品の初期化に関しては、本章の「プリントサーバーの設定」を参照してください)

1.



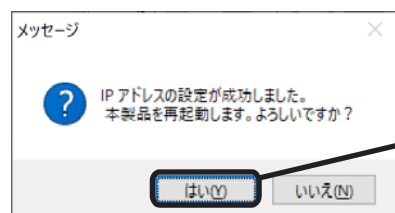
AdminManagerのメニューバーから「設定」-「IPアドレス設定」を選択してIPアドレス設定ツールを起動します。

2.



設定する製品のEthernetアドレスとIPアドレスを入力します。

OK をクリックします。



設定したIPアドレスを有効にするために本製品をリセットします。「はい」をクリックします。



注意

- ・AdminManagerの「再起動」処理はプリンターの機種によっては動作しないことがあります。この場合、プリンターの電源を再投入してください。

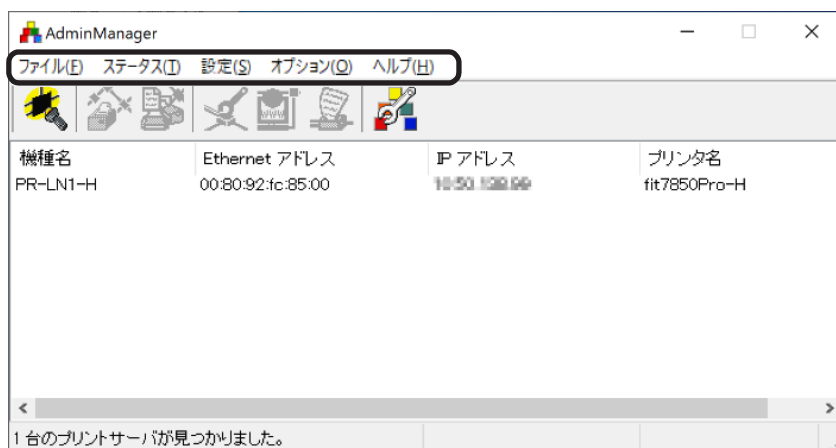
AdminManagerの機能

AdminManagerメニュー構成



注意

- ・ご利用の環境および、本製品の機種によっては、「AdminManager」に表示される内容が異なります。



メニュー	項目	説明
ファイル	検索	ネットワーク上の本製品を検索
	終了	AdminManagerを終了
ステータス	プリンタステータス	プリンタステータスマニターを表示
	システムステータス	システムステータスマニターを表示
	設定項目一覧表示	本製品の内部設定情報を表示
設定	プリントサーバの設定	本製品の各種設定
	Webブラウザによる設定	本製品のホームページを起動
	再起動	本製品の再起動
	自己診断印刷	本製品の自己診断印刷を実行
	IPアドレス設定	IPアドレスの手動設定
オプション	環境設定	AdminManagerの環境設定
ヘルプ	バージョン表示	AdminManagerのバージョンを表示

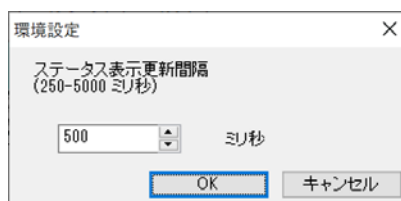


注意

- ・自己診断印刷機能は使用しないでください。

プリンタステータス

AdminManager画面にて選択した本製品が接続しているプリンタの状態が、リアルタイムに表示されます。また、環境設定画面にて、プリンタステータスの更新時間を指定することができます。



プリンタステータス環境設定

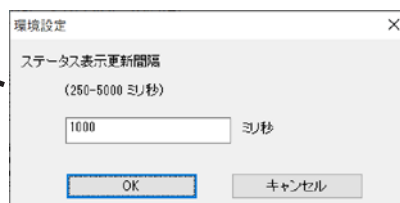
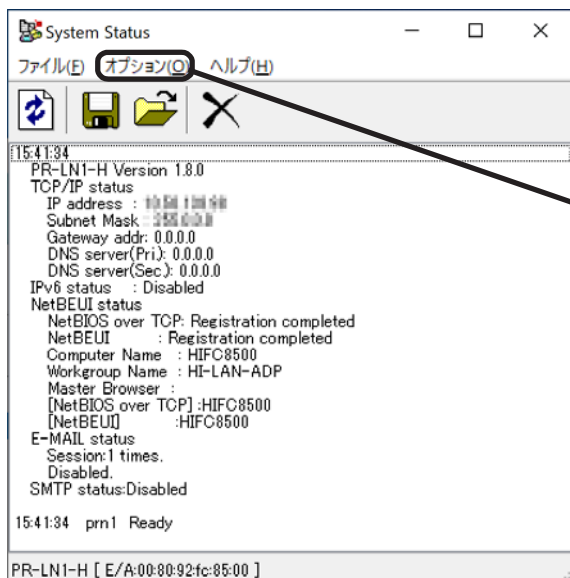


- ・プリンタの機種によっては、プリンタの状態を正常に取得できない場合があります。
- ・プリンタ名は本章の「General」-「プリンタ名」で設定した内容を表示します。

注意

システムステータス

AdminManager画面にて選択した本製品の動作状態がリアルタイムに表示されます。本製品の動作状態をファイルに保存（ログの登録）し、参照することができます。また、環境設定画面にて、システムステータスの更新時間を指定することができます。



- ・ご利用の本製品の機種によっては表示される項目が異なります。

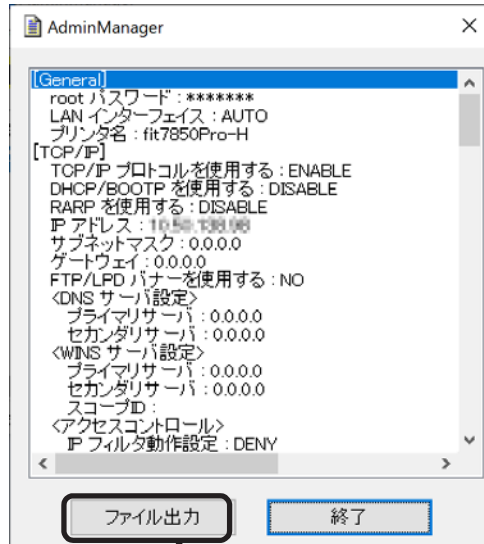
注意

設定項目一覧表示

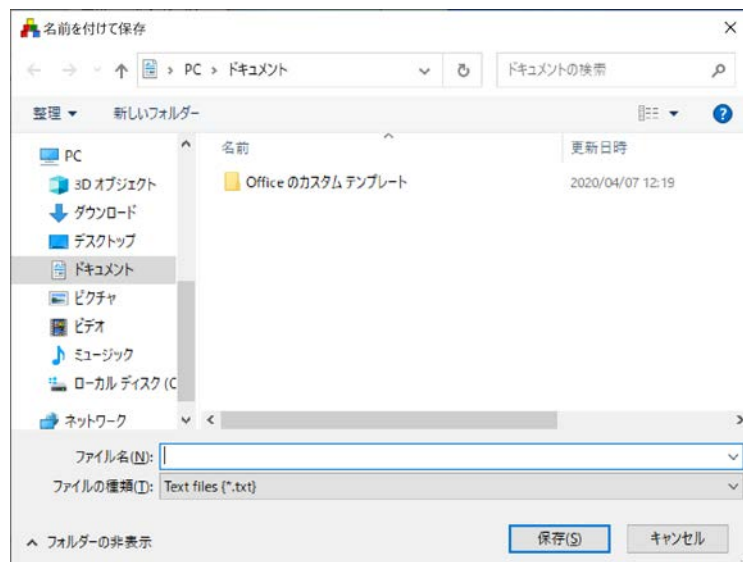
本製品に設定した各項目の設定値が一覧で表示されます。設定内容をファイル出力し、管理することができます。



- ・ご利用の本製品の機種によっては表示される項目が異なります。



クリックすると出力するファイルを保存する画面に移ります。



AdminManagerで本製品の設定を行う

プリントサーバーの設定

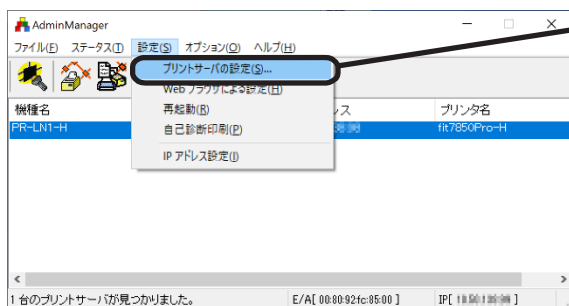
AdminManagerの「設定」－「プリントサーバの設定」で本製品の詳細設定および設定内容の変更を行います。



注意

- AdminManagerの「設定」－「プリントサーバの設定」には、拡張プリントマネージャを使用する場合に設定が必要になる「Another」に関する設定項目を選択することができません。
- 「Another」の設定を行う場合は、「設定」－「Webブラウザによる設定」または「設定」－「TELNETによる設定」を選択し、WebブラウザまたはTELNETから設定してください。
- SSL対応/非対応によって、「プリントサーバの設定」画面が変わります。本書では、主にSSL対応版を使用したときの画面で説明しています。

1.

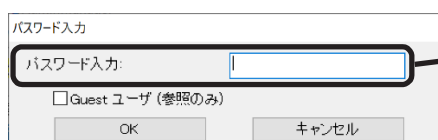


設定を行う本製品を指定し、AdminManagerのメニューバーから「設定」－「プリントサーバの設定」を選択します。



参考

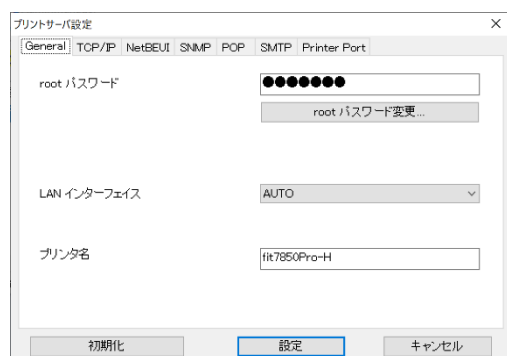
- 本製品にパスワードが設定されている場合、「パスワード入力」画面が表示されます。
- 「Guestユーザ」チェックボックスをチェックした場合は設定情報を確認することはできますが、設定内容の変更は行えません。



パスワードの初期値は空白で結構です。

パスワード入力画面

2.



左の画面が表示されます。設定を行いたいタブを選択し、設定を行います。



参考

- 初期化について
「初期化」をクリックすると、本製品を工場出荷設定に戻します。
パスワードが未設定の場合でも、パスワード入力画面が表示されますが、ブランクのままとしてください。
他のネットワークに移設した場合は、移設前の環境に接続し、本設定を行ってください。

General の設定

ネットワークの一般的な設定を行います。

タブ	項目	設定内容	工場出荷設定
General	rootパスワード	本製品の管理パスワードをASCII文字列（7文字以内）で設定します。このパスワードはAdminManager、TELNET、Webで設定を行う際の認証パスワードとして使用します。本項目は設定の有無に関わらず、“*”を表示します。	なし
	rootパスワード変更	パスワードの変更を行います。	-
	LANインターフェイス	物理ネットワークの種別を設定します。通常はAUTOで使用してください。本製品の電源投入時に本製品が接続されるHUBのLINKランプが点灯しない場合は、この設定を接続HUBのネットワーク種別に変更します。設定項目はAUTO/10HALF/10FULL/100HALF/100FULLです。	AUTO
	プリンタ名	プリンター名を設定します。 (半角最大31文字、全角最大15文字)	なし

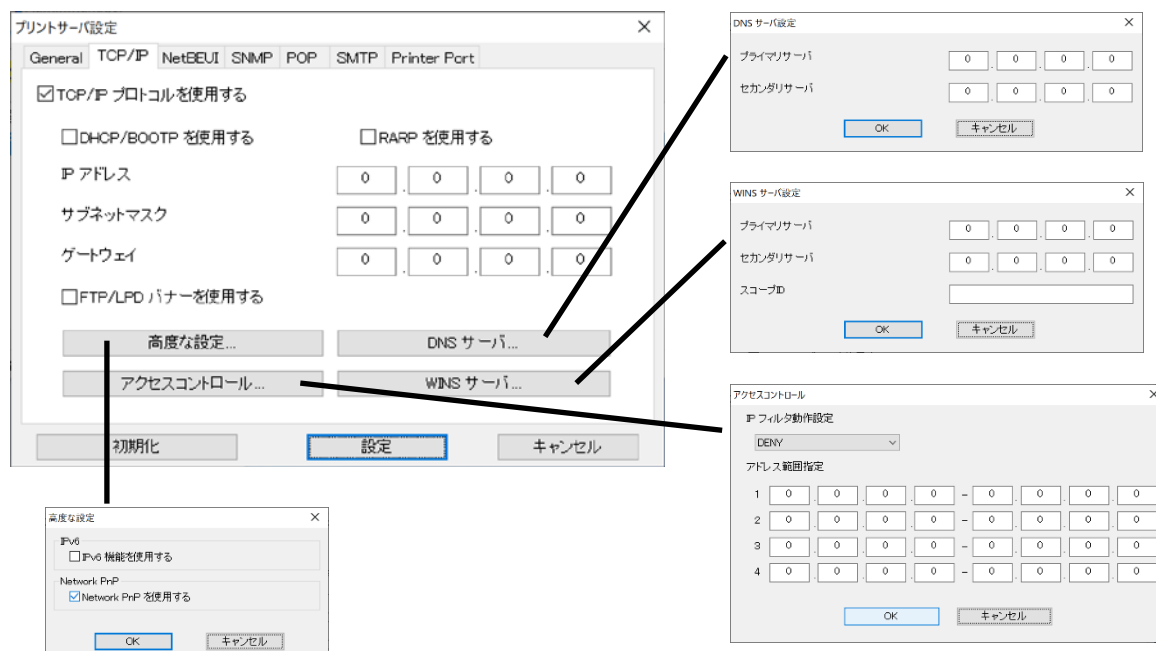


・初期化ボタンをクリックすると、本製品の設定値を工場出荷値に戻します。

注意

TCP/IPの設定

IPアドレス等、TCP/IPプロトコルを使用するための設定、およびセキュリティ機能を強化するために、IPアドレスによるアクセスコントロールに関する設定を行います。



タブ	項目	設定内容	工場出荷設定
TCP/IP	TCP/IPプロトコルを使用する	TCP/IPプロトコルの有効 (ENABLE)、無効 (DISABLE) を設定します。通常は有効 (ENABLE) にしてください	ENABLE
	DHCP/BOOTPを使用する	DHCP/BOOTPプロトコルの有効 (ENABLE)、無効 (DISABLE) を設定します。 DHCPとBOOTPを自動認識し、先に応答のあったIPアドレスを自分のアドレスとして採用します。	DISABLE
	RARPを使用する	RARPプロトコルの有効 (ENABLE)、無効 (DISABLE) を設定します。	DISABLE
	IPアドレス	本製品のIPアドレスを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
	サブネットマスク	本製品のサブネットマスクを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。 「0.0.0.0」は無効になり、IPアドレスに応じたサブネットマスクが自動的に使用されます。	0.0.0.0
	ゲートウェイ	本製品のデフォルトゲートウェイを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。 「0.0.0.0」は無効になります。	0.0.0.0
	FTP/LPDバナーを使用する	FTPまたはLPD印刷時のバナーページ印刷を有効 (ENABLE) にします。	DISABLE

タブ	項目		設定内容	工場出荷設定
TCP/IP	DNSサーバ	プライマリサーバ	DNSサーバー(プライマリー)のアドレスを設定します。 POP/SMTPサーバー名をIPアドレスで直接設定する場合は、設定する必要はありません。 10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
		セカンダリサーバ	DNSサーバー(セカンダリー)のアドレスを設定します。 POP/SMTPサーバー名をIPアドレスで直接設定する場合は、設定する必要はありません。 10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
	WINSサーバ	プライマリサーバ	WINSサーバー(プライマリー)アドレスを設定します。 WINSサーバーはホスト名をIPアドレスに割り当てます。 本設定により、TCP/IP印刷の際にIPアドレスを使用せず、NetBIOSで設定したホスト名で印刷を行うことができます。 設定値は、10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
		セカンダリサーバ	WINSサーバー(セカンダリー)アドレスを設定します。	0.0.0.0
		スコープID	スコープIDは登録されたホスト名を認識するパソコンのグループを定義します	なし
	高度な設定	IPv6 機能を使用する	IPv6使用有無を指定します。	DISABLE
		NetworkPnPを使用する	UPNP機能の使用有無を指定します。	ENABLE
	アクセスコントロール	IPフィルタ動作設定	IPフィルターの動作を設定します。 設定には「allow」と「deny」があり、「allow」にすると設定したIPアドレス範囲からのみデータを受けとります。 「deny」にすると設定したIPアドレス範囲からのデータを受けとりません。	DENY
		アドレス範囲指定	IPフィルターの範囲を設定します。 フィルターしたいIPアドレスの範囲は4組まで設定できます。 設定が不要な場合はアドレス範囲を「0.0.0.0」から「0.0.0.0」にしてください。	0.0.0.0



注意

- ・「TCP/IPプロトコルを使用する」、「DNSサーバ」は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL対応版のファームウェアでは表示しません。
- ・「WINSサーバ」、「IPv6機能を使用する」、「NetworkPnP機能を使用する」は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL対応版のファームウェアでは表示しません。



参考

- ・DHCPプロトコルで使用する場合は、「RARP/BOOTPを使用する」設定を無効にしてください。

NetBEUI/NetBIOS の設定

タブ	項目	設定内容	工場出荷設定
NetBEUI/ NetBIOS	NetBEUIプロトコルを使用する	NetBEUIプロトコルの有効(ENABLE)、無効(DISABLE)を設定します。	ENABLE
	NetBIOS over TCPを使用する	NetBIOS over TCPプロトコルを有効(ENABLE)、無効(DISABLE)を設定します。 通常、NetBIOSによるサービスはNetBEUIプロトコルを使用します。 本設定を有効(ENABLE)にすると、プロトコルをNetBEUIからTCP/IPに変更します。	ENABLE
	コンピュータ名	Windowsのエクスプローラーに表示されるコンピュータ名を設定します。	Hixxxxxx (Ethernetアドレス下6桁)
	ワークグループ	本製品が所属するワークグループを設定します。 ネットワークに無い、新しいワークグループ名はワークグループとして認識されません。	HI-LAN-ADP
	コメント	本製品のコメント(説明)を設定します。 ここで設定した情報が、Windowsのエクスプローラーにて本製品のコメント(説明)として表示されます。	PR-LN1-H
	マスターブラウザ機能を有効にする	マスターブラウザ機能を有効(ENABLE)にします。 本機能を有効(ENABLE)にすると、同一ワークグループ/同一ドメイン内の各マシン名等を提供します。	ENABLE



注意

- ・本設定は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。
SSL対応版のファームウェアでは表示しません。

SNMP の設定

ネットワーク経由で管理を行なうための設定を行います。

タブ	項目	設定内容	工場出荷設定	
SNMP	認証コミュニティ名	SNMPの認証コミュニティ名を設定します。このコミュニティ名は SNMP Set Request を受け付けるときに認証されます。(半角で最大15文字) 本項目は設定の有無に関わらず、“*”や“●”を表示します。	public	
	Trapコミュニティ	SNMPのトラップコミュニティを設定します。このコミュニティ名は本製品がトラップを発行するときに使用されます。(半角で最大15文字)	public	
	Trap通知先アドレス	SNMPトラップの送信先IPアドレスを設定します。設定値は、10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」を設定するとこの項目は無効になり、いかなる場合でもトラップは発行されなくなります。	0.0.0.0	
	MIB-II 設定項目	SysContact	SysContactを設定します。通常は管理者のメールアドレスを設定します。(半角で最大255文字、全角で最大127文字)	なし
		SysName	SysNameを設定します。通常は本製品のホスト名またはドメイン名を設定します。(半角で最大255文字、全角で最大127文字)	なし
		SysLocation	SysLocationを設定します。通常は本製品のある場所を設定します。(半角で最大255文字、全角で最大127文字)	なし
		Enable Authen Trap	Enable AuthenTrapの有効(ENABLE)、無効(DISABLE)を設定します。この設定を有効(ENABLE)にすると、SNMPでコミュニティ違反が発生した時、SNMPトラップが「Trap通知先アドレス」で設定したIPアドレスに向けて発信されます。	DISABLE

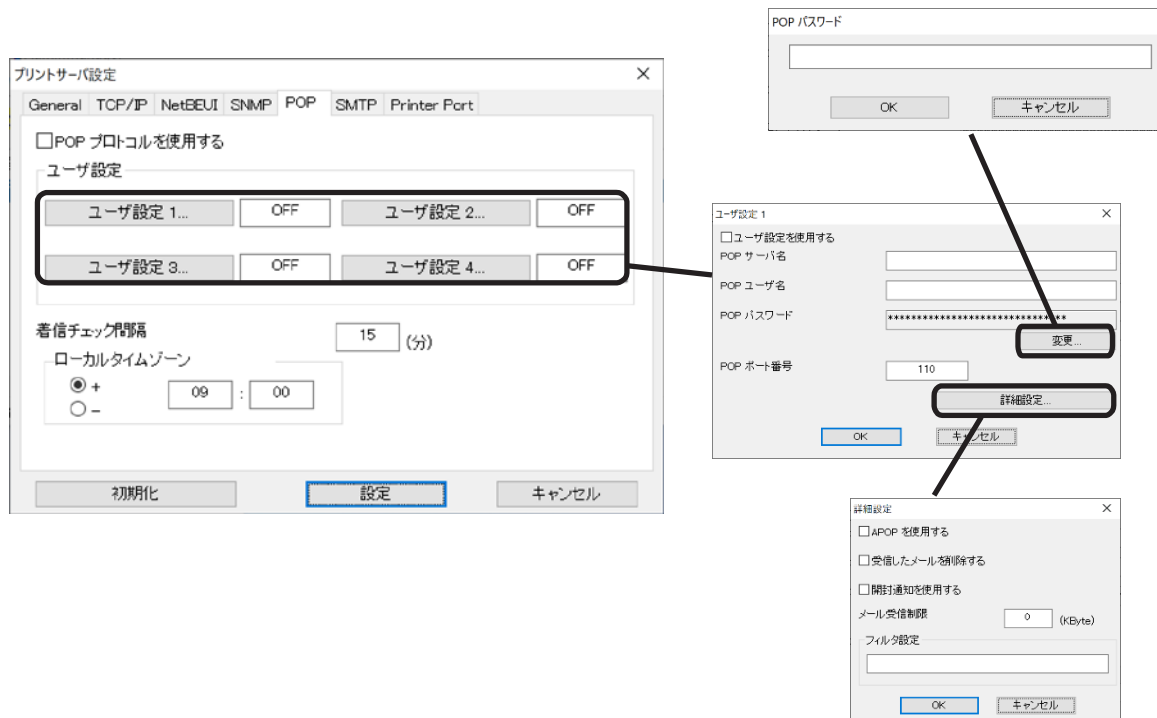


注意

- ・本製品では以下のトラップをサポートしています。
 - coldStart (電源投入時、発行するトラップ)
 - authenticationFailure (認証エラー時、発行するトラップ)
 - enterpriseSpecific (プリンターエラー時、発行するトラップ)
- ・本製品から発行されたトラップをSNMPマネージャーが受信するためには、両方が同じコミュニティ(管理グループ)に存在する必要があります。コミュニティ名が空白または不一致の場合は、SNMPマネージャーはトラップを受信できませんのでご注意ください。
- ・セキュリティ対策のため、初期値(public)を変更することをおすすめします。
- ・情報の設定は、全角文字の入力も可能ですが、記号(株「ℓ」など)や半角カナには対応していません。また、お使いの環境によっては正しく表示されない場合があるので、半角英数字での入力をおすすめします。

POPの設定

メールサーバーにあるメールを受信するための設定を行います。



タブ	項目	設定内容	工場出荷設定		
POP	POPプロトコルを使用する	POPプロトコル(メール受信機能)の有効(ENABLE)無効(DISABLE)を設定します。	DISABLE		
	ユーザー設定 (1~4)	ユーザー設定を使用する	各ユーザーのメール受信機能の有効(ENABLE)、無効(DISABLE)を設定します。	ENABLE	
			POPサーバ名	メールサーバーのホスト名(またはIPアドレス)を設定します。ドメイン名を使用する場合はDNSサーバーの設定が必要です。(半角で最大78文字)	なし
			POPユーザ名	メールアカウントのログイン名(ユーザー名)を設定します。(半角で最大31文字)	なし
			POPパスワード	メールサーバーに接続する際に使用するパスワードを設定します。(半角で最大31文字)	なし
			POPポート番号	POPポート番号を設定します。通常はデフォルト値(110)で使用してください。	110
	詳細設定	APOPを使用する	サーバーでAPOP使用の有効(ENABLE)、無効(DISABLE)を設定します。APOPを利用するには、メールサーバーがAPOPに対応している必要があります。	DISABLE	
		受信したメールを削除する	本製品が受信・印刷したメールをメールサーバー上から削除するかを有効(ENABLE)、無効(DISABLE)で設定します。添付ファイルのあるメールはこの設定を有効(ENABLE)にしてもメールは削除されません。	DISABLE	
		開封通知を使用する	開封通知が指されたメールに対して返信を行うかを設定します。開封通知メールは、SMTP設定のサーバー情報に対して送信処理を行います。	DISABLE	

タブ	項目		設定内容	工場出荷設定
POP	ユーザ設定 (1~4)	詳細設定	メール受信制限	0
			フィルタ設定	なし
		着信チェック間隔(分)	メールサーバーに着信を問い合わせる間隔を分単位で設定します。	15
		ローカルタイムゾーン	タイムゾーンを設定します。日本での使用は"+09:00"となります。	+9:00



注意

- ・本設定は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL対応版のファームウェアでは表示しません。

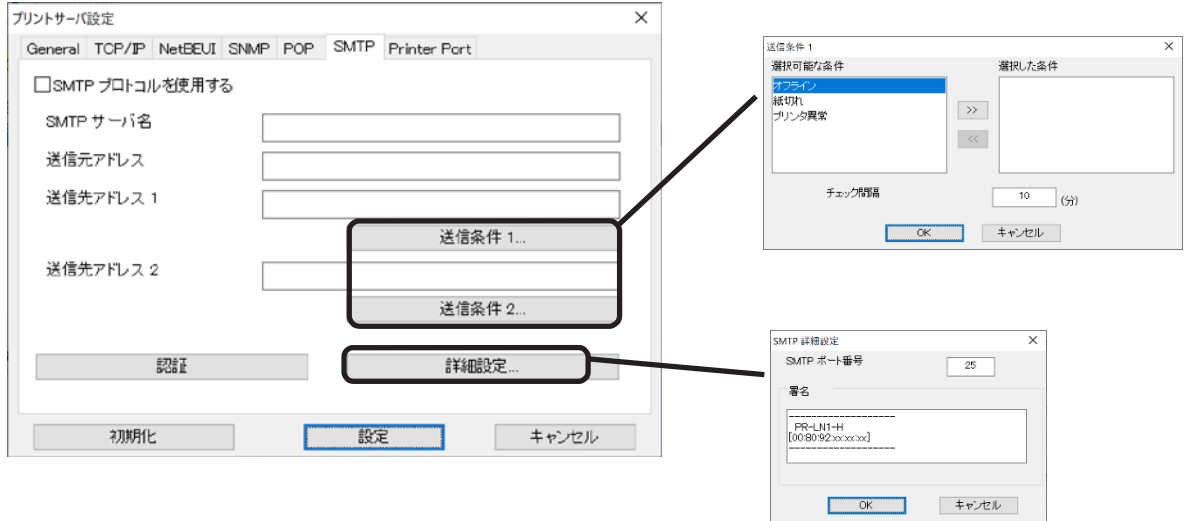


参考

- ・メール受信機能を有効にした場合、受信したメールを印刷しますので用紙をセットしておくことをお奨めします。

SMTPの設定

プリンターのオフライン状態や用紙切れ状態等を通知するための設定を行います。



タブ	項目	設定内容	工場出荷設定	
SMTP	SMTPプロトコルを使用する	SMTPプロトコルの有効 (ENABLE)、無効 (DISABLE) を設定します。無効 (DISABLE) にするとE-Mail送信機能が停止します。	DISABLE	
	SMTPサーバ名	SMTPサーバのホスト名を設定します。ホスト名にはドメイン名またはIPアドレスを入力します。ドメイン名を使用する場合はDNSサーバの設定が必要です。(半角で最大78文字)	なし	
	送信元アドレス	送信元のアドレスを設定します。通常はネットワーク管理者のメールアドレスを設定します。(半角で最大78文字)	なし	
	送信先アドレス (1~2)	送信先のメールアドレスを設定します。(半角で最大78文字)	なし	
	送信条件 (1~2)	選択条件 オフライン	プリンターがオフラインになったときメールを送信します。	OFF
		用紙切れ	プリンターの用紙がなくなったときメールを送信します。	OFF
		プリンタ異常	プリンターに異常が発生したときメールを送信します。	OFF
		チェック間隔	イベントの記録があるかを一定間隔 (分単位) でチェックします。この間隔内に1つ以上のイベントが発生した場合、その記録をまとめて送信します。	10
	詳細設定	SMTPポート番号	SMTPポート番号を設定します。通常はデフォルト値 (25) で使用してください。	25
		署名	メールの送信メッセージの文末に付加する文字列の内容を設定します。(半角で最大各63文字)	----- PR-LN1-H [00:80:92:XX:XX:XX] ----- (製品名とEthernet アドレス下6桁)

タブ	項目	設定内容	工場出荷設定
SMTP	認証	SMTP認証を使用	SMTP認証の使用有無を指定します。
		ユーザ名	SMTP認証名を指定します
		パスワード	SMTP認証パスワードを指定します。本項目は設定の有無に関わらず、“*”を表示します。
			工場出荷設定
			DISABLE
			なし
			なし



- ・本設定は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。
SSL対応版のファームウェアでは表示しません。

メール形式例

```
[SYSTEM STATUS]
PR-LN1-H Version 1.6.0
TCP/IP status
  IP Address : 192.168.1.230 (DHCP)
  Subnet Mask : 255.255.255.0
  Gateway addr : 192.168.1.10
DHCP Server : 192.168.1.1
Lease time : 259200sec
  DNS server (Pri.) : 192.168.1.1
  DNS Server (Sec.) : 192.168.1.2
E-MAIL status
  Session:1 times.
POP3 USER1
  NAME :printia
  SEEVER :192.168.1.4:110(1st Session)
MODE :UIDL
  STATUS :RETR 0 / DELETED 0 / FILTERED 0
  RESULT :Success
POP3 USER2
  RESULT :Disabled
POP3 USER3
  RESULT :Disabled
POP3 USER4
  RESULT :Disabled
SMTP status
TO-ADDR1
  E-MAIL Address:<xxxxx@fit.fujitsu.com>
  Last Session :Success
  Current status:Idle
  Try to send :3 times.
  Fail to sendr :0 times.
TO-ADDR2
  E-MAIL Address:<yyyyy@fit.fujitsu.com>
  Last Session :Nothing
  Current status:Waiting for Interval time
  Try to send :0 times.
  Fail to sendr:0 times.

[PRINTER STATUS]
00:04:27 <00101111> Not Ready (Busy PaperEmpty Fault) and Printing
00:03:08 <00101110> Not Ready (Busy PaperEmpty Fault)
00:03:03 <00100110> Not Ready (Busy Fault)
00:01:58 <00100110> Not Ready (Busy Fault)
-----
PR-LN1-H
[00:80:92:01:23:45]
-----
```

PrinterPortの設定

プリンターへ出力するための詳細設定を行います。

タブ	項目	設定内容	工場出荷設定	
Printer Port	無変換出力設定	BOJ 文字列	直接出力ポート (lpポート) に出力する前に、プリンターに送出する文字列を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。(半角で最大31文字)	なし
		EOJ 文字列	直接出力ポート (lpポート) に出力した後に、プリンターに送出する文字列を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。(半角で最大31文字)	なし
Printer Port	漢字変換出力設定	BOJ 文字列	漢字フィルター経由出力ポート (sjis/eucポート) に出力する前に、プリンターに送出する文字列を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。(半角で最大31文字)	なし
		EOJ 文字列	漢字フィルター経由出力ポート (sjis/eucポート) に出力した後に、プリンターに送出する文字列を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。(半角で最大31文字)	¥f
	プリンタ エミュレーション	プリンターのエミュレーション (PDL) に応じた設定をします。漢字フィルター経由出力ポート (sjis/euc) に出力する際に、プリンターのエミュレーションに応じたコードに変換します。	ESC/P	
	タブサイズ	漢字フィルター経由で出力する時のタブコード (0x09) を半角スペース (0x20) に変換する文字数を設定します。この文字数を0にすると、タブ変換処理は行われません。設定値は、0~16です。	8	
	1行の文字数	漢字フィルター経由で出力する時の1行の文字数を設定します。設定値は、0~255です。	0	
	1頁の行数	漢字フィルター経由で出力する時の1頁の行数を設定します。設定値は、0~255です。	0	



参考

- ・BOJ文字列、EOJ文字列の定義は、ダブルコーテーション (") の間に入力してください。そのため、BOJ文字列、EOJ文字列にはダブルコーテーションは使用しないでください。(16進表記も同様の扱いとなりますので使用しないでください)

Webブラウザで設定する

本製品はHTTPプロトコルを搭載していますので、Webブラウザを利用して本製品の詳細な設定および設定内容の変更を行うことができます。また、リモートでの再起動やE-mail機能の設定、プリンタステータスマonitorなどの便利な機能をご利用いただくことができます。



注意

- ・Webブラウザを利用する場合、本製品のTCP/IPプロトコル設定が有効であり、IPアドレスが設定されている必要があります。
- ・Webブラウザは、Internet Explorer 6.0以降のバージョンを推奨します。また、ご利用になるWebブラウザによって多少表示が異なる場合があります。
- ・本製品の機種によっては、Webブラウザに表示される内容が異なります。
- ・Webブラウザで設定変更を行った場合は、必ず「プリントサーバ再起動」を実行してください。

The screenshot shows a web browser window displaying the PR-LN1-H management interface. The browser address bar shows 'PR-LN1-H ホームページ'. The interface has a dark blue sidebar on the left with navigation options: 'ステータス表示' (Status Display) with sub-items 'プリンタステータス' (Printer Status) and 'システムステータス' (System Status); and '設定の変更' (Change Settings) with sub-items 'プリントサーバ機能' (Printer Server Function), 'E-Mail 受信機能' (E-Mail Reception Function), 'E-Mail 送信機能' (E-Mail Transmission Function), 'プリントサーバ再起動' (Printer Server Restart), and '工場出荷時設定' (Factory Default Settings). The main content area is light blue and contains several status sections, each with a '[再表示]' (Refresh) link:

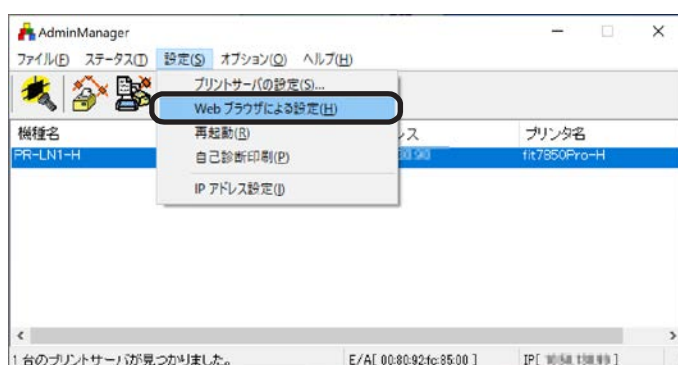
- プリンタステータス (fit7850Pro-H)**: Shows 'オンラインです。' (Online).
- システムステータス**:
 - TCP/IP status**: TCP/IP status is enabled. IP address, Subnet Mask, Gateway addr, DNS server (Pri.), and DNS server (Sec.) are all 0.0.0.0. IPv6 status is Disabled.
 - NetBEUI status**: NetBEUI status is enabled. NetBIOS over TCP: Registration completed. NetBEUI: Registration completed. Computer Name: HIFC8500. Workgroup Name: HI-LAN-ADP. Master Browser: [NetBIOS over TCP]: HIFC8500. [NetBEUI]: HIFC8500.
 - E-MAIL status**: E-MAIL status is enabled. Session: 1 times. Disabled.
 - SMTP status**: SMTP status: Disabled.

本製品のWebページを表示する

設定を行う本製品のWebページを表示します。表示方法は2つあります。

AdminManagerからWebページを表示する

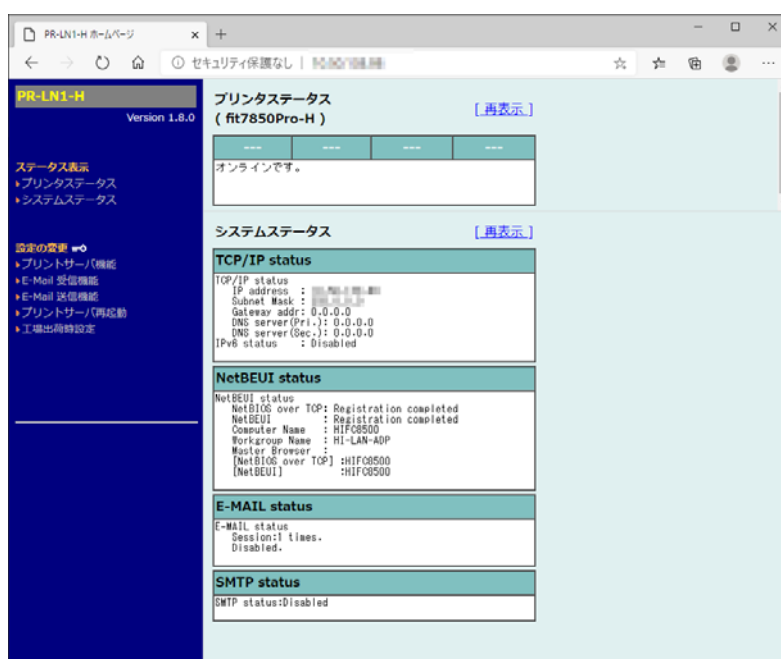
AdminManagerの一覧表示の中から、設定を行う本製品を選択し、メニューの「設定」-「Webブラウザによる設定」をクリックします。



WebブラウザからWebページを表示する

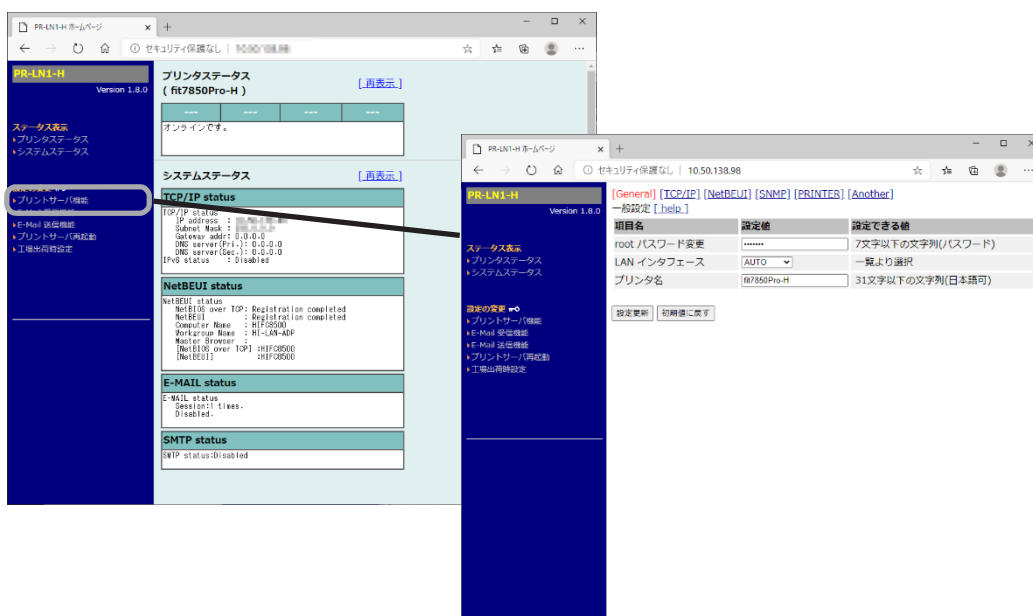
本製品に設定されたIPアドレスをWebブラウザに入力します。

例 : http://192.168.20.185



本製品のWebページから設定する

Webブラウザに表示されている設定項目から設定したい項目をクリックすると、設定Web画面が表示されます。必要な項目に設定値を入力してください。



本製品Webページメニュー構成

ステータス表示	プリンタステータス	プリンタステータスを表示
	システムステータス	システムステータスを表示
設定の変更	プリントサーバ機能	本製品の各種設定
	E-Mail受信機能	E-Mail受信機能の設定
	E-Mail送信機能	E-Mail送信機能の設定
	トップページのカスタマイズ	本製品のWebページの表示設定
	SSL証明書作成	セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するための証明書作成
	プリントサーバ再起動	本製品の再起動
	工場出荷時設定	本製品の工場出荷時設定実行



注意

- ・設定変更の項目へ移る時に、ユーザー名を入力する画面が表示された場合は、「root」を入力してください。
- ・設定更新により設定を更新した場合は、設定の変更の「プリントサーバ再起動」を行い、本製品の再起動を行ってください。
- ・E-Mail受信機能及びE-Mail送信機能は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL対応版のファームウェアでは表示しません。
- ・SSL証明書作成はSSL対応版ファームウェアでサポートしています。SSL非対応版ファームウェアでは表示しません。
- ・SSL証明書作成はWebページからのみ作成可能です。

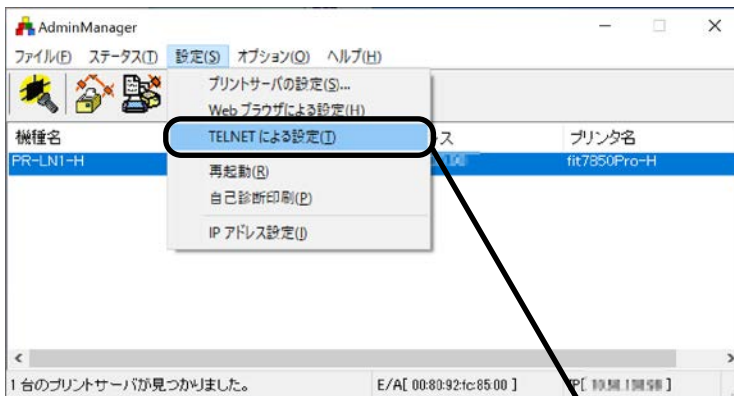
TELNETで設定する

本製品はTELNETプロトコルを搭載していますので、UNIXマシンまたは、パソコンのTCP/IPソフトに付属のTELNETを利用して本製品の詳細な設定及び設定内容の変更を行うことができます。



注意

- ・ TELNETを利用する場合は、IPアドレスが設定されている必要があります。
- ・ TELNETで設定を行うにはrootユーザーでログインする必要があります。
- ・ TELNETは、「Windows の機能の有効化または無効化」から、「Telnet Client」を追加してください。



Webブラウザ/TELNET設定項目

プリントサーバー機能

General

ネットワークの一般的な設定を行います。

項目		設定内容	工場出荷設定	
WEBブラウザ	TELNET			
General	一般設定 / Configure General			
	rootパスワード	Change root Password	本製品の管理パスワードをASCII文字列(7文字以内)で設定します。このパスワードはAdminManager、Webで設定を行う際の認証パスワードとして使用します。本項目は設定の有無に関わらず"*"を表示します。	なし
	rootパスワード変更	—	パスワードの変更を行います。	—
	LANインターフェース	LAN Interface	物理ネットワークの種別を設定します。通常はAUTOで使用してください。本製品の電源投入時に本製品が接続されるHUBのLINKランプが点灯しない場合は、この設定を接続HUBのネットワーク種別に変更します。設定項目はAUTO/10HALF/10FULL/100HALF/100FULLです。	AUTO
プリンタ名	Printer Name	プリンター名を設定します。(半角最大31文字、全角最大15文字)	Device IDから取得するModel名	

TCP/IP

IPアドレスなど、TCP/IPプロトコルを使用するための設定を行います。

	項目		設定内容	工場出荷設定
	WEBブラウザ	TELNET		
TCP/IP	TCP/IP設定 / Configure TCP/IP			
	TCP/IPプロトコル	TCP/IP Protocol	TCP/IPプロトコルの有効 (ENABLE)、無効 (DISABLE) を設定します。 通常は有効 (ENABLE) に設定してください。 TCP/IPとは、ネットワーク上で通信を行う為のネットワークプロトコルの1つです。 TCP/IPのプロトコルを利用する事により、多種多様なWindows やその他のオペレーティングシステム同士での通信が可能になる事から、主流となっているネットワークプロトコルです。	ENABLE
	DHCP/BOOTP	DHCP/BOOTP	DHCP/BOOTPプロトコルの有効 (ENABLE) 無効 (DISABLE) を設定します。 DHCP/BOOTPは、起動時にDHCPサーバーまたはBOOTPサーバーからIPアドレスの取得を行うプロトコルです。 本製品のIPアドレスをDHCP/BOOTPによって設定するには、サブネットワーク内に適切に設定されたDHCP/BOOTPサーバーが稼動していなければなりません。 本設定を有効 (ENABLE) にすると、DHCPとBOOTPを自動認識し、先に応答のあったIPアドレスを自分のアドレスとして採用します。	DISABLE
	RARP	RARP	RARPプロトコルの有効 (ENABLE)、無効 (DISABLE) を設定します。 RARP (Reverse Address Resolution Protocol) とは、クライアントが起動時にRARPサーバーからIPアドレスやホスト名、ドメイン名等を取得する為のプロトコルです。 本製品の設定をRARPによって設定するには、サブネットワーク内に適切に設定されたRARPサーバーが稼動していなければなりません。	DISABLE
	IPアドレス	IP Address	本製品のIPアドレスを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
	サブネットマスク	Subnet Mask	本製品のサブネットマスクを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。 「0.0.0.0」は無効になり、IPアドレスに応じたサブネットマスクが自動的に使用されます。	0.0.0.0
	ゲートウェイ	Gateway Address	本製品のデフォルトゲートウェイを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。 「0.0.0.0」は無効になります。	0.0.0.0
	FTP/LPDバナーを使用する	Use FTP/LPD Banner	FTPまたはLPD印刷時にバナーページの印刷を行う (YES) か、行わない (NO) かを設定します。	NO

項目			設定内容	工場出荷設定
	WEBブラウザ	TELNET		
TCP/IP	IPv6機能	IPv6 Function	IPv6の使用有無を指定します。 IPv6とは、ホストアドレスを表すためのフィールドを拡大し、従来のTCP/IPで問題となっていた部分を修正、機能追加をした新しいプロトコル形態です。	DISABLE
	NetworkPnP機能	NetworkPnP Enable	UPnP機能を有効(ENABLE)にします。 本機能は、Windows® Millennium Editionと、Windows® XPのマイネットワークやネットワークコンピューターに自動的にデバイスのアイコンを表示する機能です。 表示されたアイコンをダブルクリックすると、本製品のWebページが表示され、ステータス確認や設定変更を行うことができます。	ENABLE
DNS設定 / DNS				
	プライマリサーバ	Primary Server	DNSサーバー(プライマリ)アドレスを設定します。POP/SMTPサーバー名をIPアドレスで直接設定する場合は、設定する必要はありません。 10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。本設定により、POP/SMTPサーバー名とIPアドレスを対応させることができます。	0.0.0.0
	セカンダリサーバ	Secondary Server	DNSサーバー(セカンダリ)アドレスを設定します。	0.0.0.0
WINS設定 / WINS				
	プライマリサーバ	Primary Server	WINSサーバー(プライマリ)アドレスを設定します。WINSサーバーはホスト名をIPアドレスに割り当てます。本設定により、TCP/IP印刷の際にIPアドレスを使用せず、NetBIOSで設定したホスト名で印刷を行うことができます。設定値は、10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
	セカンダリサーバ	Secondary Server	WINSサーバー(セカンダリ)アドレスを設定します。	0.0.0.0
	スコープID	Scope ID	スコープIDは登録されたホスト名を認識するコンピューターのグループを定義します。	なし
IPフィルタ設定 / IP Filter Config				
	IPフィルタ動作設定	Filter Mode	IPフィルターの動作を設定します。 設定には「allow」と「deny」があり、「allow」にすると設定したIPアドレス範囲からのみデータを受けとります。「deny」にすると設定したIPアドレス範囲からのデータを受けとりません。	DENY
	フィルタ #0-3 開始/終了アドレス	Filter #0-3 start/end address	IPフィルターの範囲を設定します。 フィルターしたいIPアドレスの範囲は4組まで設定できます。設定が不要な場合はアドレス範囲を「0.0.0.0」から「0.0.0.0」にしてください。	0.0.0.0

項目		設定内容	工場出荷設定
WEBブラウザ	TELNET		
TCP/IP	セキュリティレベル設定 / Security Configuration		Level1
	セキュリティレベル設定	Security Configuration セキュリティレベルを設定します。セキュリティレベルの設定により、各プロトコルの有効/無効を設定します。なお、本項目をCUSTOMに設定すると、各プロトコル毎で有効/無効を設定できます。ただし、Setup Protocol, TELNET, HTTP, HTTPSの4項目全てを無効にすると、本製品の設定変更が出来なくなるため、エラー表示して設定の見直しを要求します。セキュリティレベルがLevel1/Level2の場合は、個々のプロトコルを手動で有効/無効設定はできません。なお、本設定がCUSTOM以外の場合は、TELNETから本製品への接続はできません。TELNETからの接続がある場合は、セキュリティレベルをCUSTOMにして、TELNETを有効(ENABLE)に変更してください。	



注意

- ・ IPv6機能及びNetworkPnP 機能は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL対応版のファームウェアでは表示しません。
- ・ DNS設定機能及びWINS設定機能は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL対応版のファームウェアでは表示しません。
- ・ セキュリティレベル設定機能はSSL対応版ファームウェアでサポートしています。SSL非対応版のファームウェアでは表示しません。



参考

- ・ DHCPプロトコルで使用する場合は、「RARPを使用する」設定を無効にしてください。

NetBEUI/NetBIOS

	項目		設定内容	工場出荷設定
	WEBブラウザ	TELNET		
NetBEUI/ NetBIOS	NetBEUI/NetBIOS設定 / Configure		NetBEUI/NetBIOS	
	NetBEUIプロトコル	NetBEUI Protocol	NetBEUIプロトコルを有効(ENABLE)にします。	ENABLE
	NetBIOS over TCPプロトコル	NetBIOS over TCP Protocol	NetBIOS over TCPプロトコルを有効(ENABLE)にします。通常、NetBIOSによるサービスはNetBEUIプロトコルを使用します。本設定を有効(ENABLE)にすると、プロトコルをNetBEUIからTCP/IPに変更します。	ENABLE
	コンピュータ名	Computer Name	Windowsのエクスプローラーに表示されるコンピューター名を設定します。	Hxxxxxx (Ethernetアドレス下6桁)
	ワークグループ	Workgroup	本製品が所属するワークグループを設定します。ネットワークに無い、新しいワークグループ名はワークグループとして認識されません。	HI-LAN-ADP
	コメント	Comment	本製品のコメント(説明)を設定します。ここで設定した情報が、Windowsのエクスプローラーにて本製品のコメント(説明)として表示されます。	PR-LN1-H
	マスターブラウズ機能	Master Browse	マスターブラウズ機能を有効(ENABLE)にします。	ENABLE



- ・本機能は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。
 注意 SSL対応版のファームウェアでは表示しません。

SNMP

ネットワーク経由で管理を行なうための設定を行います。

	項目		設定内容	工場出荷設定
	WEBブラウザ	TELNET		
SNMP	その他の設定 / Cofigure Another			
	認証コミュニティ名	Authentic Community	SNMPの認証コミュニティ名を設定します。このコミュニティ名は、SNMP Set Requestを受け付けるときに認証されます。(半角で最大15文字)	public
	Trapコミュニティ名	Trap Community	SNMPのトラップコミュニティを設定します。このコミュニティ名は本製品がトラップを発行するとき使用されます。(半角で最大15文字)	public
	Trap通知先アドレス	Trap Address(ip)	SNMPトラップの送信先IPアドレスを設定します。 設定値は、10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」を設定するとこの項目は無効になり、いかなる場合でもトラップは発行されなくなります。	0.0.0.0
	SysContact	SysContact	SysContactを設定します。通常は管理者のメールアドレスを設定します。(半角で最大255文字、全角で最大127文字)	なし
	SysName	SysName	SysNameを設定します。通常は本製品のホスト名またはドメイン名を設定します。(半角で最大255文字、全角で最大127文字)	なし
	SysLocation	SysLocation	SysLocationを設定します。通常は本製品のある場所を設定します。(半角で最大255文字、全角も可)	なし
	EnableAuthenTrap	Enable AuthenTrap	Enable AuthenTrapの有効(1)、無効(2)を設定します。この設定を有効(1)にすると、SNMPでコミュニティ違反が発生した時、SNMPトラップが「Trap通知先アドレス」で設定したIPアドレスに向けて発信されます。	2



- ・コミュニティ名が空白、または通知先で設定されているコミュニティ名と不一致の場合は、通知先はトラップを受信出来ませんのでご注意ください。
- ・セキュリティ対策のため、初期値 (public) を変更することをおすすめします。

SSL

項目		設定内容	工場出荷設定	
WEBブラウザ	TELNET			
SSL	その他の設定 / Cofigure Another			
	暗号化を使用する	Secure Print	本設定を有効(ENABLE)にすることで、印刷データを暗号化します。印刷データの暗号化にはセキュア(SSL)通信を使用します。セキュア(SSL)通信には、インターネットで個人情報等を入力する際に、盗聴やなりすまし防止に使用される通信方式で、一般化されたセキュリティ機能の一つです。	ENABLE
	暗号化方式	SSL Mode	暗号化方式を設定します。 暗号化方式には性能重視(速度優先: Level1)と品質重視(高暗号化: Level2)が設定できます。	Level1



- ・本機能は、SSL対応版ファームウェアでサポートしています。
注意 SSL非対応版のファームウェアでは表示しません。

PRINTER

プリンターへ出力するための詳細設定を行います。

	項目		設定内容	工場出荷設定
	WEBブラウザ	TELNET		
PRINTER	PRINTER設定 / Configure Printer Port			
	BOJ文字列 (lp)	BOJ String (lp)	直接出力ポート(lpポート)に出力する前に、プリンターに送出する文字列を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。(半角で最大31文字)	なし
	E0J文字列 (lp)	E0J String (lp)	直接出力ポート(lpポート)に出力した後にプリンターに送出する文字列を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。(半角で最大31文字)	なし
	BOJ文字列 (sjis/euc)	BOJ String (sjis/euc)	漢字フィルター経由出力ポート(sjis/eucポート)に出力する前に、プリンターに送出する文字列を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。(半角で最大31文字)	なし
	E0J文字列 (sjis/euc)	E0J String (sjis/euc)	漢字フィルター経由出力ポート(sjis/eucポート)に出力する後に、プリンターに送出する文字列を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。(半角で最大31文字)	¥f
	プリンタエミュレーション	Printer Emulation	プリンターのエミュレーション(PDL)に応じた設定をします。漢字フィルター経由出力ポート(sjis/euc)に出力する際に、プリンターのエミュレーションに応じたコードに変換します。	ESC/P
	タブサイズ (char.)	TAB Size (char.)	漢字フィルター経由で出力する時のタブコード(0x09)を半角スペース(0x20)に変換する文字数を設定します。この文字数を0にすると、タブ変換処理は行われません。設定値は、0~16です。	8
	1行の文字数 (char.)	Page Width (char.)	漢字フィルター経由で出力する時の1行の文字数を設定します。この文字数を0にすると行の文字数制御を行いません。設定値は、0~255です。	0
	1ページの行数 (line)	Page Length (line)	漢字フィルター経由で出力する時の1ページの行数を設定します。この行数を0にするとページの行制御を行いません。設定値は、0~255です。	0

E-Mail受信 (POP)

メールサーバーにあるメールを受信するための設定を行います。

	項目		設定内容	工場出荷設定	
	WEBブラウザ	TELNET			
E-Mail受信 (POP)	基本設定	POPプロトコル	POP Protocol	POPプロトコル(メール受信機能)の有効(ENABLE)、無効(DISABLE)を設定します。	DISABLE
		着信チェック間隔(分)	Check Interval (min.)	メールサーバーに着信を問い合わせる間隔を分単位で設定します。	15
		ローカルタイムゾーン	Local Time Zone	タイムゾーンを設定します。日本での使用は"+09:00"となります。	+9:00
	このユーザ設定を使用する(1~4)		User Profile (1~4)	各ユーザーのメール受信機能の有効(ENABLE)、無効(DISABLE)を設定します。	DISABLE
		POPサーバ名	POP Server Name	メールサーバーのホスト名(またはIPアドレス)を設定します。ドメイン名を使用する場合はDNSサーバーの設定が必要です。(半角で最大78文字)	なし
		POPポート番号	POP Port Number	POPポート番号を設定します。通常はデフォルト値(110)で使用してください。	110
		POPユーザ名	POP User Name	メールアカウントのログイン名(ユーザー名)を設定します。(半角で最大31文字)	なし
		POPパスワード	POP Password	メールサーバーに接続する際に使用するパスワードを設定します。(半角で最大31文字)	なし
		APOPを使用する	Use APOP	サーバーでAPOP使用の有効(ENABLE)、無効(DISABLE)を設定します。APOPを利用するには、メールサーバーがAPOPに対応している必要があります。	NO
		受信したメールを削除する	Delete Mail after Retrieve	本製品が受信・印刷したメールをメールサーバー上から削除するかを有効(ENABLE)、無効(DISABLE)で設定します。添付ファイルのあるメールは、この設定を有効(ENABLE)にしてもメールは削除されません。	NO
メール受信制限 (Kbyte)	Maximum Retrieve (KByte)	指定したサイズ以上のメールを、処理対象から除外します。処理対象から除外されたメールは、「受信したメールをサーバーから削除」の項目をチェックしている場合でも削除されません。この項目に0を設定した場合は、サイズによる制限は行わず、全てのメールを処理対象とします。	0		

項目				設定内容	工場出荷設定	
	WEBブラウザ	TELNET				
E-Mail受信 (POP)	このユーザ設定を使用する(1~4)	フィルタ設定	Filter Setting	特定のメールのみ印刷するように設定します。ヌル(空文字列)の場合は、全てのメールが印刷の対象になります。タイトル条件(S:文字列)、宛先条件(T:文字列)、同報宛先条件(C:文字列)、送信元条件(F:文字列)の4種類のセンテンスをOR条件()または、AND条件(&)で接続した文字列で設定します。(半角で最大80文字、全角で最大40文字)	なし	
		開封通知	Request a read receipt			



注意



参考

- ・本機能は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL対応版のファームウェアでは表示しません。
- ・メール受信機能を有効にした場合、受信したメールを印刷しますので用紙をセットしておくことをお奨めします。

E-Mail送信 (SMTP)

プリンターのオフライン状態や用紙切れ状態等を通知するための設定を行います。

	項目		設定内容	工場出荷設定	
	WEBブラウザ	TELNET			
E-Mail送信 (SMTP)	SMTPプロトコルを使用する	SMTP Protocol	SMTPプロトコルの有効 (ENABLE)、無効 (DISABLE) を設定します。無効 (DISABLE) にするとE-Mail送信機能が停止します。	DISABLE	
	SMTPサーバ名	SMTP Server Name	SMTPサーバのホスト名を設定します。ホスト名にはドメイン名またはIPアドレスを入力します。ドメイン名を使用する場合はDNSサーバの設定が必要です。(半角で最大78文字)	なし	
	SMTPポート番号	SMTP Port Number	SMTPポート番号を設定します。通常はデフォルト値 (25) で使用してください。	25	
	送信元アドレス	From Address	送信元のアドレスを設定します。通常はネットワーク管理者のメールアドレスを設定します。(半角で最大78文字)	なし	
	署名	Signature Line (1~4)	メールの送信メッセージの文末に付加する文字列の内容を設定します。(半角で最大各63文字)	----- PR-LN1-H [00:80:92:XX:XX:XX] ----- (製品名とEthernet アドレス下6桁)	
	送信アドレス (1~2)	Event to Address (1~2)	送信アドレス (1~2) の送信条件を設定します。	-	
	送信先アドレス (1~2)		To Address (1~2)	送信先のメールアドレスを設定します。(半角で最大78文字)	なし
		チェック 間隔 (分)	Check Interval (min.)	イベントの記録があるかを一定間隔 (分単位) でチェックします。この間隔内に1つ以上のイベントが発生した場合、その記録をまとめて送信します。	10
		オフライン	Offline	プリンターがオフラインになったときメールを送信します。	OFF
		紙切れ	Paper Empty	プリンターの用紙がなくなったときメールを送信します。	OFF
		プリンタ 異常	Fault	プリンターに異常が発生したときメールを送信します。	OFF
		SMTP認証	SMTP AUTH Enable	SMTP認証の使用有無を指定します。	DISABLE
		SMTP認証名	SMTP AUTH Name	SMTP認証名を指定します。	なし
SMTP認証 パスワード	SMTP AUTH Password	SMTP認証パスワードを指定します。本項目は設定の有無に関わらず "*" を表示します。	なし		



・本機能は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。
注意 SSL対応版のファームウェアでは表示しません。

その他の設定 (Another)

	項目		設定内容	工場出荷設定
	WEBブラウザ	TELNET		
Another	その他の設定 / Cofigure Another			
	印刷トラップ コミュニティ名称	Print Trap Community	印刷完了時にSNMPでTrap通知する際に 使用するコミュニティ名称を指定し ます。 設定値は16文字以内の文字列です。	public
	印刷トラップ アドレス	Print Trap Address	印刷完了時にSNMPでTrap通知する通知 先IPアドレスを指定します	0.0.0.0
	PE後のリポート 処理	PE/Reboot	Print Trap Addressが設定されている 場合で、LPR印刷中に用紙なしが発生し たときに、LANボードのリポートする/ しないを設定します。	Disable

SSL証明書作成（Webページからのみ設定可能）

	項目		設定内容	工場出荷設定	
	WEBブラウザ	TELNET			
SSL証明書作成	証明書情報設定	国／地域コード	Webのみ設定可能	国／地域コード(二文字の文字列)を設定します。 (例) 日本-JP、米国-US	なし
		都道府県名		都道府県を設定します。 (例) Tokyo	なし
		市区町村名		市区町村を設定します。 (例) Minatoku Shinagawa	なし
		組織名		組織名を設定します。 (例) FUJITSU ISOTEC LIMITED.	なし
		部門名		部門名を設定します。 (例) Kikaku	なし
		一般名		任意の名称を設定します。 (例) PC-xxxxxxx	なし
		メールアドレス		E-mailアドレスを設定します。 (本項目は空白でも設定可能です。)	なし
	有効期限日	発効日		PCから現在時刻を取得した協定世界時(UTC)で表示します。本設定は固定で変更はできません。	現在日時
		有効期限		証明書の有効期限日を設定します。	2049/12/31 23:59:59



注意

- ・本機能は、SSL対応版ファームウェアでサポートしています。
- ・SSL非対応版のファームウェアでは表示しません。
- ・本設定はWebページからのみ作成可能です。

第6章 Popup Status Monitor

Popup Status Monitorについて

ポップアップステータスマニター「Popup Status Monitor」はプリンターの状態をパソコン画面に表示してお知らせします。また、デスクトップに常駐するため、プリンターの状態をリアルタイムに監視することができます。

Popup Status Monitorをご使用の際は、プリンターの機能設定で「双方向I/F」設定が有効になっていることをご確認ください。



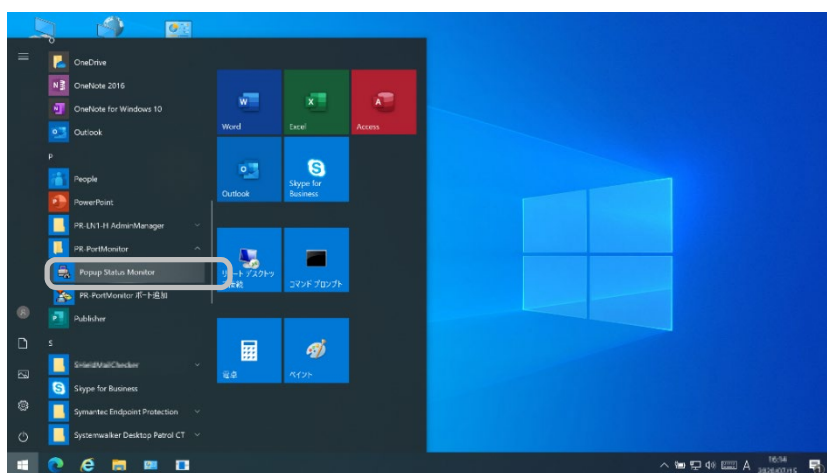
- ・以下の説明は、Windows 10の画面で行っています。その他の Windows オペレーティングシステムをご利用の場合、画面が異なります
- ・ルーターを超えての監視はできません。同一LAN上でご使用ください。

Popup Status Monitorの起動

「スタート」(*1)(*2) - 「PR-Port Monitor (または任意で指定したグループ名)」 - 「Popup Status Monitor」を実行すると、Popup Status Monitor が起動します。

(*1): 画面左下または画面中央下の Windowsロゴを示します。

(*2): お使いのWindowsによっては、「スタート」をクリックした後、「すべてのアプリ」や「すべてのプログラム」をクリックしてください。



- ・Windows Server 2012をご利用の場合は、スタート画面より「Popup Status Monitor」を実行してください。
- ・Windows 8.1/2012 R2をご利用の場合は、「アプリ」ビュー画面より「Popup Status Monitor」を実行してください。

Popup Status Monitorの表示

Windows 標準の外観で、詳細なプリンター情報を表示することができます。

プリンタ情報

プリンターステータス状態および印刷状況を表示します。



・ステータスメッセージ

プリンターの状態を文字列で表示します。

- 「オンラインです。」
- 「印刷中です。」
- 「カバーオープンです。」
- 「用紙無しです。」
- 「オフラインです。」

・機種名

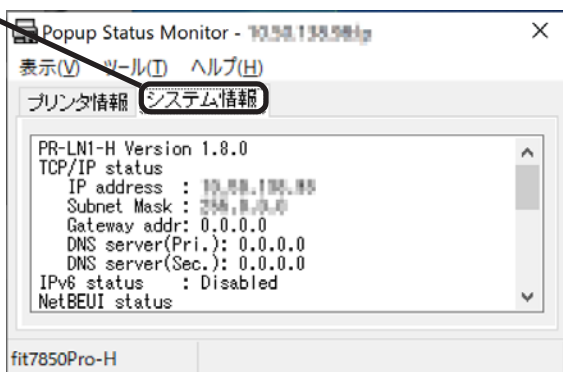
本製品の機種名を表示します。

・転送状況

印刷データの転送状況を表示します。

システム情報

本製品のシステムステータスを表示します。



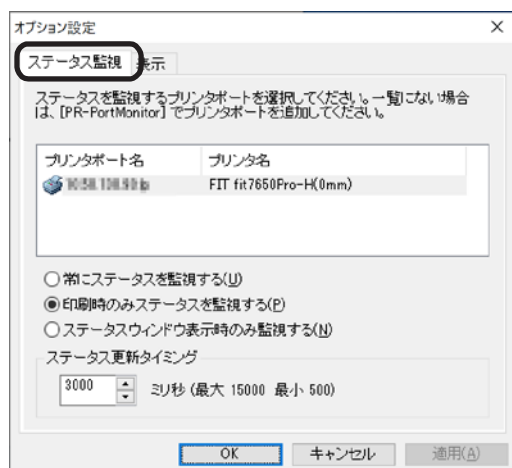
メニュー構成

メニュー	項目	説明
表示	常に最前面に表示する	ウィンドウを常に最前面に表示します。 ただし、同様の設定のウィンドウが重なった場合には、そのウィンドウの背面に隠れます。
	最小化する	ウィンドウを最小化します。 元に戻すには、タスク通知エリアのアイコンをクリックします。
	終了	Popup Status Monitorを終了します。
ツール	オプション設定	オプション設定ダイアログを表示します。
ヘルプ	バージョン情報	バージョン情報を表示します。

オプション設定ダイアログ

Popup Status Monitorの使用条件を変更することができます。「オプション設定」をクリックして、「オプション設定」画面を表示してください。

ステータス監視



・PR-Port Monitor ポート一覧

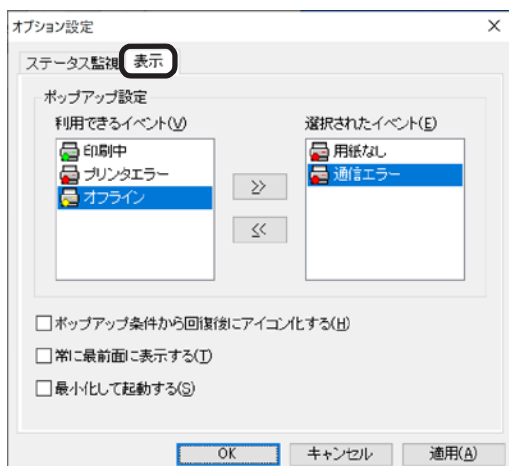
ご使用のパソコンに登録されている PR-Port Monitor ポートの一覧が表示されます。この一覧からステータス監視を行う本製品を選択します。



注意 PR-Port Monitor ポート一覧に表示されるポートは、LPR ポート、Raw(9100) ポートのみで、IPP ポートは表示されません。

- ・常にステータスを監視する システムに常駐することにより、常にプリンターの状態を監視することができます。
- ・印刷時のみステータスを監視する PR-Port Monitor ポートでの印刷時のみプリンターの状態を監視します。PR-Port Monitor ポートでの印刷データ転送が完了すると、自動的に終了します。
- ・ステータスウィンドウ表示時のみ監視する プリンターの状態を監視しないようにします。プリンターの状態を監視する場合は、その都度 Popup Status Monitor を起動する必要があります。
- ・ステータス更新タイミング プリンターステータスを最新の情報に更新する間隔を設定します。

表示



- ・ 利用できるイベント
「Popup Status Monitor」が表示することができるイベントの一覧です。
- ・ 選択されたイベント
「Popup Status Monitor」に表示するイベントを選択した一覧です。ここに選択したイベントと、プリンターのイベントが一致した場合、「Popup Status Monitor」を表示します。
- ・ >>
「利用できるイベント」の項目を「選択されたイベント」に追加します。
- ・ <<
「選択されたイベント」の項目を「利用できるイベント」に戻します。
- ・ ポップアップ条件から回復後にアイコン化する
プリンターのイベントが終了した後、「Popup Status Monitor」を自動的に最小化し、タスクバーに常駐します。
- ・ 常に最前面に表示する
ウィンドウを常に最前面に表示します。ただし、同様の設定のウィンドウが重なった場合には、そのウィンドウの背面に隠れます。
- ・ 最小化して起動する
「Popup Status Monitor」を最小化した状態で起動します。

第7章 こんなときは

本章では本製品の制限事項や、導入時に想定される問題と、その解決法を説明します。

- ・ 文中マークの見方

確認

問題が起きた時に、はじめに確認してください。

対策

問題解決のための具体的な手段です。

使用上の注意事項および制限事項について

本製品 (PR-LN1-H) を使用する上で以下の注意事項および制限事項があります。問題発生時に合わせて確認してください。

- (1) 本製品使用時は、パラレルインターフェイスおよびUSBインターフェイスと同時に使用できません。
- (2) プリンタードライバーの設定で「双方向サポート」が有効になっていると、印刷ができないなど、印刷動作が不正となります。プリンタードライバーの「双方向サポート」は必ず無効にしてください。設定方法は「第3章 Windows 環境で使用する」-「プリンタードライバーの設定」を参照してください。
- (3) エラーリカバリー処理が不正となるため、本製品をご使用の際は、各プリンターの取扱説明書を参照し、プリンター側の設定を下記の通り設定するようにしてください。
受信バッファ：無効
TOF (用紙先頭) 位置時の改頁コード：無効
- (4) ご使用のパソコンにセキュリティソフトウェアがインストールされていてファイアウォール機能が有効になっている、またはWindows のファイアウォール機能が有効になっていると、ユーティリティーの検索機能で本製品を検索できません。
ユーティリティーの検索機能をご使用する際は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。

- (5) 本製品のご使用にあたっては、通常印刷の場合はPR-Port Monitorで作成するLPRポート、セキュア(SSL)通信印刷を行う場合はPR-Port Monitorで作成するIPP(HTTPS)ポートを推奨していますが、各印刷ポートには制限事項があります。業務形態にあった印刷ポートをご使用頂くようお願いいたします。

【PR-Port Monitorの印刷ポート】

- PopUp Status MonitorはPR-Port Monitorで作成したLPRまたはRAW印刷ポートでのみ動作します。その他の印刷ポートでは動作しません。
- プリンターの状態監視を行っているため、複数JOB連続印刷時、印刷JOBと印刷JOBの間に一時停止する場合があります。
- プリンターエラー(通信エラー以外)状態で放置した場合、タイムアウトになるとエラーメッセージが表示(*1)されます。

エラーが回復した場合、または「再試行」を選択してエラー回復させた場合、続きのデータが送信されて継続印刷をします。「キャンセル」を選択した場合、スプール上に仕掛かっている当該JOBを削除します。ただし、LANボードで受信済みのデータが残っているため、次のJOBを印刷すると文字化け等が発生します。「キャンセル」を選択する場合は、必ずプリンターの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットしてください。

(*1)印刷ポートにより、初期値が異なります。

LPR ポート/RAW ポート:15分、IPP ポート:3分

本値はプリンタードライバーの「プロパティ」-「ポートの構成」-「タイムアウト値」で変更することができます。

- 通信エラーが発生した場合、エラーメッセージが表示されます。エラーを回復させて「再試行」を選択すると、スプール上に仕掛かっている当該JOBの先頭からデータが再送されて継続印刷を行います。ただし、プリンターの電源断以外による通信エラーの場合、LANボードで受信済みのデータは残っているため、「再試行」を選択する前に必ずプリンターの電源 OFF/ON を行ってください。「キャンセル」を選択した場合、スプール上に仕掛かっている当該JOBを削除します。ただし、プリンターの電源断以外による通信エラーの場合、LANボードで受信済みのデータが残っているため、次のJOBを印刷すると文字化け等が発生します。「キャンセル」を選択する場合は、必ずプリンターの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットしてください。また、通信エラー状態で放置した場合、「PR-Port Monitorでの送信中にエラーが発生しました。印刷を中止します。」のエラー表示をする場合があります。「OK」を押すと仕掛のJOBが削除されますので、必ずプリンターの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットして、印刷JOBを再送してください。
- エラー発生タイミングや印刷データサイズにより、タイムアウトになってもエラーメッセージが表示されない場合があります。この場合、プリンターのエラーが回復すると、「再試行」と同様に継続印刷を行います。

- PR-Port MonitorのRAWおよびIPPポートについては、上記以外に以下のような制限事項があります。
 - ① セキュリティソフトウェアが常駐している、またはファイアウォール機能が有効になっている場合、プリンターエラー状態で印刷JOBを送信した後、通信エラーにより、次のJOBを暫くの間送信できなくなる場合があります。その時は、プリンターの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットして印刷JOBを再送してください。
 - ② プリンターエラー状態で放置してタイムアウトになった場合、エラーの発生タイミングや印刷データサイズによっては、印刷を再開したときに文字化けや通信エラーが発生し、次の印刷JOBを暫くの間、送信できなくなる場合があります。その様な場合は、プリンターの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットして印刷JOBを再送してください。

【PR-Port Monitor以外の印刷ポート】

PR-Port Monitorが使用できません。また、Windows 標準ポートでは以下の制限事項があります。

- ① Standard TCP/IP LPRポート
 - LPRバイトカウントを有効にしないと印刷が異常終了する場合があります。必ずLPRバイトカウントを有効にしてください。また、SNMPステータスを無効にしてください。なお、印刷データサイズが大きい場合、LPRバイトカウント処理を行うため、スプーリングに時間を要することがあります。
 - プリンターエラー状態で放置した場合、当該JOBの先頭頁からリトライされるため、重複印刷することがあります。
- ② Standard TCP/IP RAWポート
 - データサイズをカウントしていないため、印刷データが抜ける場合があります。
 - セキュリティソフトウェアが常駐していたり、ファイアウォール機能が有効になっている場合、プリンターエラー状態で印刷JOBを送信した後、通信エラーが発生し、暫くのあいだ、次の印刷JOBを送信できなくなることがあります。その様な場合は、プリンターの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットして印刷JOB を再送してください。
 - プリンターエラー状態で放置してタイムアウトになった場合、エラーの発生タイミングや印刷データサイズによっては、印刷を再開させると文字化けが発生したり、通信エラーが発生し、暫くのあいだ、次の印刷JOBを送信できなくなることがあります。その様な場合は、プリンターの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットして印刷JOB を再送してください。
- ③ LPR Port (UNIX印刷サービス)
 - 複数JOBを連続印刷した場合、途中のJOBが印刷終了してからしばらく印刷が停止(最大4分)した後に印刷を再開することがあります。
 - プリンターエラー状態で放置した場合、当該JOBの先頭頁からリトライされるため、重複印刷することがあります。

(6) セキュア(SSL)通信印刷機能をご使用になる場合は、以下の点に注意してください。

① セキュア(SSL)通信印刷機能は、以下の条件により使用可能となります。

- 対応Windowsオペレーティングシステム: Windows 8.1/2012 以降
- 対応プロトコル: HTTPS, IPP
- LANボードに下記設定を実施してください。
 - A) 「セキュリティレベル」設定で上記プロトコルを“有効”に設定してください。
 - B) Webブラウザ画面からSSL証明書を作成してください。
 - C) 「暗号化を使用する」を“ENABLE”に設定してください。
- HTTPSでのIPP印刷はWindows 8.1/2012 以降のWindows オペレーティングシステムでは標準サポートしています。ただし、プリンター追加の設定画面を開いている場合、状態通知の為の通信トラフィックが増大しますので、PR-Port MonitorからIPP(HTTPS)ポートを作成してご使用いただくことを推奨します。
- セキュア(SSL)通信印刷機能をサポートするにあたり、従来機能のNetBEUI, SMTP, POP3, DNS, WINS, IPv6, Network PnPを未サポートとしましたので、これら機能を使用した混在印刷はできません。
- NetBEUI, SMTP, POP3等の未サポート機能を使用する場合は、「第3章 Windows 環境で使用する」を参照してください。なお、NetBEUI, SMTP, POP3等をサポートしたファームウェアでは、セキュア(SSL)通信印刷機能は使用できません。
- セキュア(SSL)通信機能は、印刷データを暗号化するためにデータ量が増加します。そのため、データ転送時間がかかり、通常印刷と比較して印刷性能が低下する場合があります。ご注意ください。
- 複数クライアントからセキュア(SSL)通信印刷が競合した場合、「セキュリティ認証に失敗しました。印刷を開始できません。」のエラーメッセージを表示する場合があります。「OK」を押すと仕掛JOBが削除されますので、現在印刷中のJOBが終了しだい、再度印刷JOBを再送してください。再度エラーメッセージが表示された場合は、同様の操作を繰り返してください。
- 暗号化方式を印刷性能優先(Level1)と暗号化強度優先(Level2)のいずれかを選択することができます。ご使用の環境にあわせて選択してください。
ただし、Windows 側の暗号化サポート状況により、本設定を変更しても暗号化方式が変わらないことがあります。ご注意ください。
- HTTPSでWebブラウザ画面を表示させた場合、文字化けが発生することがあります。この場合は、Windows およびWebブラウザの修正プログラムを最新版にアップデートすることで改善される場合があります。

- (7) 拡張プリンタマネージャを用いてエラーリカバリー機能を使用する場合、以下の点にご注意の上、設定してください。
- 拡張プリンタマネージャをインストールしたパソコンのIPアドレスは、Another設定項目内の「Print Trap Address」にだけに設定してください。
 - 「PE/Reboot」は“ENABLE”に設定してください。
 - SNMP設定項目内の「Trap Address」は、“0.0.0.0”を設定してください。
 - 他の印刷ポートからの印刷と拡張プリンタマネージャポートからの印刷が混在した場合は、プリンターエラーが発生すると以降の印刷JOBが印刷されないことがあります。他の印刷ポートからの印刷と拡張プリンタマネージャからの印刷が混在しないようにしてください。
 - 拡張プリンタマネージャを使用しない場合は、Another設定項目内の「Print Trap Address」を“0.0.0.0”に設定してください。(デフォルトは“0.0.0.0”です。)

(8) Solaris2.x対応について

本製品をSolaris2.xでご利用になる場合、Solarisの仕様により以下の制限事項があります。

- ① 印刷開始後、プリンターがオフライン等でデータを受け付けられない状態が長く続いた場合、Solaris側でタイムアウトし再印刷（再接続）されるため、印刷データが途中で切れ、1頁から再度印刷される場合があります。
- ② “lpstat -p プリンター名”にてプリンターのステータスを表示した場合、プリンターの状態ステータスとして返す任意の文字列（PrinterReady 等）をSolaris側で解釈できず“Faulted”と表示した後、任意の文字列を表示します。
- ③ Solarisよりデータを出力中は、同じマシンから本製品に対する印刷関連コマンドが正常に動作しません。これはSolaris側がデータの送信が終了するまで他のパケットを出す事が出来ない為で、以下の現象が発生します。
“lpstat -p [プリンター名]”に対して“system not responding”と表示されます。
- ④ cancelコマンドの後、lpstatなどを行うとlpstatがエラーになる場合があります。この場合は、プリンタースケジューラデーモンが停止している可能性がありますので
“lpstat -r”で確認する必要があります。
“scheduler is not running”と表示された場合デーモンが停止していますので、下記のように入力しプリンタースケジューラデーモンを再起動してください。
/bin/sh /etc/init.d/lp start
- ⑤ “cancel”で存在しないジョブを削除してもSolarisではエラーになりません。

導入時の問題

● 「自己診断印刷結果にNGがある。」

対策

- ① ROM、RAM CheckがNGの場合、本製品がプリンターに正しく取り付けられていない可能性がありますので、本製品を取り付け直してください。
- ② EEPROM CheckがNGの場合、本製品がプリンターに正しく取り付けられていないまたはディップスイッチの設定が正しく行われていない可能性がありますので本製品を取り付け直し、ディップスイッチの設定を確認してください。
- ③ NIC CheckがNGの場合、ネットワークケーブルが正しく接続されていない可能性があります。接続を確認してください。

● 「CD-ROM を挿入しましたが、メインメニューが起動しません」

対策

Windows環境でご使用の場合、お使いのパソコンによっては、CD-ROMをセットしてもメニュー画面が自動的に起動しないことがあります。その場合は、ルートディレクトリー(お使いのCD-ROMがDドライブなら、「D:¥」)にある[Autorun.exe]を直接実行してください。

- 「設定ツール (Quick Setup、AdminManager) で検索を行ったが、本製品が一覧に表示されません」 または 「ネットワーク上で認識されません」

確認 1

下記内容を確認し、再度設置作業を行ってください。

- プリンターの電源はONになっていますか？
- ネットワークケーブルが正しく接続されていますか？
- プリンターの設定一覧 (設定内容の印刷) を行い、設定値の確認を行ってください。「内蔵LANボード=有効」が印字されない場合、本製品がプリンターへ正しく取り付けされていない可能性があります。
- 本製品の設定情報印刷を行い、TCP/IP Protocolが “ENABLE” になっていることを確認してください。



・設定内容の印刷方法については「プリンターの取扱説明書」をご参照ください。

参考

確認 2

下記内容を確認し、再度設置作業を行ってください。

- 稼動している本製品と接続イーサネットハブ (HUB) のLINK LEDが点灯していますか？ 点灯していない場合は、ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- イーサネットハブ (HUB) のポートが故障していないか確認してください。
- ネットワークケーブルが断線していないか確認してください。

確認 3

パソコンでファイアウォール機能により検索が遮断されている可能性があります。

○Windows をご利用の場合、Windowsファイアウォールで例外登録をしてください。

○常駐ソフトのファイアウォール(プロテクト)機能を一時的に無効にしてください。

確認 4

ルーターを越えての接続の場合、AdminManagerやPR-Port Monitorのプリントサーバー検索はできないことがあります。

○同一LAN上から検索を行ってください。

- 接続しているプリンターと AdminManager に表示されているプリンターが違っている。

対策1

本製品の初期化を行い、工場出荷設定に戻した後、もう一度検索を行ってください。工場出荷時設定に戻す方法については、「第5章 設定に関する機能」-「AdminManagerで本製品の設定を行う」-「プリントサーバーの設定」の初期化について(5-13)をご参照ください。

対策2

本製品を現在使用しているプリンターとは別のプリンターで使用する場合、本製品の初期化(5-13)を行い、再設定を行ってください。

● IPアドレスの設定を行うと通信エラーになります。

確認 1

本製品のLINK/STATUS LEDが正常に点灯しているか確認してください。

- プリンターの電源はONになっていますか？
- ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- イーサネットハブ (HUB) のポートが故障していないか確認してください。
- ネットワークケーブルが断線していないか確認してください。

確認 2

設定ツールを起動しているパソコン側のIPアドレスが確定しているか確認してください。

- ご使用のパソコンおよびネットワークに存在する他のパソコンと通信ができているか確認するために、MS-DOSプロンプトよりPingコマンドを実行してください。



参考

・Pingコマンドの使用方法については、「Windows TCP/IP環境での問題」の確認1を参照してください。

確認 3

本製品が初期化されているか確認してください。

- 本製品を工場出荷設定に戻す方法については、「第5章 設定に関する機能」- 「AdminManagerで本製品の設定を行う」- 「プリントサーバーの設定」の初期化について(5-13)をご参照ください。

確認 4

本製品に不正なIPアドレスを設定している可能性があります。

○ルーターやサーバーが不正なIPアドレスを設定していないか確認してください。

○不正なIPアドレスが設定された本製品は、ルーターやサーバーが存在しない環境(パソコン1台、HUB1台、本製品が接続されたプリンター1台のローカル環境)を作成し、パソコンを本製品と同じセグメント内のIPアドレスに設定してから、ツールを起動してTCP/IPの設定で「IPアドレスを指定」に変更して正しいIPアドレスを設定してください。またその後、元の環境に戻してください。

注)不正なIPアドレスを設定するルーターやサーバーがある場合、本製品のTCP/IP設定を「IPアドレスを自動的に取得」にすると、自動的に不正なIPアドレスが設定され、IPアドレスの変更や初期化ができなくなります。

確認 5

本製品と設定を行っているパソコンが同一セグメント内に無い可能性があります。

○本製品と設定を行っているパソコンが同一セグメント内にあることを確認してください。

確認 6

本製品が取り付けられたプリンターを他のネットワークへ移設していませんか？ネットワーク上にDHCPが存在している環境から、「工場出荷設定に戻す」作業を行わない状態で、ネットワーク上にDHCPが存在しない環境へ移設した可能性があります。

○移設前の環境へ接続し、AdminManagerから「工場出荷設定に戻す」作業を行ってください。

〔「第5章 設定に関する機能」 - 「プリントサーバーの設定」の初期化について(5-13)をご参照ください。〕



・本製品が取り付けられたプリンターを他のネットワークに接続する場合は、事前に「工場出荷設定に戻す」作業を必ず行ってください。

- プリンターの状態を表示するモニター表示 (Popup Status Monitor、AdminManagerの「プリンタステータス」、Webブラウザの「プリンタステータス」)が「ステータス取得中です。しばらくお待ちください。」の表示から変わらない。

確認

下記内容を確認し、再度設置作業を行ってください。

○プリンターの機能設定で「双方向I/F」設定が有効になっていますか？

有効になっていない場合は、「双方向I/F」設定を有効にしてください。



参考

・プリンターの機能設定の変更方法については、「プリンターの取扱説明書」をご参照ください。

印刷時の問題

● 「印刷が行えません」

確認 1

下記内容を確認し、再度設置作業を行ってください。

- プリンターの電源はONになっていますか？

確認 2

下記内容を確認し、再度設置作業を行ってください。

- 稼動している本製品と接続イーサネットハブ (HUB) のLINK LEDが点灯していますか？
- ネットワークケーブルが正しく接続されていますか？
- ネットワークケーブルは断線していませんか？
- イーサネットハブ (HUB) のポートが故障していませんか？
- プリンターのプロパティで印刷先のポートが正しいことを確認してください。

確認 3

本製品と設定を行っているパソコンが同一セグメント内に無い可能性があります。

- 本製品と設定を行っているパソコンが同一セグメント内にあることを確認してください。

● 「バナーページが正常に印刷されません」

対策

前回印刷を行った時の設定が残ったままになっていることが考えられます。B0J文字列またはE0J文字列の設定でリセットコマンドを定義してください。

例) : “¥x1B@”

● 「印刷を中止したい」

対策

再印刷を正しく行うには、以下の手順で印刷中止を行ってください。

1. プリンターフォルダーより印刷に使用したプリンターを開く。
2. スプーラーにある印刷中のドキュメントを削除する。
3. プリンターのリセットスイッチを押す。

● 「JOBを連続印刷すると、途中で印刷が停止し、しばらくすると印刷を再開する」

対策

Windows 標準印刷クライアントであるLPRポートの仕様により、発生する場合があります。本製品に付属しているPR-Port MonitorのLPRポートを使用してください。

- 「印刷中のエラーを長時間放置した後に印刷を再開すると、同じ内容の印刷を繰り返すことがある。」

対策

Windows 標準印刷ポートの仕様により、印刷でタイムアウトが発生した場合、JOBの先頭から印刷データを再送します。

対象JOBを一旦Windowsのスーパーから削除した後、未印刷データのみ再送してください。

- 「印刷中に通信エラーが発生した後、回復させ「再試行」すると文字化けが発生する。」

対策

プリンターに印刷データが残っている状態で、「再試行」によりJOB先頭から印刷データを送信した場合、データ不正となり、文字化けする場合があります。

対象JOBを一旦Windowsのスーパーから削除した後、未印刷データのみ再送してください。

プリンターの電源をOFF/ONし、用紙を再セットした後、「再試行」してください。

- 「印刷が途中で停止したり、文字が化けて印刷される。」

対策

Standard TCP/IPポートのLPRモードの仕様により、発生する場合があります。

- ・ 「LPRバイトカウントを有効にする」をチェックしてください。
- ・ 本製品に付属しているPR-Port MonitorのLPRポートを使用してください。

- 「NetBEUI, NetBIOSover TCP/IP環境で印刷した時、エラーメッセージが表示される。」

対策

Microsoft Network印刷の仕様により、プリンターの状態により、エラーメッセージが表示される場合があります。
運用上、問題がある場合は、PR-Port MonitorのLPRポートからの印刷を使用してください。

- 「UNIX環境で漢字テキストの印刷で、漢字コードが化けて、正常に印刷できない。」

対策

漢字フィルター経由の印刷を行っていない可能性があります。
印刷データの漢字コードを確認して、「SJIS」または「EUC」の漢字フィルターを使用してください。

- 「Red Hat Linuxキュー作成ツールのテスト印刷で文字化けが発生する。」

対策

プリンタードライバーに問題がある可能性があります。
[プリンタドライバ]で「RAWプリントキュー」を選択した後、「ASCII Test Page」を出力して、正常に印刷されるか確認してください。正常に印刷された場合、プリンタードライバーの問題である可能性があります。正常に印刷されない場合、印刷データまたは本製品を含めたプリンターの問題である可能性があります。

● 「SSLを使用して印刷をすると、エラーメッセージが表示される。」

対策

○SSL証明書が作成されていない。

Webブラウザで本製品にアクセスし、SSL証明書が作成されているか確認してください。SSL証明書が作成されていない場合は、SSL証明書を作成してください。

○SSL証明書の有効期限が切れている。

Webブラウザで本製品にアクセスし、SSL証明書の有効期限を確認してください。有効期限が切れている場合は、SSL証明書を再発行してください。

○4台以上のパソコンからSSL印刷をしている。

SSLを用いた印刷は、最大3台(3回線)までになっています。現在印刷中のJOBが終了したら、再度印刷を行ってください。

○ブラウザに設定されている暗号化方式が異なっている。

本製品に搭載されている暗号化方式と一致する様にブラウザの設定を行ってください。

● 「SSLの設定ができない、印刷ポートが作成できない。」

対策

○Secure PrintがDISABLEになっている。

Secure Print設定のSecure PrintをENABLEにしてください。

○SSL Modeの設定がCUSTOMになっている、かつhttps、IPPがDISABLEになっている。

SSL Modeの設定から、httpsとIPPをENABLEにしてください。

○接続先プリンターのURLが「http://」で始まっている。

「https://」に変更してください。「http://」ではセキュア通信印刷機能が動作しません。

○本製品のファームウェアのバージョンがVer1.8.0など、Ver2.4.0より前になっている。

「ファームウェアアップロードツールについて」を参照してファームウェアアップロードを実行し、ファームウェアのバージョンをVer.2.4.0以上にしてください。

- 「NetBEUI, SMTP, POP3, DNSを使用して印刷をしたいが、設定ができない、印刷ポートが作成できない。」

対策

○本製品のファームウェアバージョンがVer. 2.4.0以降になっている。

SSL対応版のファームウェア (Ver. 2.4.0以降) では、これらのプロトコルや機能を使用した印刷はできません。

SSL非対応版に含まれていた機能をご利用になる場合は、「ファームウェアアップロードツールについて」を参照してファームウェアアップロードを実行し、ファームウェアのバージョンをVer. 1.8.0以前にしてください。



参考

・SSLとはSecure Socket Layerの略称です。SSLはインターネットで個人情報などを入力する際に盗聴やなりすまし防止に利用される通信方式で、一般化されたセキュリティ機能のひとつです。本製品は、このSSLを利用したセキュア通信印刷機能を有しています。本機能により、パソコンから印刷を行う際に印刷データを暗号化し、プリントサーバーで復号化することを実現しています。

● 「印刷したいプリンターが動作せず、他のプリンターに印刷されてしまう」

確認

- 印刷したいプリンターと他のプリンターのIPアドレスが同じ設定になっていませんか？
- IPアドレス設定を確認し、再設定を行ってください。

● 「印刷が途中で停止してしまう」

確認 1

- 印刷中のプリンターと他のプリンターのIPアドレスが同じ設定になっていませんか？

確認 2

- 多数の印刷データを送っていませんか？
- 多数の印刷データを送ると、印刷が一時停止することがあります。一定時間経過すれば印刷が再開されますのでお待ちいただきますようお願いいたします。

確認 3

- Windows標準のIPPポートを使用して複数枚の単票データを印刷した場合、用紙セットのタイミングが遅いと、Windows側でタイムアウトとなり印刷が停止することがあります。専用IPPポート (PR-Port Monitor) を作成し印刷してください。

Windows TCP/IP環境での問題

● 「印刷が行えません」

確認 1

TCP/IPプロトコルを使用している場合、本製品に割り当てたIPアドレスに、Pingコマンドを使って、応答があるか確認してください。Pingコマンドによる応答がない場合、IPアドレスが正しく設定されていない可能性があります。本製品の初期化を行い、工場出荷時設定に戻してください。その後、再度IPアドレスの設定を行ってください。

例) Windows 10 のコマンドプロンプトでping を実行する場合

「スタート」 - 「Windows システムツール」 - 「コマンドプロンプト」で、Ping XXX.XXX.XXX.XXX を実行すると下記内容が表示されます。XXX.XXX.XXX.XXX は本製品のIP アドレスです。

(Ping に応答がある場合)

Reply from XXX.XXX.XXX.XXX:bytes=32 time=58ms TTL=253

Reply from XXX.XXX.XXX.XXX:bytes=32 time=58ms TTL=253

Reply from XXX.XXX.XXX.XXX:bytes=32 time=58ms TTL=253

Reply from XXX.XXX.XXX.XXX:bytes=32 time=58ms TTL=253

(Ping に応答がない場合)

Request timed out.

Request timed out.

Request timed out.

Request timed out.



参考

・本製品を工場出荷時設定に戻す方法については、「第5章 設定に関する機能」 - 「Admin Managerで本製品の設定を行う」 - 「プリントサーバーの設定」の初期化について(5-13)をご参照ください。

確認 2

使用しているプリンタードライバーの印刷先ポートの設定ができていない可能性があります。「プリンター」のプロパティの「詳細」で「印刷先のポート」を確認してください。本製品のポート名は、任意のポート名の後に「PR-Port Monitor LPR Port」、「PR-Port Monitor IPP Port」と記されています。

例) 印刷先ポート = xxx.xxx.xxx.xxx:lp<PR-Port Monitor LPR Port>

※ xxx.xxx.xxx.xxx は IP アドレス

対策1

お使いのパソコンと本製品が同一セグメント内に無い場合、本製品にサブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定を行う必要があります。AdminManager、または本製品のWebページでサブネットマスク、ゲートウェイアドレスが正しく設定されているか確認してください。

対策2

ネットワーク上にDHCPサーバーが存在していると、IPアドレスの自動割当を行うため本製品に設定したIPアドレスが、各サーバーにより書き換えられてしまう可能性があります。各サーバーに本製品のIPアドレスを自動的に割り当てられないように、設定項目の「DHCPを使用する」のチェックボックスを外して、再度IPアドレスの設定を行ってください。

● 「印刷中にエラーが発生します」

確認

他の人が大量に印刷していたり、大きなサイズのデータを印刷している時に印刷を行った場合、他の人の印刷が終了するまで印刷ができません。長時間待たされた場合、タイムアウトが発生してエラーとなることがあります。その際は、再度印刷を行ってください。

● 「印刷を行うとダイヤルアップが起動します」

確認

ダイヤルアップを「キャンセル」すると、ダイヤルアップアダプターからLANアダプターへ処理が移行され、印刷が開始されます。この現象はWindowsの仕様によります。

付録 PR-LN1-H

[VCCI適合基準について]

この装置は、クラスB機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的にしていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取り扱い説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

ハードウェア仕様

○動作環境条件

温度：+5°C～ +35°C

湿度：20% ～ 80%RH（但し、結露状態でないこと）

○保存環境条件

温度：-10°C～ +50°C

湿度：20% ～ 90%RH（但し、結露状態でないこと）

○適合規格

VCCI Class B

○CPU

32bit RISC CPU

○メモリ

RAM : 2MByte

FlashROM : 1MByte

○ネットワークインターフェイス

10BASE-T/100BASE-TX（自動認識）：1ポート

○プリンターインターフェイス

専用インターフェイスポート（双方向通信対応）

○その他

ディップスイッチ : 4 連スイッチ 1 個

LED ランプ : ステータス (橙)、10BaseLINK (緑)、100BaseLINK (緑) の 3 個

ソフトウェア仕様

○対応プロトコル

- ・TCP/IP

Raw(9100) Port、LPD、FTP、IPP、HTTP、TELNET、DHCP、BOOTP、SNMP、POP3、SMTP、DNS、DDNS、WINS、TCP、UDP、ARP、RARP、IP、ICMP、NetBIOS over TCP

- ・NetBEUI

SMB、NetBIOS

IPv6機能について

製品に搭載されるIPv6機能についての利用方法と制限事項について説明します。

IPv6とは？

TCP/IPはInternetとともに広く普及してきたプロトコルですが、現在のInternet rotocol (IPv4)ではホストアドレスを表わすためのフィールドが32bitしかいないため、将来的にはそのアドレス空間が枯渇してしまう見込みとなっています。

そこで、アドレス空間の拡大を図り、さらに従来のTCP/IPで問題となっていた部分を修正したり、欠けていた機能を追加して、新しいプロトコル体系の取り決めが行われています。それがInternet Protocol, Version 6 (IPv6)です。



注意

- ・ IPv6機能のご利用にあたっては、本製品だけでなくネットワークを構成する各ネットワーク機器（ルーターやパソコン）がIPv6に対応している必要があります。

IPv6に対応する操作

本製品のIPv6機能ではIPv6ネットワークにて以下の操作を行うことができます。

- * TELNET または HTTP による設定
- * FTP または LPR による印刷
- * ping6 コマンドによる応答確認
- * traceroute6 コマンドによる経路追跡

本製品のIPv6アドレス

本製品のリンクローカルアドレスは以下のとおりです。

リンクローカルアドレス : FE80:0:0:0:0:0280:92FF:FE xx : $yyzz$

($xyyz$ は本製品のEthernet アドレスの下3桁です)



参考

- ・ IPv6ネットワーク上にステートレス自動設定機能を持つIPv6ルーターが存在する場合は、ルーターから自動設定することができます。



注意

制限事項

- ・ 本製品のIPv6アドレス設定方法はリンクローカル及びステートレス自動設定の2種類だけです。マニュアル設定およびステートフル自動設定(DHCPv6)には対応していません。
- ・ セキュリティ機能は認証ヘッダー(AH)、暗号ペイロード(ESP)ともに対応していません。
- ・ IPv6ヘッダーのトラフィック・クラスおよびフロー・ラベルは0固定です。
- ・ 巨大ペイロード・オプションには対応していません。
- ・ パケットの断片化/再構成には対応していますが、ヘッダー部を含め3072byteを上限としています。
- ・ SNMPのIPv6 MIBには対応していません。
- ・ IPv6ネットワーク上における付属ツールの一覧検索には対応していません。
- ・ IPv6を利用してバナーページの印刷を行った場合、IPアドレス部分は0.0.0.0として印刷されます。

利用方法

本製品のIPv6機能を有効にする

本製品のIPv6機能は工場出荷時設定にて機能しないよう設定されています。
IPv6機能を有効にするには以下の操作を行います。

- (1) 通常のTCP/IP設定によりIPv4アドレスを割り当てます。
(通常のTCP/IP設定は、本製品に付属するクイックガイドを参照ください。)
- (2) Webブラウザ、または、telnetコマンドを用いて本製品にアクセスします。
- (3) 本製品の「TCP/IP 設定」の「IPv6」項目を“ENABLE”に設定します。
- (4) 設定を保存後、本製品を再起動します。

以上の操作にて本製品のIPv6機能が有効になります。

Windows のIPv6機能を有効にする

ここでは Windows 10 上でのIPv6環境構築例を記載します。その他Windows 環境下でのIPv6環境構築方法に関しましては、各Windows のマニュアルをご参照ください。

(1) Windows のIPv6機能を有効にする

- ・ [スタート]-[Windows システムツール]-[コントロールパネル]を選択します。
- ・ 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックし、「ネットワークと共有センター」の画面左側の「アダプターの設定の変更」をクリックします。
- ・ 使用するネットワークアダプターを右クリックし、表示メニューからプロパティを選択します。
- ・ 使用するネットワークアダプターのプロパティで、「インターネットプロトコルバージョン6(TCP/IPv6)」にチェックを付け、「プロパティ」をクリックします。
- ・ 表示画面で「IPv6アドレスを自動的に取得する」、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

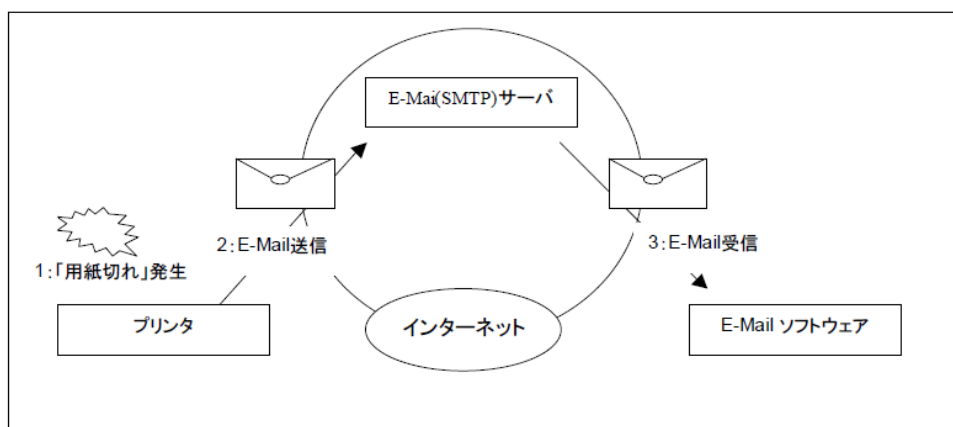
(2) Windows 10 付属の下記ユーティリティーで本製品へのアクセスを行う。

Windows 10 では下記の操作が可能です。

- Webブラウザによる本製品の設定操作
- UNIX用印刷サービスによるアプリケーション印刷操作
- コマンドプロンプトからの“lpr”、“FTP”コマンドを使用する印刷動作
- コマンドプロンプトからの“ping”コマンドを使用する応答確認

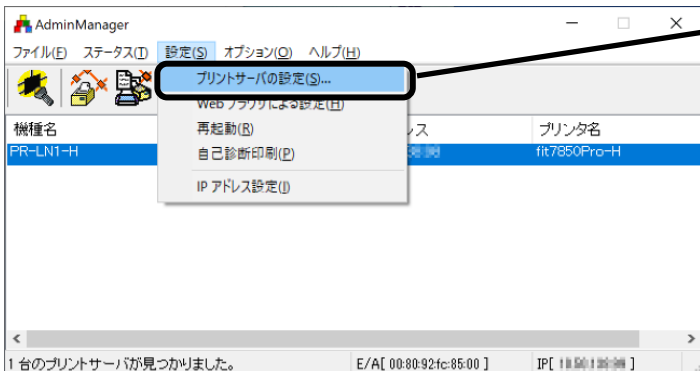
E-Mail警告通知機能 (SMTP)

E-Mail警告通知機能を使用すると、プリンタステータスをE-Mailで検知することができます。本製品はプリンタステータスが変化する毎に、指定のE-Mailアドレス(2アドレスまで指定可能)にE-Mailでプリンタステータスを送信します。この機能を用いるとインターネットを介してプリンタステータスの「用紙切れ」「オフライン」「プリンタエラー」を検知することができます。

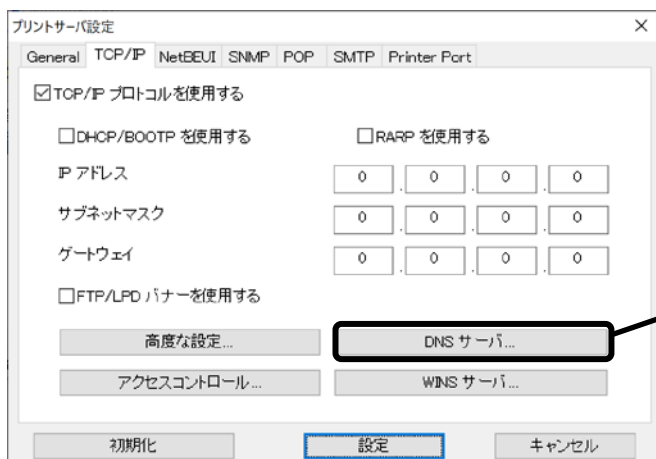


本機能の設定は、AdminManager、Webブラウザ、TELNETで行うことができます。AdminManagerを使って本機能の設定を行う場合は、次の手順で行います。

1. AdminManager を起動し、一覧画面から設定する本製品を選択します。

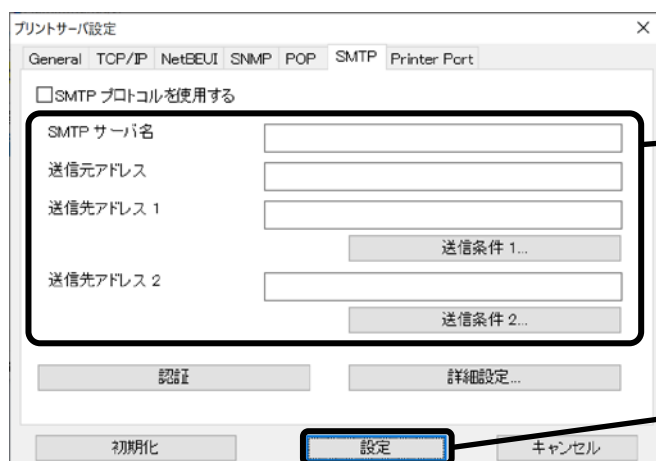
2.  「設定」メニューより「プリンタサーバ設定」を選択します。

3.



「TCP/IP」タブより「DNSサーバ」をクリックし、DNSサーバアドレスを入力します。

4.



「SMTP」タブを選択し、E-Mailの送信先情報を入力します。

「設定」をクリックします。

5. 本製品を再起動した後、設定情報が有効になります。

本製品からは次のようなE-Mail メッセージが送信されます。

```
PR-LN1-H Version 1.6.0
TCP/IP status
IP Address : 192.168.0.200
Subnet Mask : 255.255.255.0
Default Gateway : 192.168.0.254
DNS server(Pri.) : 0.0.0.0
DNS Server(Sec.) : 0.0.0.0
IPv6 status
Address #0000 : FE80::0280:92FF:FE01:2345/64
Address #0001 : FEC0::0001:0280:92FF:FE01:2345/64
Router #0000 : FE80::0200:F4FF:FE90:B9CA D
Router #0001 : FE80::0200:F4FF:FE90:B9CA/64
NetWare status : Disabled
AppleTalk status :Disabled
NetBIOS status
NetBIOS over TCP: Registration completed
NetBEUI : Registration completed
Computer Name : PRO12345
Workgroup : PRINTSERVERS
Master Browser :
[NetBIOS over TCP] :PRO12345
[NetBEUI] :PR112233
E-MAIL status
Session:2 times.
All profiles are disabled.
SMTP status
TO-ADDR1
E-MAIL Address: <xxxxx@fit.fujitsu.com>
Last Session : Nothing
Current status: Waiting for Interval time.
Try to send : 0 times.
Fail to sendr : 0 times.
TO-ADDR2
E-MAIL Address: <xxxxx@fit.fujitsu.com>
Last Session : Nothing
Current status: Idle.
Try to send : 0 times.
Fail to sendr : 0 times.
```

```
[PRINTER STATUS]
00:04:27 <00010100> Offline
00:04:22 <00110100> Paper Empty
```

```
-----
PR-LN1-H
[00:80:92:01:23:45]
-----
```

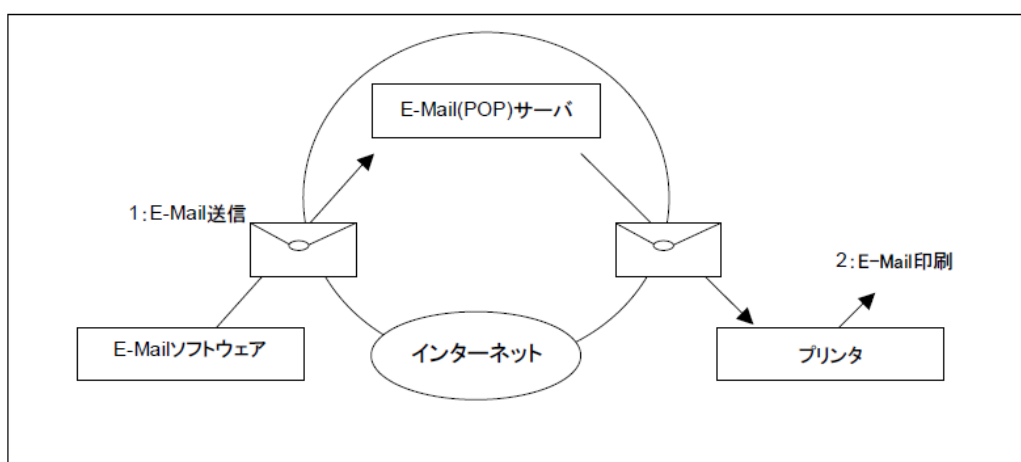
本製品のシステムステータス

プリンターステータス(プリンターエラーが発生した時間(本製品を起動してからの時間)とステータス文字列)

本製品のシグネチャー情報

E-Mail印刷機能 (POP)

E-Mail印刷機能を使うと、インターネットを介して送信されてきたE-Mailデータを直接プリンターに出力することができます。プリンターに出力するE-Mailデータは、E-Mail本文、及び、E-Mailに添付されるテキストファイル(*.txt)、または、プリンタードライバーを介して生成された印刷データファイル(*.prn)を印刷することができます。(ファイル拡張子が“*.prn”, “*.txt” 以外の添付ファイルはファイル名のみが印刷されます。)



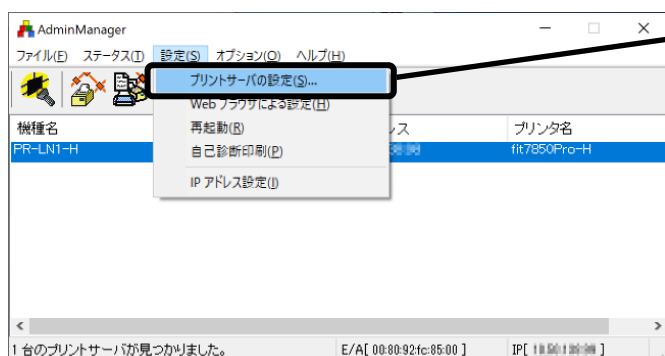
注意

- ・ E-Mail本文およびテキストファイルを印刷する場合は、プリンターがフォントを搭載している必要があります。
- ・ プリンタードライバー生成ファイル(*.prn)を添付印刷する場合は、出力するプリンターのプリンタードライバーで生成された印刷データファイルを添付する必要があります。
- ・ 添付ファイルのみを印刷する場合は、件名に"/nobody"の文字列を含んでE-mail送信してください。

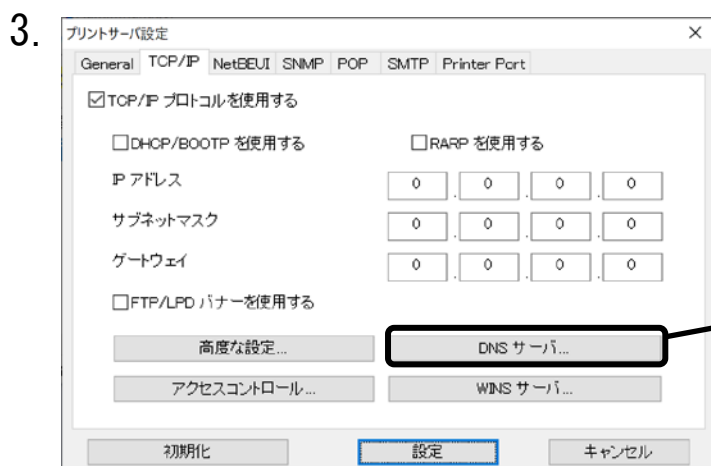
本機能の設定は、AdminManager、Webブラウザー、TELNETで行うことができます。
AdminManagerを使って本機能の設定を行う場合は、次の手順で行います。

1. AdminManagerを起動し、一覧画面から設定する本製品を選択します。

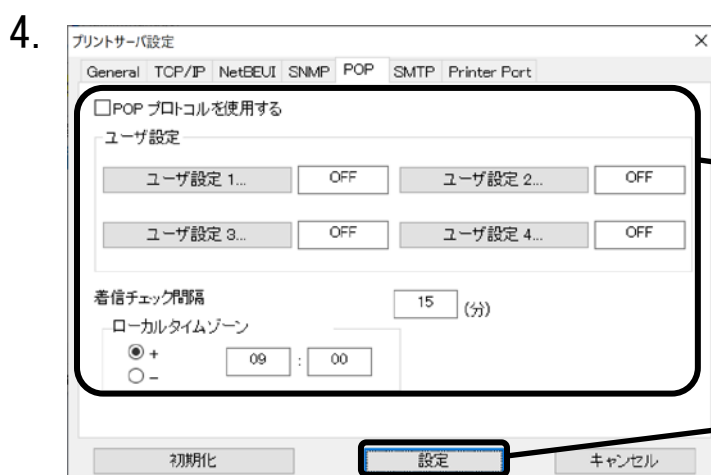
2.



「設定」メニューより「プリントサーバ設定」を選択します。



「TCP/IP」タブより「DNSサーバ」をクリックし、DNSサーバアドレスを入力します。



「POP」タブを選択し、E-Mailの受信アドレス情報を入力します。

「設定」をクリックします。

5. 本製品を再起動した後、設定情報が有効になります。



参考

・ユーザー設定には次の情報を設定することができます。

項目	説明	初期値 (工場出荷時設定)
ユーザ設定を使用する	メール受信機能の使用有無を指定します。	DISABLE
POPサーバ名	メールサーバーのホスト名(IPアドレス)を指定します。	なし
POPユーザ名	メールアカウントのログイン名(ユーザー名)を設定します。	なし
POPパスワード	メールサーバーに接続する際のパスワードを指定します。	なし
POPポート番号	POPポート番号を指定します。	110
APOPを使用する	APOPの使用有無を指定します。	NO
受信したメールを削除する	メールサーバー上のメールを削除するかを指定します。	NO
開封通知を使用する	POP機能により印刷データを受信した際の開封通知メールの送信可否を設定します。開封通知メールはSMTP設定のサーバー情報に対して送信処理を行います。	NO
メール受信制限処理する	メールサイズの最大値(Kbyte)を指定します。	0(制限なし)
フィルタ設定	特定メールのみ印刷するように指定します。 フィルタ設定はタイトル条件("S:文字列")、宛先条件("T:文字列")、同報宛先条件("C:文字列")、送信先条件("F:文字列")の4種類のセンテンスをOR条件(" ")またはAND条件("&")で接続した文字列で設定します。 (例)宛先または同報宛先が"fujitsu"のみを受信する場合 → "T: fujitsu C: fujitsu "	なし

セキュリティレベル設定機能

本製品は任意のプロトコル(サービス)を有効または無効にすることができます。

プロトコル(サービス)を無効にすると、該当プロトコル(サービス)での通信を排除し、有効設定されているプロトコル(サービス)のみ通信を行います。

セキュリティレベル設定機能は3段のセキュリティレベルを用途に応じて設定することができます。設定範囲は下表の通りです。なお、セキュリティレベルをCUSTOMに設定すると、プロトコル(サービス)個々に有効/無効の設定を行うこともできます。

セキュリティレベル	LPR	RAW	IPP	HTTP	HTTPS	Telnet	FTP	SNMP	SETUP Protocol
CUSTOM	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Level1	○	○	○	○	○	×	×	×	○
Level2	×	×	○	×	○	×	×	×	×

◎：有効（設定により無効） ○：有効（有効固定） ×：無効（無効固定）



- ・「CUSTOM」を選択した場合、「HTTP」、「HTTPS」、「Telnet」のいずれかを必ず有効にしてください。
- ・「CUSTOM」を選択し、「HTTPS」のみ有効にする場合は、必ず「SSL設定」項目の「暗号化を使用する」を「ENABLE」に設定し、SSL証明書を作成してください。
- ・本設定はSSL非対応版ファームウェアには対応していません。

セキュア通信印刷機能について

WebブラウザやTelnetでSSLの設定を行う

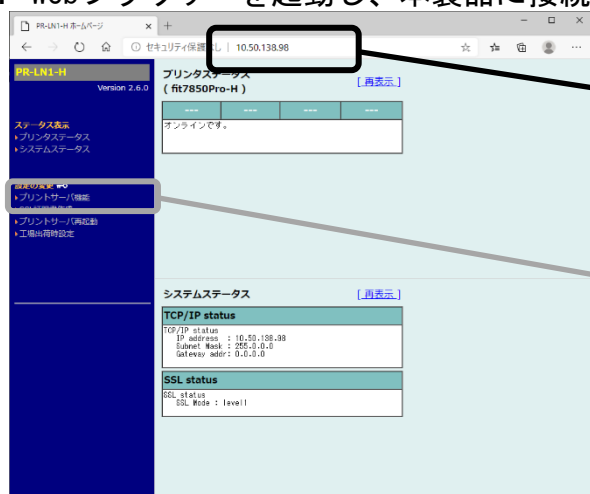
セキュア通信 (SSL通信) をするために、本製品の設定をします。



注意

- ・SSLの設定を行う前に、本製品のIPアドレスを設定する必要があります。設定方法は「第5章 設定に関する機能」を参照してください。
- ・SSLを使用して印刷するには、SSL証明書および有効期限の設定が必要になります。SSL証明書はWebブラウザの「SSL証明書作成」から作成できます。
- ・「IPPポート」以外の印刷ポートでは、セキュア通信印刷機能は使用できません。
- ・「IPPポート」からセキュア通信印刷機能を使用して印刷する場合のURLは “https:// ~ ” と指定してください。“http:// ~ ” と指定すると、セキュア通信印刷機能は動作しません。
- ・SSL対応版ファームウェアを使用すると、一部使用できないプロトコルがあります。詳細については、「第1章 PR-LN1-Hについて」、「付録 PR-LN1-H」を参照してください。

1. Webブラウザを起動し、本製品に接続します。



本製品のIPアドレスを入力します。

「プリントサーバ機能」をクリックします。

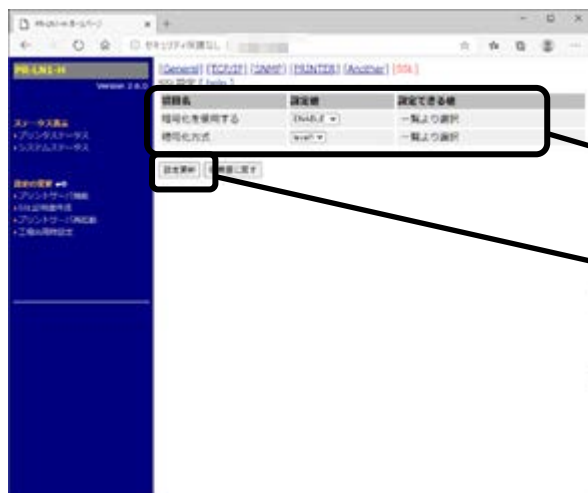
2. ログインユーザー名/パスワードを入力します。



ログインユーザー名に“root”と入力してください。rootパスワードを設定している場合はパスワードに設定している文字列を入力します。

OK をクリックします。

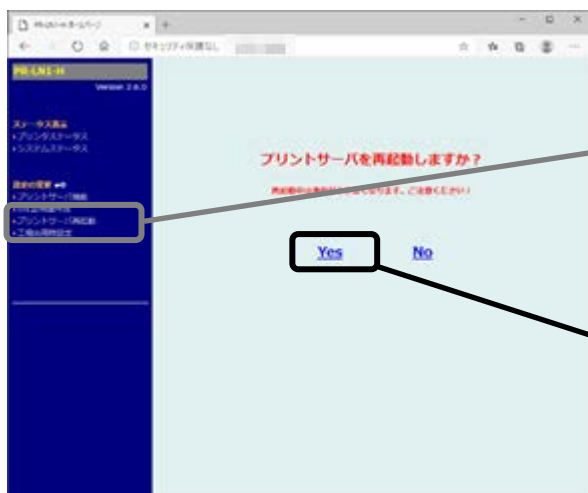
3. 「プリントサーバ機能」から「SSL」をクリックし、SSL設定を“ENABLE”にして設定更新します。



各種設定項目を設定します。

設定更新をクリックします。

4. 本製品を再起動し、設定したSSL機能を有効にします。



「プリントサーバ再起動」をクリックします。

「Yes」をクリックします。

WebブラウザでSSL証明書の設定を行う

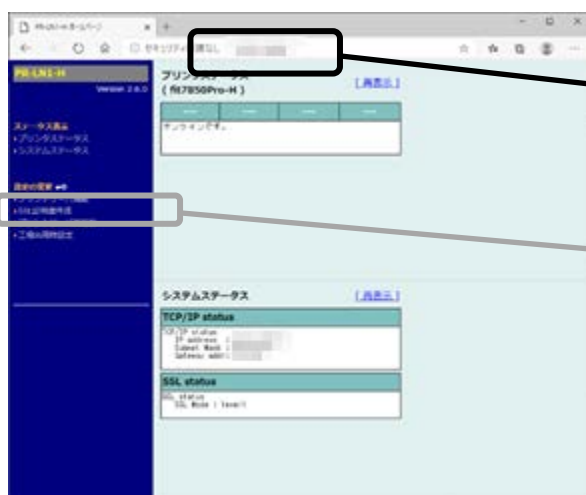
セキュア通信 (SSL通信) をするために、SSL証明書情報を本製品に設定をします。



注意

- ・ SSL証明書情報の設定を行う前に、本製品のIPアドレスを設定する必要があります。設定方法は「第5章 設定に関する機能」を参照してください。
- ・ SSLを使用して印刷するには、SSLの設定が必要になります。SSLの設定方法は本章「WebブラウザやTelnetでSSLの設定を行う」を参照してください。
- ・ 「IPPポート」以外の印刷ポートでは、セキュア通信印刷機能は使用できません。
- ・ 「IPPポート」からセキュア通信印刷機能を使用して印刷する場合のURL は “https:// ~ ” と指定してください。“http:// ~ ” と指定すると、セキュア通信印刷機能は動作しません。

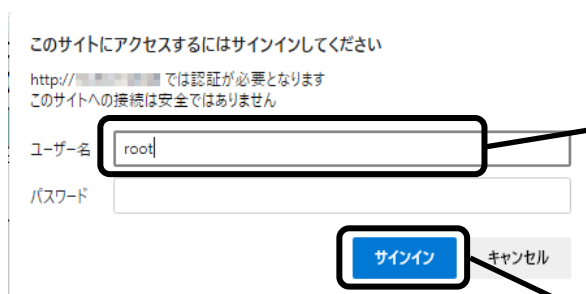
1. Webブラウザを起動し、本製品に接続します。



本製品のIPアドレスを入力します。

「SSL証明書作成」をクリックします。

2. ログインユーザー名/パスワードを入力します。



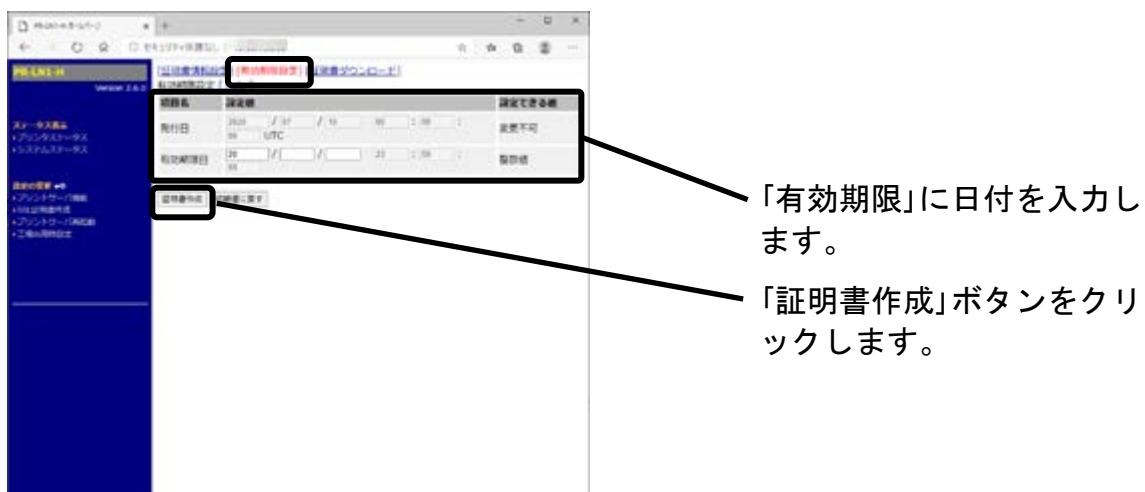
ログインユーザー名に“root”と入力してください。rootパスワードを設定している場合はパスワードに設定している文字列を入力します。

OK をクリックします。

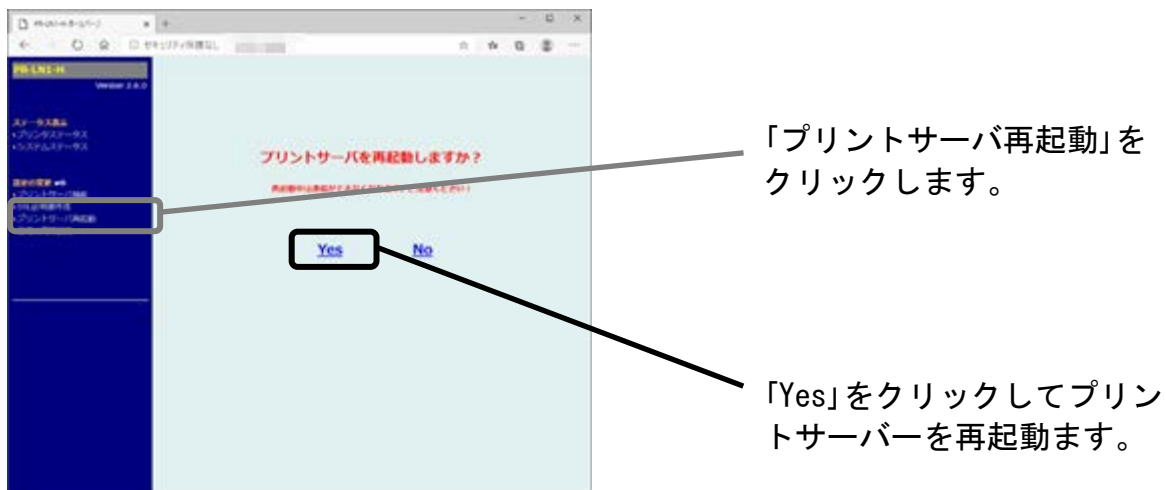
3. [証明書情報設定]を登録します。



4. [有効期限設定]を登録します。



5. 本製品を再起動し、設定したSSL機能を有効にします。



プリンター LANカード PR-LN1-H

オンラインマニュアル

発行日 2022年01月11版
発行責任 富士通アイソテック株式会社

- 本マニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
 - 本マニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の損害については、当社はその責を負いません。
 - 無断転載を禁じます。
-